
刈谷市障害者計画・刈谷市障害福祉計画・

刈谷市障害児福祉計画

策定にかかるヒアリング調査 結果報告書

令和5年3月

刈 谷 市

目次

1	調査の概要	3
	(1) 調査目的	4
	(2) 調査項目	4
	(3) 調査期間	4
	(4) 調査方法	4
	(5) 集計方法	5
	(6) 調査の対象団体とヒアリングの実施日	5
2	調査対象者の概要	9
	(1) 当事者団体の状況	10
	(2) 障害福祉サービス事業所の状況	15
	(3) 団体・事業所の活動について	27
	(4) 災害時に向けた取り組みについて	33
	(5) 障害のある方を取り巻く環境などについて	36
3	団体・事業所からの意見	52
	(1) 障害者福祉施策についての意見	53
	(2) その他の意見	76
4	面談ヒアリングまとめ	79
	(1) 団体・事業所ヒアリング調査結果	80
5	調査票	103

1 調査の概要

(1) 調査目的

当事者団体、障害福祉サービス提供事業所を対象に、刈谷市における障害のある人を取り巻く現状や課題、今後の方向性などをお聞きし、「刈谷市障害者計画・刈谷市障害福祉計画・刈谷市障害児福祉計画」策定の基礎資料とするためにヒアリング調査を実施しました。

(2) 調査項目

①当事者団体

団体の活動について、障害のある人へのサービス提供について、障害のある人を取り巻く環境などについて、今後の障害者施策に求めるものについて、その他

②サービス提供事業所

サービス提供の現状と今後の予定について、災害時に向けた取り組みについて、障害のある人を取り巻く環境などについて、今後の障害福祉施策に求めるものについて、その他

(3) 調査期間

調査シートの配付 : 令和4年11月11日～11月30日

調査シートに基づく面談による聞き取り調査 : 令和5年1月6日～令和5年1月17日

(4) 調査方法

刈谷市内で活動する当事者団体、障害福祉サービス提供事業所を対象に調査シートを配布し、回収しました。

また、面談によるヒアリング調査を実施しました。

(5) 回収結果

区分	当事者団体	障害福祉サービス提供事業所
配布数 (A)	9	100
回収件数 (B)	9	69
回収率 (B/A)	100%	69%

(6) 集計方法

- ・ 選択式の設問については、集計結果をグラフで掲載しています。
- ・ 図表中の「N数 (number of case)」は集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を示しています。
- ・ グラフ中の「%」は、小数第2位を四捨五入しているため、単数回答の設問（1つだけに○をつけるもの）であっても合計が100.0%にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合（いくつでも○をつけるものなど）は「N」に対する各選択肢の回答者数の割合を示しています。

(7) 調査の対象団体とヒアリングの実施日

調査の対象団体および調査実施日は次のとおりです。

■ 当事者団体

団体名	面談実施日
刈谷市身体障害者福祉協会	
刈谷手をつなぐ育成会	令和5年1月6日
刈谷市地域精神障害者家族会	令和5年1月6日
刈谷市肢体不自由児・者父母の会	令和5年1月10日
刈谷地区心身障害児者を守る会	
刈谷市ろう者協会	令和5年1月10日
愛知県難聴・中途失聴者協会	
愛知県自閉症協会・つぼみの会	
らっこちゃん親の会	令和5年1月6日

■障害福祉サービス提供事業所

法人名	事業所名	面談実施日
株式会社愛とすずらん	ヘルパーステーション愛とすずらん	
アサヒサンクリーン株式会社	在宅介護センター刈谷	
株式会社エイト	ほまれの家刈谷店	
有限会社介護の街	ヘルパーステーションゆずのきの家	
特定非営利活動法人かきつばたフレンズ	かきつばたワークス	
株式会社かね・だ	放課後等デイサービス北風と太陽刈谷中央	
	放課後等デイサービス北風と太陽刈谷	
	放課後等デイサービス北風と太陽東刈谷	
刈谷市	刈谷市立しげはら園	
社会福祉法人刈谷市社会福祉協議会	障害者支援事業所	
	身体障害者デイサービスセンターたんぼぼ	
	刈谷市立すぎな作業所	
	刈谷市立くすのき園	
	刈谷市社会福祉協議会訪問介護事業所	
株式会社クラ・ゼミ	こどもサポート教室「きらり」刈谷校	
特定非営利活動法人くるくる	就労準備型Jーくる刈谷	令和5年 1月13日
	個性発展型まなくる	
	みらくる	
	就労支援センターくるくる	
	自立支援センターくるくる	
株式会社こもれび	こもれび第9	
	こもれび第6	
さくらえん合同会社	ヘルパーステーションこころ	
株式会社しごとラボ	しごとラボ	
スマイルナーシング株式会社	訪問介護スマイルナーシング刈谷	
医療法人成精会	地域活動支援センター結	令和5年 1月17日
	多機能型事業所シンフォニー (アンダンテ、アンダンティーノ、レント)	
	相談支援事業所こころ悠々	
テイクオフ株式会社	放課後等デイサービスあそまな・刈谷	
デルタ株式会社	デルタ	
特定非営利活動法人西三河在宅介護センター	西三河在宅介護センター	

法人名	事業所名	面談実施日
株式会社ニチイ学館	ニチイケアセンター幸町	
特定非営利活動法人ハッピースマイルわかば	障がい者グループホームわかばの里	
特定非営利活動法人パンドラの会	ピポットパンドラ	
	S&J パンドラ	
	就労継続支援B型「おかし工房パンドラ」	
社会福祉法人ひかりの家	子どもと福祉の相談センターひかりのかけ橋 (障害児相談支援)	令和5年 1月13日
	子どもと福祉の相談センターひかりのかけ橋 (計画相談・一般相談)	
	こども発達支援センターひかりっこ	
	ひかりワークス鈴の音	
	ひかりの家 (ひかりサポートかざぐるま、ひかりライフ風花、ひかりライフそよ風、ひかりワークス風鈴)	
	放課後等デイサービスひかりきらきら刈谷	
株式会社ピーライフ	まるにこ刈谷	
株式会社ベストサポート	すてっぷ	
株式会社誠	放課後デイサービスやまととなでしこ刈谷	
社会福祉法人観寿々会	刈谷市つくし作業所	令和5年 1月17日
	障害者支援施設ペガサス	
	生活介護ハロポンス (ハロポンス、グルホンス)	
	ペガサス・II (特定相談支援事業所ペガサス・II、ペガサス・II)	
株式会社ミライデアル	みらい訪問介護ステーション	
株式会社杜の里	放課後等デイサービスわかばの杜・刈谷	
株式会社悠	日中一時支援なんてん	令和5年 1月17日
	障害児通所支援なんてん	
	ヘルパーステーションなんてん	
	短期入所なんてん	
合同会社らっく	放課後等デイサービスみらい	
特定非営利活動法人ラルあゆみ	ラルあゆみ	
合同会社リアン	にじのかけら	
一般社団法人ルーエ	いこいプレイス	

法人名	事業所名	面談実施日
株式会社 craft21	児童デイサービス esse	
一般社団法人 IML	オモロワークスB	
一般社団法人 KOTONASU	コトナスキルト	
	コトナスホーム	
株式会社 Life plus	キッズタウン Jump 刈谷店	
株式会社 LITALICO パート ナーズ	LITALICO ワークス刈谷	
Man to Man Passo 株式会社	パッソ刈谷校	
株式会社 YC	チャイルドウィッシュ刈谷松坂	
	チャイルドウィッシュ刈谷	

2 調査対象者の概要

(1) 当事者団体の状況

ア 当事者団体の概要

① 刈谷市身体障害者福祉協会

活動内容	構成員の人数	活動者の平均年齢
1954 (S29) 年 会員相互の連携を図り、自立更生と福祉の増進に努め、進んで社会福祉に貢献することを目的に会員 89 名でスタート 1963 (S38) 年 手帳所持者の 99%361 名が加入 1986 (S61) 年 628 名最高会員数 以後減少し続ける 2022 (R4) 年 137 名 実施している取り組み 4月総会 6月ポッチャ大会 8月演芸大会 10月福祉フェスティバル 11月1日研修旅行 12月防災教室 2月会員全体懇親会 県のポッチャ大会、西三河カラオケ大会、刈谷障害フォーラム、福祉交流エリアワークショップ	136 人	73 歳

② 刈谷手をつなぐ育成会

活動内容	構成員の人数	活動者の平均年齢
障害があっても地域の中で生き生きと過ごすことができるよう会員相互の親睦や障害児・者への理解を広めることを行っている。(知的障害・発達障害対象) 1963 (昭和 38) 年 4 月発足。 実施している取り組み ・月例会 (行事内容、会議報告 (情報案内) など) 月 1 回 ・福祉実践教室 (グリーンピース) ・ぴゅあクラブ (余暇支援) 年 7 回程度 ・各種行事 (親子バス旅行、福祉フェスティバル、クリスマス会、勉強会、施設見学など)	84 人	40 歳

③ 刈谷市地域精神障害者家族会

活動内容	構成員の人数	活動者の平均年齢
約 20 年前に保健所の指導で会を設立した。 主な活動 支え合い、学び合い、外へ向かっての働きかけ	11 人	80 歳

④刈谷市肢体不自由児・者父母の会

活動内容	構成員の人数	活動者の平均年齢
<p><目的>会員相互の連絡をはかり、肢体不自由児・者の療育育成の徹底を期し、もって福祉の推進をはかること。</p> <p><対象者>刈谷市在住の肢体不自由児・者を家族にもつ父母 昭和36年4月に設立</p> <p>実施している取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが楽しむ活動として、クリスマス会、サマースクールの開催 ・子どもの将来について学ぶ活動として、研修会、施設見学会の実施 ・子どもの将来への要望を伝える活動として市やひかりの家への要望書の提出 そのために定期総会・役員会の実施、会報やリーフレットの発行を行っている。 	40人	55歳

⑤刈谷地区心身障害児・者を守る会

活動内容	構成員の人数	活動者の平均年齢
<p>【目的】障害のあるなしにかかわらず、だれもが住みよい街づくりに取り組むとともに、障害児者に関する理解を深めること 【対象】 障害児者支援に関心のある人全般</p> <p>【開始時期】 昭和40年</p> <p>実施している取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害児者福祉に関わる啓蒙活動 ・社会福祉法人ひかりの家の活動支援 ・チャリティーイベント（コンサート、講演会など） ・野外活動、レジャーの主催など 	1,000人	60歳

⑥刈谷市ろう者協会

活動内容	構成員の人数	活動者の平均年齢
<ul style="list-style-type: none"> ・ろう者の暮らし、生活を良くなるようにと行政との交渉（防災も含む） ・手話言語として、手話を広める ・手話通訳 <p>実施している取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手話講座 ・刈ろう会の役員会（1回/月） 	52人	42歳

⑦愛知県難聴・中途失聴者協会

活動内容	構成員の人数	活動者の平均年齢
目的・・・聴覚障害への支援（要約筆記） きっかけ・・・同障害者の紹介で入会する 対象者・・・難聴者、中途失聴者 活動開始・・・平成 11 年 <u>実施している取り組み</u> 小・中・高校の福祉実践教室	18 人	50 歳

⑧愛知県自閉症協会・つぼみの会

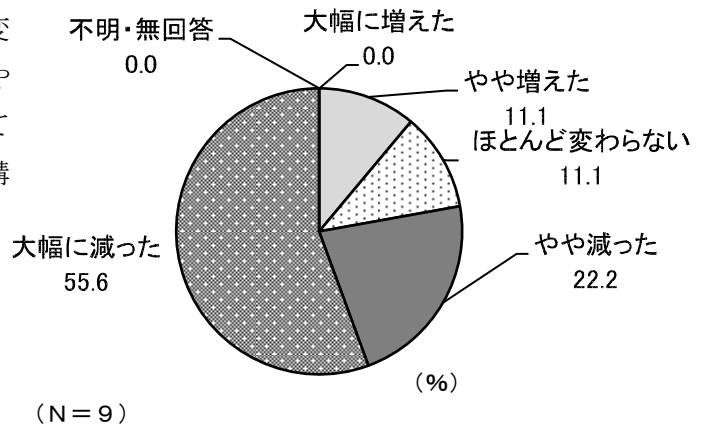
活動内容	構成員の人数	活動者の平均年齢
昭和 42 年 5 月名古屋大学医学部附属病院内で発足した。その後愛知県自閉症協会となり、自閉症の子どもを持つ親と支援者の会。平成 24 年に法人化して活動している。 <u>実施している取り組み</u> <ul style="list-style-type: none"> ・自閉症児（者）の子を持つ本人・家族への支援事業（音楽あそび。体験あそび、きょうだい会、キャンプ） ・支援者向け研修（オンライン含む） ・情報発信、毎月伝言板、会報などの発行 ・愛知県名古屋市から委託の発達障害者支援体制事業（ペアレントメンター養成・研修、コーディネーター事業）事務局 	450 人	55 歳

⑨らっこちゃん親の会

活動内容	構成員の人数	活動者の平均年齢
<u>実施している取り組み</u> 茶話会（定期月 1 回）－しゃべりたいことをしゃべる 勉強会（定期年 2 回）－親の会先輩保護者による 講演会（不定期 2022 は 2 回）－外部講師による	会員制はとっていないので正式な構成員はいない（およそ 20 人くらいの人が定期的に参加）	45 歳

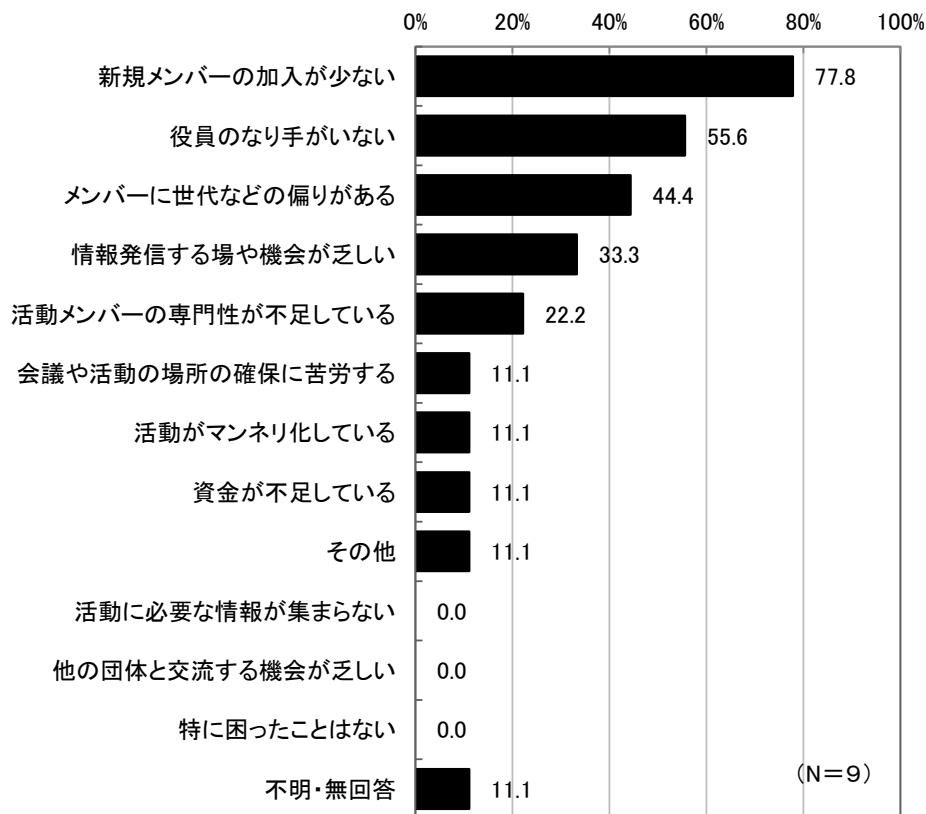
イ 構成員数の変動について

おおよそ5年前に比べ、構成員の人数の変化については、「やや増えた」が11.1%、「やや減った」「大幅に減った」を合わせて77.8%となっています。ほとんどの団体で構成員が減少しています。



ウ 活動上の課題について（複数回答可）

活動上の課題については、「新規メンバーの加入が少ない」が77.8%と最も高く、次いで「役員のなり手がいない」と続いています。いずれも人材不足が課題となっています。

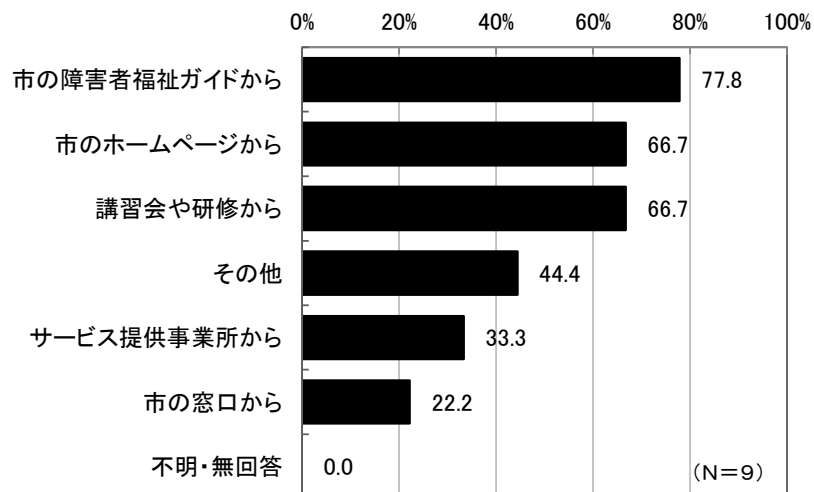


◆その他の回答

- ・コロナ流行の影響があり、活動が実施できない。(刈谷市肢体不自由児者父母の会)

エ 障害福祉に関する情報入手手段について（複数回答可）

障害福祉に関する情報入手手段については、「市の障害者福祉ガイドから」が 77.8%と最も高く、次いで「市のホームページから」「講習会や研修から」と続いています。



◆その他の回答

- ・愛知県知的障害者育成会の会議（刈谷手をつなぐ育成会）
- ・刈谷市ボランティア活動センター、社協ボランティアセンター（刈谷地区心身障害児者を守る会）
- ・交渉の時に聞く（刈谷市ろう者協会）
- ・身体障害者の会（会員でもある）（愛知県難聴・中途失聴者協会）

(2) 障害福祉サービス事業所の状況

ア 障害福祉サービス事業所の今後の事業展開

サービス提供事業所の今後の提供サービスの予定は次のとおりです。(令和4年11月時点)

法人名	事業所名	令和4年11月現在の提供サービス		今後実施予定のサービス		
		サービス	対象者数	サービス	定員	時期
株式会社 愛とすずらん	ヘルパーステーション 愛とすずらん	居宅介護	6			
		重度訪問介護	0			
		同行援護	1			
		移動支援事業	3			
アサヒサンク リーン株式会 社	在宅介護センター刈谷	移動入浴事業	6			
株式会社 エイト	ほまれの家刈谷店	就労継続支援A型	-			
有限会社 介護の街	ヘルパーステーション ゆずのきの家	居宅介護	6			
		重度訪問介護	6			
		移動支援事業	3			
特定非営利活 動法人かきつ ばたフレンズ	かきつばたワークス	就労継続支援B型	18			
株式会社 かね・だ	放課後等デイサービス 北風と太陽刈谷中央	放課後等 デイサービス	15			
		児童発達支援	1			
	放課後等デイサービス 北風と太陽刈谷	放課後等 デイサービス	19			
		児童発達支援	1			
	放課後等デイサービス 北風と太陽東刈谷	放課後等 デイサービス	250			
		児童発達支援	10			
刈谷市	刈谷市立しげはら園	児童発達支援	28			
		保育所等訪問支援	11			

法人名	事業所名	令和4年11月現在の提供サービス		今後実施予定のサービス		
		サービス	対象者数	サービス	定員	時期
社会福祉法人 刈谷市社会 福祉協議会	障害者支援事業所	計画相談支援 (一般相談)	142			
	身体障害者デイサービスセンターたんぽぽ	生活介護	160			
	刈谷市立すぎな作業所	生活介護	9			
		就労継続支援B型	40			
	刈谷市立くすのき園	生活介護	32			
	刈谷市社会福祉協議会 訪問介護事業所	居宅介護	35			
		重度訪問介護	1			
		同行援護	3			
移動支援事業		10				
株式会社 クラ・ゼミ	こどもサポート教室 「きらり」刈谷校	児童発達支援	24			
		放課後等 デイサービス	41			
特定非営利活 動法人 くるくる	就労準備型 J-くる刈谷	放課後等 デイサービス	23			
	個性発展型まなくる	放課後等 デイサービス	40			
	みらくる	生活介護	9			
		就労継続支援B型	7			
	就労支援センター くるくる	就労移行支援	6			
		就労定着支援	3			
	自立支援センター くるくる	自立訓練 (生活訓練)	1			
心身育成型 ふいっとくる	放課後等 デイサービス	33				
株式会社 こもれば	こもれば第9	就労継続支援B型	23	就労継続支援A型	60	令和5年 5月
	こもれば第6	就労継続支援B型	27	就労継続支援A型	60	令和5年 5月
さくらえん合 同会社	ヘルパーステーション こころ	居宅介護	21			
		重度訪問介護	0			
		同行援護	1			
株式会社 しごとラボ	しごとラボ	就労継続支援A型	5			
スマイルナー シング株式会 社	訪問介護スマイルナー シング刈谷	居宅介護	0			
		重度訪問介護	0			

法人名	事業所名	令和4年11月現在の提供サービス		今後実施予定のサービス		
		サービス	対象者数	サービス	定員	時期
医療法人 成精会	地域活動支援センター 結	地域活動支援 センター事業	20			
	多機能型事業所 シンフォニー	自立訓練 (生活訓練)	1			
		就労移行支援	1			
		就労継続支援B型	23			
	相談支援事業所 悠々	計画相談支援 (一般相談)	75			
		地域移行支援	0			
地域定着支援		0				
テイクオフ 株式会社	放課後等デイサービス あそまな・刈谷	放課後等 デイサービス	4			
デルタ 株式会社	デルタ	就労継続支援A型	5			
特定非営利活 動法人 西三河在宅介 護センター	西三河在宅 介護センター	居宅介護	12			
		施設入所支援	8			
		重度訪問介護	1			
		同行援護	1			
株式会社 ニチイ学館	ニチイケアセンター 幸町	居宅介護	9			
		同行援護	2			
		移動支援事業	10			
特定非営利活 動法人ハッピ ースマイルわ かば	障がい者グループホー ムわかばの里	共同生活援助 (グループホー ム)	2			
特定非営利活 動法人 パンドラの会	ピポットパンドラ	就労移行支援	2			
	S&Jパンドラ	就労移行支援	-			
		就労定着支援	-			
	就労継続支援B型「お かし工房パンドラ」	就労継続支援B型	4			

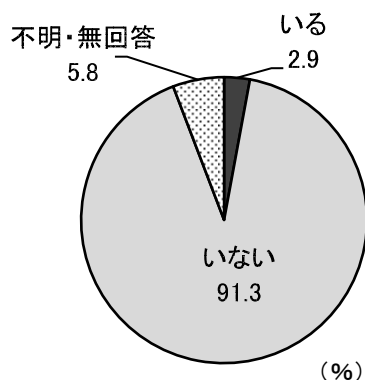
法人名	事業所名	令和4年11月現在の提供サービス		今後実施予定のサービス			
		サービス	対象者数	サービス	定員	時期	
社会福祉法人 ひかりの家	子どもと福祉の相談センター ひかりのかけ橋 (障害児相談支援)	障害児相談支援	76				
	こども発達支援センターひかりっこ	児童発達支援	21				
		保育所等訪問支援	8				
	ひかりワークス鈴の音	生活介護	8				
		短期入所 (ショートステイ)	0				
	子どもと福祉の相談センター ひかりのかけ橋 (計画相談・一般相談)	計画相談支援 (一般相談)	22				
		地域移行支援	-				
		地域定着支援	-				
	ひかりの家	重度訪問介護	11				
		生活介護	19				
		共同生活援助 (グループホーム)	11				
短期入所 (ショートステイ)		5					
放課後等デイサービス ひかりきらきら刈谷	放課後等 デイサービス	19					
株式会社 ピーライフ	まるにこ刈谷	児童発達支援	5				
		放課後等 デイサービス	17				
株式会社ベストサポート	すてっぷ	就労継続支援B型	18				
株式会社誠	放課後デイサービスや まととなでしこ刈谷	放課後等デイサービス	10	放課後等デイサービス	10	令和5年 7月	
社会福祉法人 観寿々会	刈谷市つくし作業所	就労継続支援B型	45				
	障害者支援施設 ペガサス	施設入所支援	36				
		生活介護	36				
		短期入所 (ショートステイ)	2				
	生活介護ハロポンズ	生活介護	20	共同生活援助 (グループホーム)	10	令和6年 4月	
		共同生活援助 (グループホーム)	19				
	ペガサス・II		生活介護	25			
			短期入所 (ショートステイ)	16			
施設入所支援			23				
計画相談支援 (一般相談)			7				

法人名	事業所名	令和4年11月現在の提供サービス		今後実施予定のサービス		
		サービス	対象者数	サービス	定員	時期
株式会社 ミライデアル	みらい訪問介護ステーション	居宅介護	6			
		重度訪問介護	0			
株式会社 杜の里	放課後等デイサービス わかばの杜・刈谷	放課後等 デイサービス	18			
株式会社悠	日中一時支援なんてん	日中一時支援事業	28			
		放課後等 デイサービス	13			
	ヘルパーステーション なんてん	児童発達支援	2			
		居宅介護	6			
		重度訪問介護	-			
	短期入所なんてん	同行援護	1			
		短期入所(ショートステイ)	25			
合同会社 らっく	放課後等デイサービス みらい	放課後等 デイサービス	7			
特定非営利活 動法人 ラルあゆみ	ラルあゆみ	居宅介護	12			
		重度訪問介護	1			
		同行援護	2			
		移動支援事業	15			
		日中一時支援事業	23			
合同会社 リアン	にじのかけら	児童発達支援	1	児童発達支援	2	令和5年 10月
	にじのかけら	放課後等 デイサービス	23	放課後等デイサー ビス	8	令和5年 10月
一般社団法人 ルーエ	いこいプレイス	就労継続支援B型	6			
株式会社 craft21	児童デイサービス esse	児童発達支援	-			
		放課後等 デイサービス	-			
一般社団法人 IML	オモロワークスB	就労継続支援B型	15	生活介護	未定	未定
一般社団法人 KOTONASU	コトナスキルト	生活介護	6			
		就労継続支援B型	7			
	コトナスホーム	共同生活援助 (グループホーム)	3			
株式会社 Life plus	キッズタウン Jump 刈谷店	放課後等デイサー ビス	26			
株式会社 LITALICO パー トナーズ	LITALICO ワークス刈谷	就労移行支援	7	就労定着支援	未定	未定

法人名	事業所名	令和4年11月現在の提供サービス		今後実施予定のサービス		
		サービス	対象者数	サービス	定員	時期
Man to Man Passo 株式会社	パッソ刈谷校	就労移行支援	15	就労継続支援B型	10	令和5年 4月
株式会社 YC	チャイルドウィッシュ 刈谷松坂	児童発達支援	13	児童発達支援	3	令和5年 4月
		放課後等 デイサービス	18	放課後等デイサー ビス	7	令和5年 4月
	チャイルドウィッシュ 刈谷	放課後等 デイサービス	1	放課後等デイサー ビス	7	令和5年 4月
				児童発達支援	3	令和5年 4月

イ 事業所においてピアサポート活動に従事する方の有無

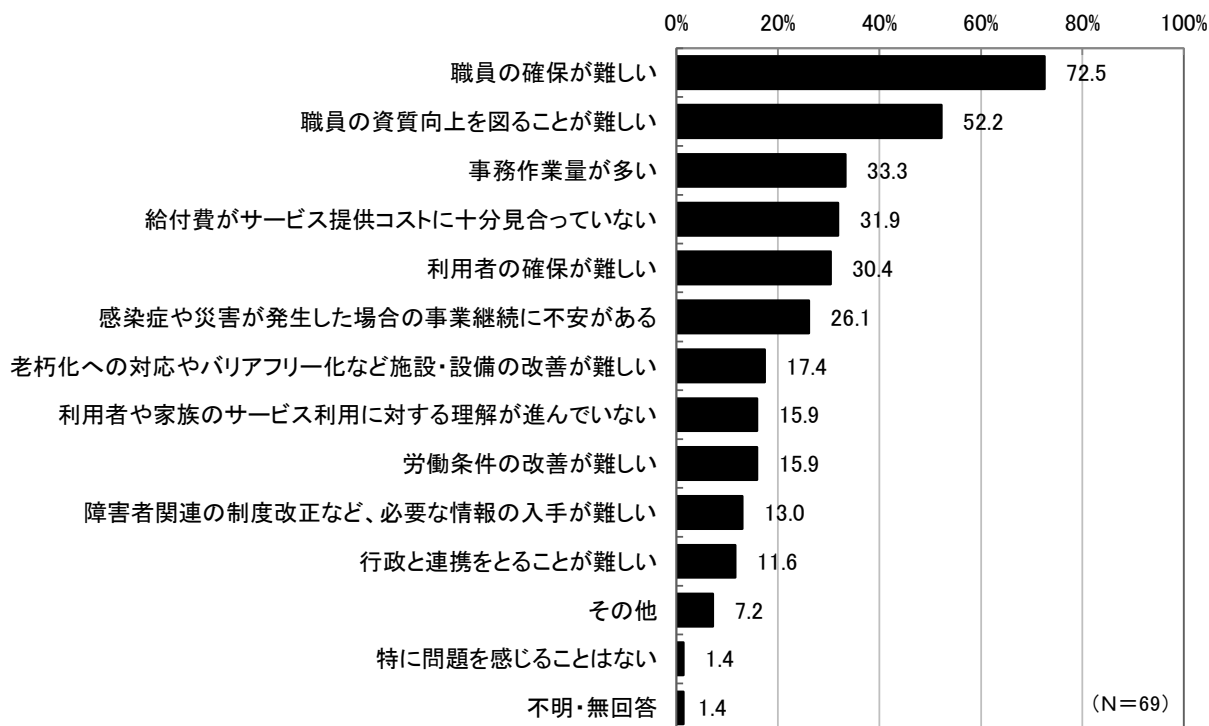
ピアサポート活動に従事する方は、「いる」が2.9%、「いない」が91.3%となっています。



(N=69)

ウ 事業運営上の課題について（複数回答可）

事業運営上の課題としては、「職員の確保が難しい」が72.5%と最も高く、次いで「職員の資質向上を図ることが難しい」となっています。人材の確保・育成が課題となっています。



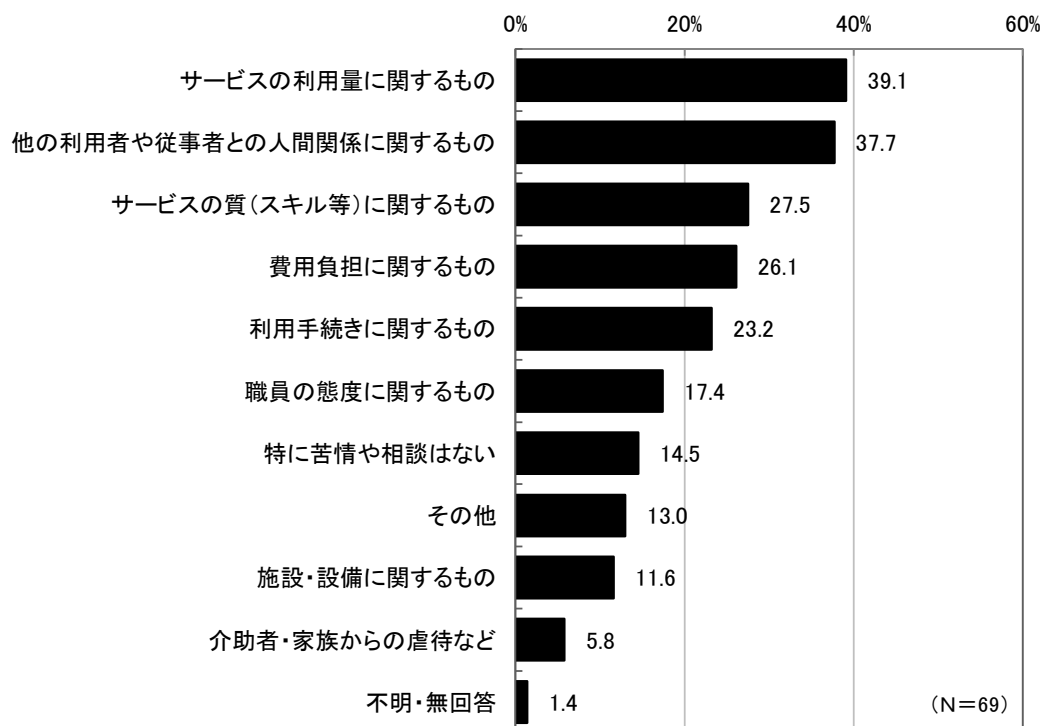
(N=69)

◆その他の回答

- ・世話人職員の高齢化
- ・サービス提供が困難になった際に新しい事業所をサービス提供事業所が探さないといけない点
- ・単価が徐々に下がってきていること
- ・利用定員上限をもう少し緩和してほしい

エ 利用者からの相談について（複数回答可）

利用者からの相談については、「サービス利用量に関するもの」が39.1%と最も高くなっています。次いで「他の利用者や従事者との人間関係に関するもの」「サービスの質（スキル等）に関するもの」と続いています。サービスの量・質に対する要望が高くなっています。



◆その他の回答

- ・利用者の衣類について
- ・利用者の体調等について
- ・サービスの支給内容について
- ・児童を取り巻く行政のことやスキルについて
- ・家族の状況、今後の進路等について
- ・その他手続き、お金について
- ・家庭内の問題について

オ ユーザーや家族から求められる要望

[事業所のみ]

内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門職（臨床心理士、言語聴覚士、作業療法士、理学療法士等）による、療育指導や保護者相談がより多く受けられるようになるとよい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ カラオケ、スポーツは楽しく参加できているので、回数を増やすなどの対応は可能か。 ・ 一人で過ごすことが苦手な子を巻き込んで楽しめるプログラムを検討してほしい。 ・ プログラムの希望を伝える手段は何があるか（アンケートは年1回しかないので随時伝えられる機会を設定できるか）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 送迎に関して。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 制度上支給決定できないこともあろうかと思うが、ヘルパーの利用希望時、同居する家族がいるので支給できない、できるようになるための訓練的な利用が認められにくい、（ヘルパー利用だけでなく）制度の柔軟な適用を認めていただきたい。 ・ 「親亡き後の生活」についてどうしたらよいか。⇒個々の状況によるが相談支援事業所として対応はしているように思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ時など、家族が窮地の時に、当人の行き場がない。 ・ 日中一時支援をやっている事業所が少ない。 ・ 長期休み中の放デイの利用時間が、共働き世帯では時間が合わない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日中一時支援や短期入所などの事業所が少ない。 ・ 身体障害者の一人暮らしを確立できる体制が整わない。 ・ 重度心身障害者の親亡き後の受け入れ先が少ない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所等訪問支援の回数を増やしてほしい。 ・ 言語指導など専門療育プログラムを行ってほしい。 ・ 健康増進、成長発達の促進、情緒・社会性の育成を期待する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 送迎、入浴、イベントの充実。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要物品や備品を準備するのが大変なので施設で準備してほしい。（その場合、お金の請求してもらえばよい） ・ 365日型にしてほしい。 ・ 緊急時の対応をしてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の宿題に加え、家庭で取り組んでいるドリルなども取り組ませてほしい。 ・ 家庭の事情等により、送迎時刻や順番の調整を希望される利用者が多い。 ・ 外出の機会を増やしてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 送迎や病院受診など、家族では対応が難しくなった際の代替がないサービスについて。 ・ 親亡き後の本人の生活について。

内容
<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化が気になる。 ・駐車場のスペースを改善してほしい。 ・土曜日や祝日に開所してほしい。 ・1日を通して班にいてくれる職員は1人いてほしい。 ・施設外就労の変更点について、文書で教えてほしかった。 ・掃除と着替えの時間をグループごとに分けるなど、密にならないよう工夫してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の怪我が発生した際、連絡帳のみの報告になってしまい、後日保護者から「しっかり電話でも様子などを伝えてほしい」と言われた。
<ul style="list-style-type: none"> ・家族なりにやってきた介護方法を継続してサービス提供側もやってほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・他の利用者の態度が気になる等。
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者本人が高齢などの理由から送迎サービスをしてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・工賃が少ない。 ・送迎時間が来てほしい時間ではない。 ・職員の支援方法が良くない。
<ul style="list-style-type: none"> ・短期入所の利用者の家族からもう少し多く利用できないかとの相談。コロナの影響で外出、帰省の相談。
<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームや生活介護では、ご家族が利用者を病院に受診することが困難で定期受診や突発的な受診への対応の希望。
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の生活において、きめ細やかな様子観察や配慮、医療的な処置等。
<ul style="list-style-type: none"> ・提供内容に関する質問が多い。
<ul style="list-style-type: none"> ・送迎関係（就労継続支援B型所属でも送迎はできるのか、どこまで送迎できるのかなど）
<ul style="list-style-type: none"> ・就労移行の利用日数を少しずつ増やしていきたい。 ・自分の気持ちを相手に伝えたり、相談できるようになりたい。 ・怒りや感情のコントロールを学びたい。 ・自分に合った就職先をみつきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・本人がサービスを受ける気持ちにならないため、親として何をしたらよいかわからない。
<ul style="list-style-type: none"> ・将来の進路について知りたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の不安な気持ちや心配事を聴いてほしい。 ・家に届く書類をみてほしい。必要なものには記入等手伝ってほしい。 ・安心して事業所で過ごしたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・本人の希望に関係なく母が依頼する衣服のコーディネートをしてもらいたい。 ・サービス提供時間の変更。
<ul style="list-style-type: none"> ・短い時間に、多くの事をやってほしい方が増えている。(30分で、全身清拭、着替え、陰洗、オムツ交換、口腔ケア etc をやってほしい。時間でおさまらない旨を伝えているが、毎回同じように言われる。)

内容
<ul style="list-style-type: none"> ・時間指定で送迎に来てほしい。送ってほしい。 ・利用される予定日に他害をしてしまう利用者との同月日の利用は困る。 ・送迎車も同乗は控えてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉サービスの理解が進んでいないため、計画書にないサービスを求められることがある。
<ul style="list-style-type: none"> ・月々の利用負担額については、ほとんどの家族から細かく話をされる。
<ul style="list-style-type: none"> ・刈谷市在住の方ではないが、海外から転居されてきた利用者で前年度の収入を証明できず、上限負担額が平均年収から算出された。
<ul style="list-style-type: none"> ・共同負担となる光熱費の配分。
<ul style="list-style-type: none"> ・正社員として就職したい。 ・もっと給与がほしい。 ・合理的配置をしてもらえる障害者枠で就職したい。
<ul style="list-style-type: none"> ・工賃をあげてほしい。 ・様々な事務手続きの方法・書き方等を教えてほしい。 ・障害年金や生活保護だけでの生活・将来が不安で相談に乗ってほしい。 ・利用者同士やその他人間関係の悩み相談に乗ってほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・個々の課題ではあるものの、事業所内での人間関係の相談が多い。その結果として在宅ワークを選択される利用者がある。 ・「あの人が〇〇と言われた。」「嫌な顔された。」など、相手方の対応の悪さだけでなく、本人の受止め方や受け流し方などが課題であることも多い。
<ul style="list-style-type: none"> ・障害の特性を理解して働けますかという相談に対してA型なので平日は必ず出勤してほしいと伝えると毎日4.5時間働くの辛いと言う声はきく。
<ul style="list-style-type: none"> ・利用にあたっての手順がわからないため教えてほしい。 ・早く就職したい。(早く利用を開始したい)
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力の向上。 ・気持ちのコントロールができるように。 ・日々のご家族や学校での相談。
<ul style="list-style-type: none"> ・利用日数を増やせないか、曜日の変更希望。
<ul style="list-style-type: none"> ・金銭面で苦しい家庭は利用料を支払えない家庭もある。金銭面だけでなく保護者もグレーのお宅は利用日のやり取りや受給者証の発行や手続きも難しく、本当に困っている子どもたちが支援を受けにくい現状がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・学習面の指導、作業など訓練。
<ul style="list-style-type: none"> ・対人関係やコミュニケーション能力の向上を望む保護者が多い。 ・宿題サポートや着替え、排泄などもリクエストが多い。 ・働いている保護者の増加により送迎時間のフレキシブルな対応を求められる。
<ul style="list-style-type: none"> ・支援をたくさん受けたいという要望がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・主に利用児童の問題行動についてのアセスメントについて。
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの学校卒業後の居場所をどのように確保していくとよいのか。

内容

- ・学校以外での友達作りができたり、身体を動かして元気に遊べる場所や、家庭では経験させてくいを体験できる場所へ出かける機会を作ることや、生活の自立に向けた排泄や身支度に関しての支援。

(3) 団体・事業所の活動について

ア 事例・取組の共有

[団体]

事例	団体名
<ul style="list-style-type: none"> ・刈谷障害フォーラム市内9団体の障害者の代表が集い、年に4回程会議を開いている。協会の会員の高齢化が進み、会員役員だけでは活動ができない場合も多く、企業のボランティアを巻き込んで進めることが多くなった。 	<p>刈谷市身体障害者福祉協会</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・会の仕組みを学校や行政など公からの発信ができるとよい。 ・広報の活用や学校を通じて保護者に伝わるとよい。(安城特別支援学校「刈谷交流会」(各地区の保護者)との連携は比較的スムーズな状態) ・Facebookの投稿で少しずつ広まってきているがまだまだ難しい。 	<p>刈谷手をつなぐ育成会</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・「かきつばた会ご入会のおすすめ」について添付資料あり (取り組み内容：支え合い(相互支援)、学び合い(知見を捨てる)、外へ向かっての働きかけ(社会的運動)) 	<p>刈谷市地域精神障害者家族会</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマス会を毎年開催している。会としてはもっとも大切な行事でもあるこの時に成人の祝いも行っている。この行事にボランティア「ひまわり娘」(特別支援学校の先生)が歌や演奏、ゲームを毎年うけもち本当に助かっている。 ・サマースクールではひまわり娘さんの歌や演奏での楽しみ活動、会員の研修会や施設見学会を行い学ぶ機会をもうけている。 ・刈谷市で活動する10の障害者団体が「刈谷障害フォーラム」を作り、3か月に1回活動・話し合い・情報交換を行っている。 ・本年度は障害者防災に取り組んでいる。 	<p>刈谷市肢体不自由児者父母の会</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・障害児者当事者、家族の余暇支援として、野外活動、文化施設などへ出かけている。(月1回程度) ・障害児者支援、福祉向上をねらいとして、大掛かりなイベント(チャリティーバザー、コンサート、講演会)を実施している。またその収益を社会福祉法人の運営補助として寄付している。(年1回程度) ・地域の協力店(約10か所)とコラボして店頭募金を呼び掛けている。(日常的) 	<p>刈谷地区心身障害児者を守る会</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・「刈谷市ろう協会」という団体があることを市民や障害のある人に広めていきたい。 ・毎年9/23に国際ろう者週間として手話言語の国際デーのPR。(手話普及とろう者の権利のための記念日) ・ろう者は情報の確保不足。 ・愛知県聴覚障害児・者の暮らしを読んでもほしい。(刈谷市も同様) 	<p>刈谷市ろう者協会</p>

事例	団体名
<ul style="list-style-type: none"> ・耳マークの啓発。耳の日（3月3日）刈谷駅で耳マーク入りティッシュを配る。聴覚障害者は、外見では判断できないため、特に私のような中途失聴者は話すことができるため、聞こえないから書いてくださいと言っても理解されない。 ・聞こえない人はしゃべれないと思われがちで、くり返して聞くと嫌な顔をされることがしばしばある。 	愛知県難聴・中途失聴者協会
<ul style="list-style-type: none"> ・当会は県下の会なので、刈谷市など地域での会員のつながりができにくい。地域の福祉サービスの情報を取りやすい情報にしていきたい。以前は刈谷地区の委員を決め、地区活動をしていたが、会員の減少、幼児学齢期の会員が少なくなり、地区活動はしていない。 ・他団体①アスペ・エルデの会 ②LD親の会かたつむり ③えじそんくらぶ名古屋親の会と4団体で「愛知県ペアレントメンター等活動推進連絡会」を運営している。 	愛知県自閉症協会・つぼみの会
<ul style="list-style-type: none"> ・今年で7回目の「ほうでいってなに」を裏方として支える。保護者が情報を得る場所だけでなく、事業所（放課後等デイサービス）が他事業所とつながり合う機会を作った。任意の活動であることを機会あるごとに伝え、事業所スタッフのみなさんが自主的に参加する雰囲気心がけている。 ・「発達障害児の親の会」（らっこちゃん親の会）「発達に不安のある保護者支援」（はなまるキッズ）ではなく、誰でもいつでもどんなことでも相談できるように小垣江自治会に協力いただいて「おがきえっこクラブ」を3年前から行っている。 	らっこちゃん親の会

[事業所]

事例
<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア児を、家庭で育てていく大変さを広く知ってほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・障害のあるなしにかかわらず、子どもたちの育ちあいをはぐくむ統合保育。 ・障害種別・重い軽いを問わず受け入れるとともに、重度心身障害・医療的ケア児の対応。 ・地域連携（関係機関事業所との情報共有・協力、自立支援協議会への参画）を通して、住みよいまちづくりにとくむ。
<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア児とその他の利用児が同じ空間で過ごし、遊びを通して楽しく交流を深めている。
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービス事業所に通う女性について、母親と二人暮らしをしていたが母親が体調を崩し入院する。 ・本人から施設利用を継続しながら生活できる場の希望が挙がったため、グループホームに入居し福祉サービス事業所は引続き利用。母親は退院後、介護施設に入所となる。
<ul style="list-style-type: none"> ・農業との連携（団体、企業、農家など）農福連携を積極的に行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの状況もあり、他の事業所とのかかわりが難しいため、入所されている方が少しでも楽しみを持ってもらえるように新たな行事を企画し行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・当事業所利用者の方にできる限り利用時に楽しく活動的に過ごしていただくために、2階の広いスペースを活用して色々な活動を用意し提供している。

事例
<ul style="list-style-type: none"> ・現在では無期限に中断となってしまいましたが、近隣のコンビニエンスストアにご協力を頂き、移動販売を実施していた。 ・コロナ禍において外出・買い物の機会が確保できない状況にあっては、非常に好評だった。 ・イベントとしてキッチンカーを呼んでいつもと違う雰囲気でご飯を提供した。
<ul style="list-style-type: none"> ・働くことができる大人になるために、小中学生のうちから何ができるかを意識して、サービスを提供している。 ・地域のイベントであるデンソー夢卵、カリマチラボへ参加した。
<ul style="list-style-type: none"> ・重度の障害がある利用者以外にも、ひきこもり傾向（すでにひきこもっている）のある利用者の社会参加、居場所づくりに力を入れている。
<ul style="list-style-type: none"> ・11/26、27のカリマチラボに参加し、出店した。利用者様が接客をして地域の人たちと交流できた。皆で協力して準備からおこない、当日楽しめたことがよかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・不登校、ひきこもり傾向の子どもたちが増え、従来の福祉制度だけでは、学校から就労支援につなぐモラトリアム期の支援が十分だと言えない。 ・障害特性や、それ故の経験不足など、学校を卒業するのが精一杯、進路選択が非常に困難になってきているのが現実。中学校卒業間近にして、まだまだ「働く」まではいかないときなど、モラトリアム期の選択肢として当事業所の自立訓練（STEC）が候補になると考える。 ・当事業所が運営している STEC とは、スペシャルニーズトレーニングアンドエデュケーションセンター通信制高校学習センターである。STEC では、生徒の実情に合わせた学習の機会を提供し、高校の卒業資格が取れるまで伴走するだけでなく、心理士による「心のトレーニング」、就労支援の経験がある支援員による「社会トレーニング」、自分でテーマを設定し文書をまとめ、プレゼンする自己表現課題「マイプロ」社会経験や体力づくり、SST を取り上げる「フィールドワーク」など、自分を知り、ひとりひとりのスペシャルニーズを達成するための生活自立トレーニングと学びの場。現在は何らかの理由で学校に行きづらい生徒が7名、各自のペースで就職や進学といった、次の進路に向けて取り組んでいる。 ・一方で、ほとんど家から出られない、家族以外の人はもちろん、家族の中でも母親としか話をしないなど、当事業所のサービスを受ける前の準備が必要だと感じる方も多く、そのためにはデイケアや病院、学校との連携が必要だと感じている。 ・刈谷市内でこのような、狭間の支援に関してどのような場で協議し、どのような形でリーダーシップをとって進めていくのか、相談できる場がほしい。多職種連携が急がれるというのが、現場の切実な声。
<ul style="list-style-type: none"> ・デンソー夢卵やカリマチへ参加をした。
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の高齢化に伴い、事業所内で対応しきれないことも多くなってきた。相談支援事業所をはじめ、包括や介護事業所とも適宜連携している。 ・自主製品（ハーブティー）が刈谷市の逸品に選ばれた。地域交流のため現在毎月第二火曜日、SHOPを開催。
<ul style="list-style-type: none"> ・区分が低く、自立度の高い利用者さんが「ここは世話人が何でもやってくれる（調理等）から自立したくない。」「自立するほうがたいへんだからこのままの生活のほうがよい」等自立支援法のもとにあるグループホームであるが自立との言葉を出すと相談員や家族へ出ていけと言われた等変換されてしまっており自立になかなか結び付かない。 ・地域との交流：町内の公園の清掃活動への参加。
<ul style="list-style-type: none"> ・他事業所との連携について共通の利用者がいる場合には情報を共有している。
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の共同開催。 ・地域の公園のクリーンサポート。

事例
<ul style="list-style-type: none"> ・就労継続支援事業所は、刈谷市民が他市の事業所を利用することが多々あり、またA型利用についてはむしろ一般的であるため、他市の事業所からの意向聴取の必要性があると感じている。
<ul style="list-style-type: none"> ・請負契約で関わりのある企業への利用者の直接雇用の促進。採用前から請負契約として業務に関わる事で企業、利用者双方のミスマッチを減らせる。また、採用後もしごとラボが請負契約で企業と関わり続ける事で利用者の企業への定着もサポートしてる。
<ul style="list-style-type: none"> ・作業の一環として五平餅の販売の実施、市民団体・ボランティア団体との交流（利用者が活動に参加・普及・啓発発動）、かりや夢ファンドを活用したコーヒーかす再利用事業を計画。
<ul style="list-style-type: none"> ・近隣地域の放課後等デイサービスさんと連携し、お子さんを招きクリスマス会を企画したり、親御さんへの「就労の場」をテーマにした見学会を行った。
<ul style="list-style-type: none"> ・市役所の福祉課の方にはこれからもよろしくお願ひしたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・個別での見学、体験を随時受け付けているためお気軽にお問合せください。
<ul style="list-style-type: none"> ・「ほうでいってなに」のイベントや子ども連絡会等での各種機関・事業所同士の連携。 ・「ママ会」を通じて保護者様との勉強会・相談会の開催。 ・ボランティアセンターの防災を知る機会。
<ul style="list-style-type: none"> ・他市町村は農業と福祉の連携に力を入れている。 ・地域のマルシェ等体験にも力を入れている。
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者交流会や勉強会を定期開催している。
<ul style="list-style-type: none"> ・一人の利用者が複数事業所を利用されている場合、他事業所との連携を大切にしている。（すぐに質問し合える関係作り等） ・オンラインを使つての担当者会議などもスタートさせた。
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で地域交流が難しくなっている。事業所の取り組みなど市民だよりなどに載せるのはどうか。
<ul style="list-style-type: none"> ・当事業所はボランティア団体の所在地ともなっている。 ・代表者が団体副代表を務めている事から食材の提供等があった場合、同業者に連絡をし、希望事業所に食材を届けたりもしている。（過去3回ほど） ・利用児童の中には養育困難な事案を抱えている家庭や緊急案件で相談事業所から紹介頂くケースもあるのでそういった家庭に事業所を通じて食材を届けるにあたり周知してもらえると困窮家庭の見守りにも繋がる。
<ul style="list-style-type: none"> ・社会参加を促す活動にも力を入れている。 ・発達障害の他、病気や難病のお子さんも受け入れている。 ・個別療育、個別対応、療養サポートが事業所の特徴。
<ul style="list-style-type: none"> ・借りている畑で、毎年、春にサツマイモの苗植えをして、秋にはその芋の収穫体験をしている。 ・杵と臼を使った餅つき体験ができるように取り組んでいる。

イ 今後取り組みたい・拡充したい活動について

[当事者団体のみ]

取り組みたい・拡充したい活動	活動にあたって必要な行政支援・地域の協力等	団体名
<p>刈谷市スポーツ協会の傘下の加入をめざしたい。現在の市のスポーツ協会の中に障害者スポーツがまったく入っていない。社協の依頼を受けて支援学級の生徒さんたちに出張ポッチャに出向き交流を深めている。学校を卒業して地域に出られたときポッチャを通して若い人の会員も増えるのではないかと期待している。</p>	<p>行政支援として福祉総務課の窓口にて手帳取得者に協会のパンフレットを渡して活動を知ってもらいたい。</p>	<p>刈谷市身体障害者福祉協会</p>
<p>ここ数年コロナの影響でなかなか活動に制限があるので現段階では以前のような活動に戻ることが望ましい。ただ、制限がありながら少しずつ形を変えて活動を始めているが基礎疾患をもつ子も多々いるので難しい所もある。</p>	<p>Web の活用も行いたい環境が整っていない施設が多々ある。(特に刈谷市心身障害者会館にて Wi-Fi がつながることが望ましい) 会員内でも web 活用の講習会の要望がある。</p>	<p>刈谷手をつなぐ育成会</p>
<p>家族会員が高齢化し、会員数が減少している。刈谷病院の院内家族教室で時間をいただき3回程勧誘を行ったが成果がでない。現状では自然消滅も考えられる。</p>	<p>家族会支援。</p>	<p>刈谷市地域精神障害者家族会</p>
<p>私たちの会の中にボランティアグループがある。「サポーター風」はクッキーづくりを通して、「アシストりん」はコサージュづくりを通してひかりの家と活動をともにしている。</p>	<p>今までには刈谷市からの支援、地域の協力をクッキーづくりやコサージュづくりは得てきた。今後も活動するためには、ボランティアの方の力がさらに必要となってくる。このことを刈谷市や地域で広報してもらいたい。</p>	<p>刈谷市肢体不自由児者父母の会</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 広く市民に向けて障害児者福祉向上、充実のための理解と協力を求めることを主軸に活動し、参加者・会員が活動を通して学び、気づきを得て、達成感、自己実現感を味わえる活動を行いたい。 ・ 具体的には、障害児者当事者とボランティアが共に野外活動、文化活動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生、企業、地域住民への周知活動への協力。 ・ ボランティア活動の主軸になる人材育成、紹介の仕組みづくりとその協力。 ・ 組織、団体の連携、顔の見えるつながりづくりのリード、サポートなどの協力。 	<p>刈谷地区心身障害児者を守る会</p>

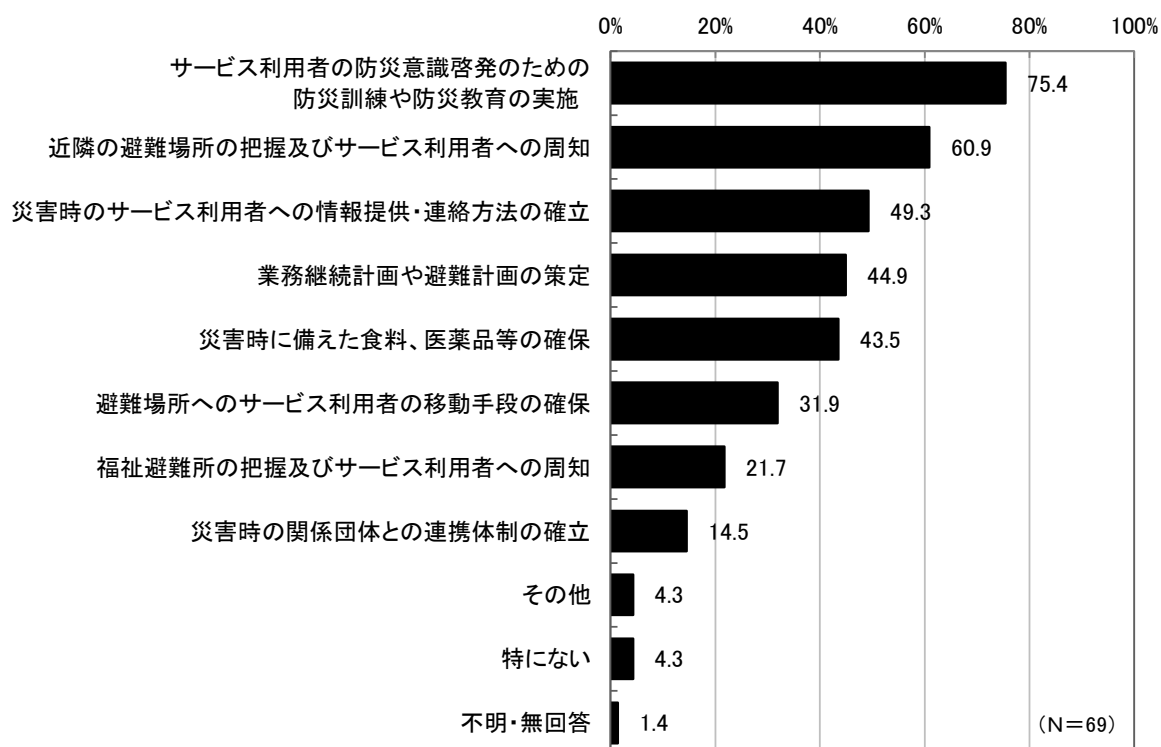
取組みたい・拡充したい活動	活動にあたって必要な行政支援・地域の協力等	団体名
<ul style="list-style-type: none"> ・手話言語条例を制定し、手話を理解、広める活動。 ・防災に関する施設にランプ、文字情報機を付けるように活動。 ・生まれた聞こえない子どもが安心して生活できるように環境づくり。 ・手話通訳者になるためにレベルアップ講座を開催できるようにしてほしい。 ・手話通訳者を増やす。 	<p>取組みたい活動に対しては、行政に毎年交渉しているが、なかなか前進していないため、認めてほしい。</p>	刈谷市ろう者協会
<p>小・中・高生に要約筆記を知ってもらいたいので、福祉実践教室を通して伝えたい。私も両耳失聴した時、すぐ手話を思いつき手話サークルに入会したが家族・友人には伝わらなかった。聞こえない人イコール手話と思う人が多い。耳鼻科の先生、新聞にも載っていたが、今後イヤホン難聴者が増えるとのこと。今は高齢者も多いので、是非書いて伝える方法をまずは子どもたちに伝えたい（両親に伝えてほしい）。福祉実践教室では要約筆記を増やしてほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社協にも筆談の要望は出している。行政・市民や地域の協力としては書いてほしい。 ・病院関係者にも聞こえない人への対応をしてほしい。（筆談） ・体験→検査結果を聞くのに医師はマスク・フェイスシールドを付けて説明されたが全くわからなかった。聞こえないことを伝えしたが、筆談をしてくれなかった。3回聞き返すと顔の表情が曇った。それ以上聞くことができず検査をした意味がなかった。結果が知りたかったのに。 	愛知県難聴・中途失聴者協会
<ul style="list-style-type: none"> ・家族。当事者支援事業。 ・研修事業。 ・相談事業。 ・人材育成事業。 ・啓発、理解、会報などの発行。 ・ペアレントメンター事業。 	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金、会場提供など。 ・発達障害全般への支援。 	愛知県自閉症協会・つぼみの会
<p>福祉（事業所ありきの支援）だけでなく、地域に支えられながら子どもたちが自立をめざす活動をした</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子育ての支援のファミリーサポートのように有料ボランティアで移動支援や家事手伝いを地域の方が支える仕組みがほしい。 ・各自治会の活動（防災や祭）で支援が必要な人（障害者だけでなく外国籍・高齢者など）参加しやすい雰囲気づくりをしてほしい。 	らっこちゃん親の会

(4) 災害時に向けた取り組みについて

[事業所のみ]

ア 事業所で取り組んでいる災害時の避難支援について（複数回答可）

事業所で取り組んでいる災害時支援については、「サービス利用者の防災意識啓発のための防災訓練や防災教育の実施」が75.4%と最も高くなっています。次いで「近隣の避難場所の把握及びサービス利用者への周知」が60.9%と続いています。障害福祉サービス事業所では、災害時に備えて「非常災害対策計画」を作成することとなっており、防災訓練等が進められています。



◆その他の回答

- ・災害ラジオと災害時マップの設置

イ 今後の災害時施策への提言

区分	提言
職員研修・連携について	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に起きた福祉事業所などでの災害時の対応など、実例を交えた対応を知る研修機会があったらよい。(例、避難後の対応(医療サービスの提供))
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の町内会では避難所登録届など、避難所を利用する際の手続きや段取りが細かく決められ共有されている。 ・事業所の利用者がこうした避難所を利用することになった場合の地域自主防災会や開設スタッフとの段取りについても確認、共有の場があるとよい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉施設、地域の団体等、それぞれにおいて防災・減災に対する意識は高まりつつあると思うが、目と鼻の先にある別団体との連携すらままならない現状もあるのではないかと。 ・団体によって所属・所管している課が違う事から、なかなか困難なことではあると思うが、福祉施設・団体同士が連携を図っていくためにも、合同研修等があってもよいと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・他事業所がどのような災害対策をしているのかを知る機会を作してほしい。刈谷市の福祉事業所にできる災害対策や支援を知りたい。
避難訓練について	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区での開催かもしれないが、住んでいる地域での当事者も巻き込んだ防災訓練が開催されるとよいと思う。事業所等に通所する方については事業所内での訓練もあるが、通所時間以外に、自宅で過ごすときの心構えを学ぶ機会があるとよい。開催されているのであれば、その機会を周知できるとよい。 ・近所での互助、事業所での避難訓練実施なども必要だと思うが、当事者のなかには自助で対応できる方や、家でひっそりと暮らしている方も多くいると思う。自宅で過ごすときに避難を想定して準備すること、日ごろからできる心構えなど、災害に対しての意識付けにつながるような機会、周知があるとよい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・被災時の職員の対応をもっと訓練すべき。現状、災害が起きた際にだれがどのように福祉避難所を立ち上げ、運営していくのか。 ・職員として何ができるのかを把握できていない。災害は待ってくれないので、いつ被災しても大丈夫なように備えが必要であるため、訓練をもっと行っていくべきであると感じている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の町内会と一緒に避難訓練を実施してみたい。 ・当法人の所在地域に障害者を入れた要支援者をどのように支援するのか知りたい。できることがあれば、一緒に考えていきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・地震や火災の避難訓練の実施や災害時の非常食の食べ方を学んでいく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での防災・災害訓練があれば連絡をいただきたい。そこに参加することによって子どもたちへのサポートも呼びかけていただきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・以前、保護者様を通じて、地域の防災訓練に参加したことがある。コロナ禍で参加は難しい状況もあるが今後も機会があれば検討していきたいため、情報提供を希望する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所単位での避難訓練は実施しているが地域の消防署等に小規模事業所向けの避難訓練等を申し込めるようにしてほしい。

区分	提言
避難の支援について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼い子どもたちが利用している施設なので、実際の罹災時には家族はもとより、行政・消防などから迅速な救援をお願いしたい。 ・ 災害時、避難場所への利用者の安全な移動手段（必ずとも自発的に動ける方ばかりではないため）がもう少しあればよい。 ・ 福祉避難所の情報や非常食の備蓄、医薬品の提供やアドバイスがほしい。
設備・情報について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発電機を事業所に置きたいが、高額なので貸出または補助があるとよい。 ・ 福祉避難所についての情報をいただきたい。→知的障害、発達障害、身体障害などで分かれているのか。どの程度の設備を備える予定なのか。 ・ 既往症・アレルギーの把握。 ・ 家庭の生活スタイルの把握。（職場や行動範囲）
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時のサービス利用者への情報提供・連絡方法の確立、近隣の避難場所の把握及びサービス利用者への周知、福祉避難所の把握及びサービス利用者への周知、避難場所へのサービス利用者の移動手段の確保は、事業所として取り組む必要があると考えているが、どのように進めていけばよいかわからなかったり、事業所ごとに異なる取り組みをすると利用者に混乱を生むことになると思うので、基本方針等示していただきたい。 ・ 大規模災害が実際に起こったら、施設だけでできることには限界があるため、町内会や自治会などの小さな地域コミュニティー単位で、防災として助け合い体制を構築する必要がある。 ・ すぐ救助隊が来てくれるとあまり期待ができないので隣人と常日頃コミュニケーションができる場が重要。 ・ 災害避難マニュアルは保護者にも配り周知を徹底しているがマニュアルが正しく作成できているのかチェックしてくれる機関があると心強い。（県の実地指導は6年に1度程度なので）

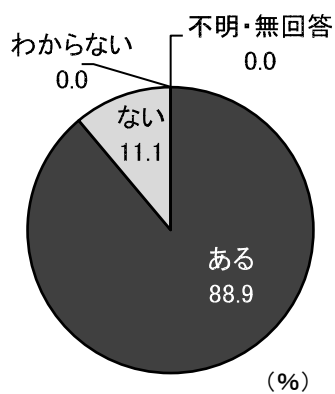
(5) 障害のある方を取り巻く環境などについて

ア 地域における障害者に対する差別・偏見、または配慮のなさを感じるものの有無

障害者に対する差別・偏見、または配慮のなさを感じるかについて、団体で「ある」が88.9%、「ない」が11.1%、事業所で「ある」が52.2%、「ない」が36.2%となっています。

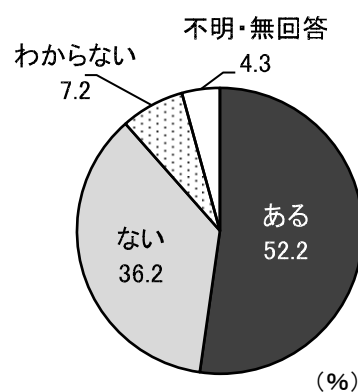
[団体]

(N=9)



[事業所]

(N=69)

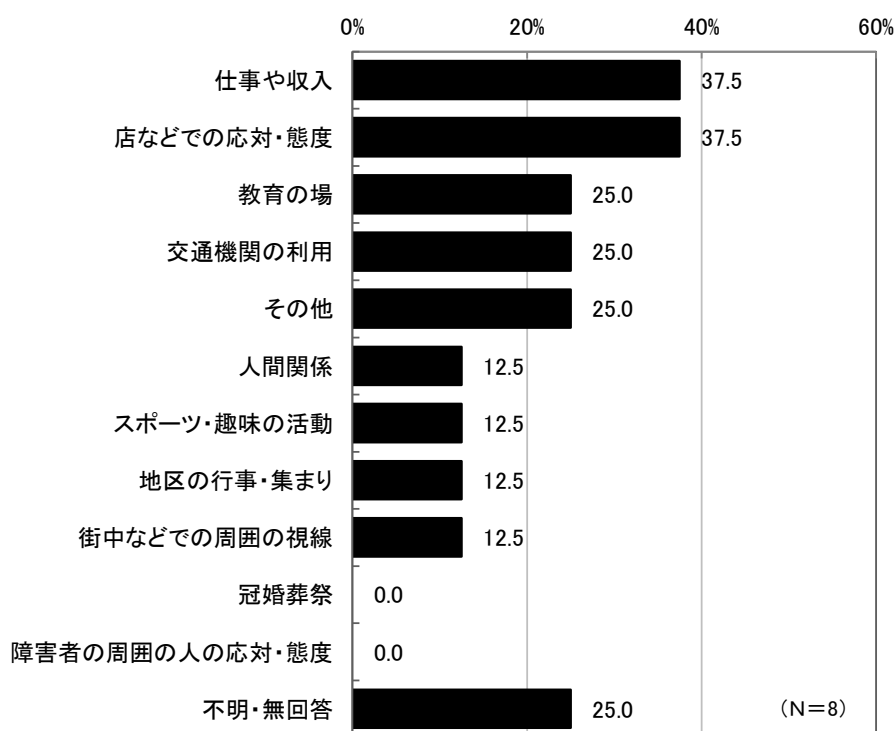


イ 最も強く障害者に対する差別・偏見、または配慮のなさを感じるところ（複数回答可）

※「地域における障害者に対する差別・偏見、または配慮のなさを感じることもあるかについて」で「ある」と回答した方だけの設問

[団体]

最も強く障害者に対する差別・偏見、または配慮のなさを感じるところについて、「仕事や収入」「店などでの対応・態度」が37.5%と最も高くなっています。次いで「教育の場」「交通機関の利用」「その他」が25.0%と続いています。

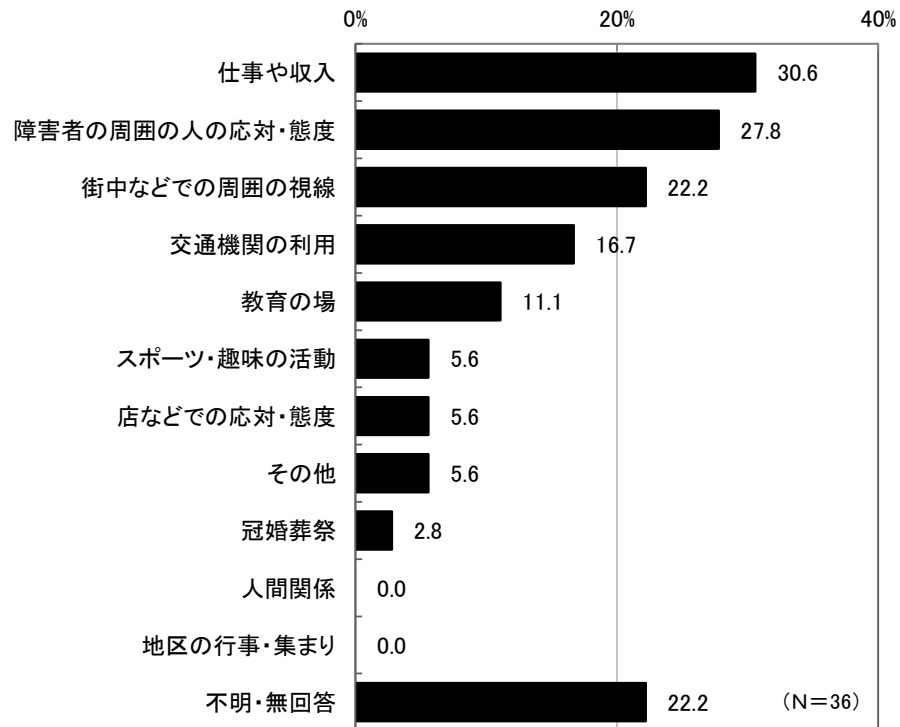


◆その他の回答

- ・新聞記事 (刈谷市地域精神障害者家族会)
- ・タクシー (刈谷市ろう者協会)

[事業所]

最も強く障害者に対する差別・偏見、または配慮のなさを感じる場所について、「仕事や収入」が30.6%と最も高くなっています。次いで「障害者の周囲の人の対応・態度」が27.8%と続いています。



◆その他の回答

- ・不動産の賃貸契約時
- ・住まいの場所の確保

ウ 障害者に対する差別・偏見、または配慮のなさを感じる具体的な内容

※「地域における障害者に対する差別・偏見、または配慮のなさを感じるかどうかについて」で「ある」と回答した方だけの設問

[団体]

内容	団体名
<ul style="list-style-type: none"> ・循環バス利用時車内での視線を感じる。運転手によっては面倒な顔をされたりきちんとした車椅子の輪止、ベルトなど知らない人もいるので新人の方の講習を受けていただきたい。 ・個人店などは入口など狭いため、まだまだバリアフリー化にはほど遠く感じる。 	刈谷市身体障害者福祉協会
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉事業所においても地域によって工賃の差がある。 ・今後、親なき後の生活になり、現在では年金のみでの生活が困難なのでせめて、平均賃金（月 16000 円程）は刈谷市においても確保したい。 	刈谷手をつなぐ育成会
<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害の事件があると「意味のわからないことを言っている」といたずらに不安をあおる記事がある。 ・近隣のGHは問題なく開設できたが他では周辺住民の理解を得るのがたいへんと聞く。 	刈谷市地域精神障害者家族会
<ul style="list-style-type: none"> ・以前に比べれば障害者に温かくかかわってくれている。また、地域の方からの協力や支援も増えている。本当に良くなっていると感じるが、障害者は、特別な存在と考え、別の人間であるという見方がなんとなくあるように思う。障害者であっても普通の人と同じ存在としてともに認め、かかわっていく社会であってほしいと願う。 	刈谷市肢体不自由児者父母の会
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツジムで、聞こえない理由で入店できない所もある。 ・飲食店で、店員は聞こえないことがわかっているのに口をパクパクしてわからない。（筆談してくれない） ・市役所の職員、手話を覚えてもらいたい。手話通訳者に頼りすぎ。 	刈谷市ろう者協会
<ul style="list-style-type: none"> ・仕事では（介護職）耳が聞こえないことが理由で門前払いがあった。 ・個人病院で介護施設のある病院で、院長が直接その場で断られ、介護に携わる人とは思えなかった。 	愛知県難聴・中途失聴者協会
<ul style="list-style-type: none"> ・仕事：同僚や会社に理解がない所もあり、コミュニケーションが取りにくい人たちなので会社へ行けなくなる。仕事がうまくできなくなり離職につながる。 ・教育：普通級・通常級で学んでいる子たちは一人一人特性が違うので、授業だけでなく放課・そうじ・自由時間などで苦勞している。 	愛知県自閉症協会・つぼみの会
<p>「貴団体」とあるが個人としての内容。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年金保険の申し込みに「身体障害」は告知にチェックが入り、申し込みが受理されにくい書類だった。知的の家族は告知に該当しないけれど不受理となった。知的・精神は告知の文面に記しにくいと言われた。 ・特別支援学校入学時の制服の発注時「直しは各自で」と販売店。（他高校は直しを請け負う）「他校が忙しいから」と断られた。 	らっこちゃん親の会

内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者雇用が進みつつあり、多くの方が採用されている現状もうかがえる。雇用する側の立場に立つと正社員採用・正社員登用が困難であることも理解できるが、正社員として勤務したい当事者も多くいるため、正社員採用についての理解が広がるとよい。 ・ 障害種別を問わず、賃貸物件の契約時、紹介時など、障害を事由に断られる事例が散見される。セーフティーネットとしての意味合いのある市営住宅も借りにくい現状がある。一般住宅では貸主の意向が反映されるため、不動産業者ではどうにもしようがないことかもしれないが、住宅確保がしやすい仕組みができないかと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校関係や保育関係の施設から療育を勧められる保護者がいるが、相談に来る保護者から「なぜ療育を勧められたのかわからない」「我が子は障害なので」と涙を見せて話すことがある。 ・ 不登校などの不適応で、福祉サービスを勧められるケースが出てきたと感じる。本人との対話や、原因分析によって、福祉サービスを使わずに見通しを付けられることもあると感じる。 ・ 家庭と教育と福祉の連携が図れていないと感じる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者枠で入社した場合、どんなにやる気があっても、健常者が、まず仕事をもらって、残りしか回してもらえない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ・趣味の活動：車いすシートが少なかったり、会場の後方になることが多い ・ 交通機関の利用：1番に並んでいても、抜かされることがある。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 明らかに車いす車用ではない車が停まっている。なかなか駐車場がなくて困ることがある。 ・ エレベーターを使用したい時に、普通に健常の方が乗っていて、ずっと待っていることがある。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援学級や特別支援学校に在籍しているお子さんやその家族にとって、大学や就職の限定をされてしまう話がまれに聞かれる（在籍学校から）。学習の進捗度に差が出るため、仕方がない部分もあるが、「これは無理」、「これはできない」といった考え方や情報が出てしまうことにつらさを感じる。 ・ 普通級に通う障害を抱えた子に対して、難聴の程度等、その子の特性に配慮した座席の配置がされていない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通機関を利用する際に視線が気になる。乗客が多くて乗せてもらえなかった、ほかの乗客から文句を言われたなどという声をきいた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業等から受注を受ける際に、一般の内職や下請け企業と同等の要求をされることもある。 ・ 施設外就労など障害者が勤務することを把握している企業においても、一般社員や他事業所と比較され、能力以上の負担がかかることがある。 ・ 外出先での周囲の反応などが冷たいと感じる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 視線や表情面が気になることもある。嫌悪感はわかりやすい。ヘルプマークに関しては普及してきていると思うが、ヘルプマークに関する知識の普及や理解は進んでいないのではと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 年齢等に見合わない行動をした時などは奇異な視線を浴びることが殆ど。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 連絡バスでの運転手の対応。（配慮が必要な方への対応が悪い） ・ 仕事の内容への理解。（最初からすべてできないが、きちんと教えればできるようになることが理解されないことが多い。）

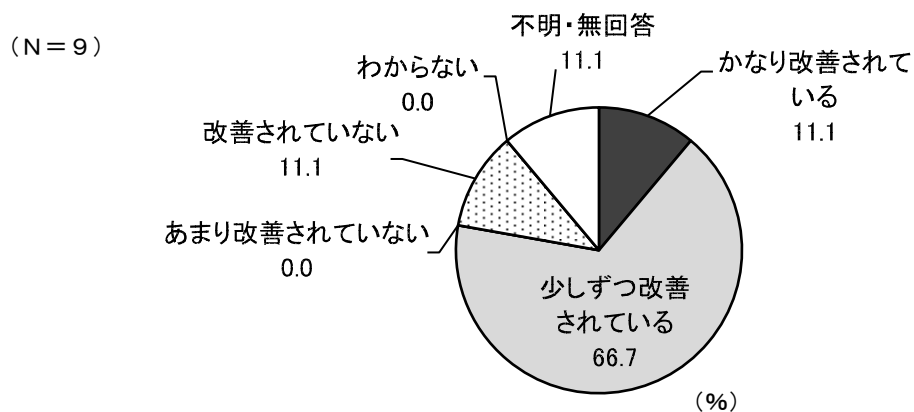
内容
<ul style="list-style-type: none"> ・特定相談支援事業の運営において、一人暮らしを望まれる利用者の住まいの場所を探すのに大変苦心した。 ・ある物件紹介業からは「障害が軽度ならその事実を伏せたほうがよい」「大家さんは“障害者”と聞いただけで断られる方もいる」と言われた。 ・障害福祉分野に全く見識の無い方からすれば仕方ない事かもしれないが、このことによって地域移行を断念せざるを得ないような状況になってはならない。
<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害者の方とタクシーに乗ると、若干遠回りをされたことがある。 ・電車乗車時に、車いすで改札を通る際に身障者手帳の提示をしてほしいと言われた。
<ul style="list-style-type: none"> ・歩行器を使用しているホームの利用者さんが市内の循環バスを使おうとした際、嫌な顔をされた。
<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある方は、守られていると思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・公園など公共の場所へ出かけた際に、近くに行くと偏見の視線で見たり、その場から離れたり、いなくなってしまうことをよく目にする。逆にジロジロ見られたりなど、差別や偏見はとても多く見受けられる。
<ul style="list-style-type: none"> ・健常者と同じ環境か、という点を考えると教育、仕事については、まだかなりの差があると思う。 ・教育、仕事においては制限があり過ぎると思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・働ける場所（作業所）が少なく、収入も低く感じる。
<ul style="list-style-type: none"> ・変な目で見える。 ・時間が掛かる場合などの配慮の無さ。
<ul style="list-style-type: none"> ・電車、バス内・・・手を叩いたり、声が出たりすることがある。注意はしているが止まらない事がある。乗務員にきつく注意され、心が折れる。
<ul style="list-style-type: none"> ・個人の障害に合った仕事がなく、働きたいのに働けないと言われる。 ・車椅子を使用する利用者では、プライベートで出かけたときに移動手段が限られていることや、移動の際の大変さを訴えられている。
<ul style="list-style-type: none"> ・不本意な視線を感じたり、必要な対応の協力を得るのに時間や説明が必要だったりする事がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・一般企業における、障害者雇用に対する積極的な活動が一向に進まない。
<ul style="list-style-type: none"> ・高度なスキルを持った人材も多くいるが、障害者を対象とした業務が全般的に簡単な仕事しかなく給与が低い。
<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害や発達障害の方は見た目ではわからないため、配慮を求めても理解してもらいづらく、心無いことを言う方もいる。また言葉には出さなくても、表情や避けるような態度を取る方も中にはいて、そういった場面ではまだ配慮のなさを感じる。
<ul style="list-style-type: none"> ・健常者が障害者専用駐車場へ止めている。 ・品質的に問題がない商品でも、障害者施設で作られた商品というだけで見合った価格で販売できていない。
<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子のご利用者さんが電車に乗る際に、乗降の補助を都度連絡した上で駅員さんをお願いしているが、都合によっては希望の時間に対応してもらえないことがある。
<ul style="list-style-type: none"> ・障害に対する学校の教員の理解が乏しい現状がある。 (一人ひとりにあった教育がされているようには感じにくい)

内容
<ul style="list-style-type: none"> ・児童にあった学習内容ではないように感じる。(宿題に取り組む様子を事業所で見ると) ・外出イベント等で公共の場を使用する際に、偏見の目で見られる方もいる。
<ul style="list-style-type: none"> ・衝動性がコントロールできないため、公園などで順番を抜かした際、他の保護者から苦言をもらった。 ・企業見学前に特性のあることを伝えていたにも関わらず、展示物に振れたことでお叱りを受けた。
<ul style="list-style-type: none"> ・利用したスポーツ施設（他市）で他のお客さんと共有になってしまう。プールなどでは自由に遊ばせてもらえず場所を区切られ、職員が立つ位置まで指示された。そこで人数を取られ逆に利用者の側で対応できる職員数が減り危険だと感じた。 ・利用者の家族に明らかに障害者と分かる利用者とは別の送迎車にしてほしいと依頼があった。近所の視線を気にされている様子だった。
<ul style="list-style-type: none"> ・交通機関では電車乗降で事前に電話をしても職員がいないとすぐにスロープをしてくれないことがあった。 ・教育の場では地域の学校の支援級の先生が特別支援学校教諭免許を持っていない方が多く、十分な支援ができていないこともある。また、行政によっては障害があるというだけで保育園に入れてくれないところがまだまだ多く断られている保護者が多い。 ・習い事も障害があることで断られていることがある。 ・地域の行事なども年齢で分けるので例外を受け入れてもらえないことがある。 ・大きな声を出してしまう自閉症児等に対して周囲の目は欧米に比べて冷ややかなものだと感じる。
<ul style="list-style-type: none"> ・共働き家庭も増加する昨今、就学する事で起こり得る「1年生の壁」というワードも周知されるようになってきた。 ・そんな中で所謂グレーゾーンと呼ばれる子どもは児童クラブや放課後教室では中々利用が難しいのかなというのが児童クラブと併用し事業所利用をしている家庭から伺える。 ・既に利用が出来ている児童に関してはよいが、そうでない家庭がもう少し福祉サービスを利用しやすくなるよう受給者証に対する認識も含めたハードルが下がる事がグレーゾーン（不登校含）の子どもや子どもをサポートする家庭の助けになると共に、インクルーシブ教育や特性の緩和にも繋がると感じる。
<ul style="list-style-type: none"> ・街中でチラチラと見ている視線が気になる。

エ 障害者に対する差別・偏見が5年前と比較して改善されてきていると思うか

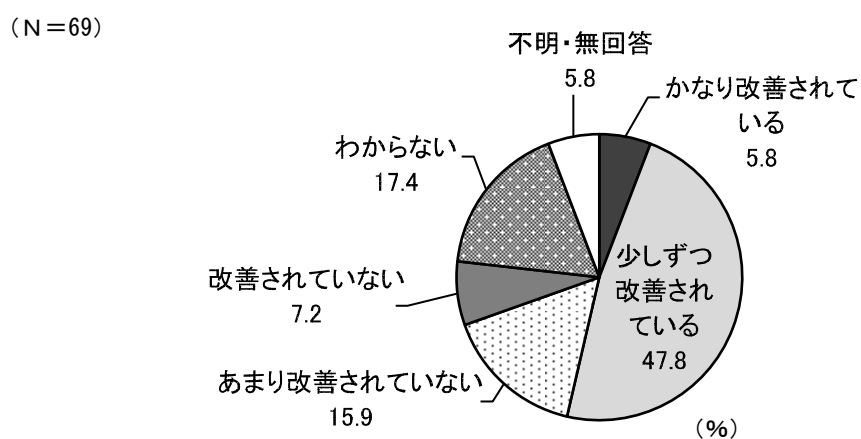
[団体]

障害者に対する差別・偏見が5年前と比較して改善されてきていると思うかについて、「かなり改善されている」「少しずつ改善されている」を合わせて77.8%となっています。



[事業所]

障害者に対する差別・偏見が5年前と比較して改善されてきていると思うかについて、「かなり改善されている」「少しずつ改善されている」を合わせて53.6%となっています。



オ 障害者虐待防止のための具体的な取組みについて

[事業所のみ]

内容
<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止マニュアルの作成と実施。 ・虐待防止チェックリストにて、日常の定期的な自己採点。 ・虐待防止委員会の設置。
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の参加。 ・虐待の案件は通報や会議の開催。
<ul style="list-style-type: none"> ・職員の定期的な研修への参加。虐待防止委員会への参加。
<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止の研修への参加。 ・虐待防止委員会の設定。 ・虐待との情報を得た場合に、虐待防止センターへの通報、相談。
<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止委員会、責任者、主任の設置と、責任者や主任での研修から、各部署での全職員への研修も行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止委員会の定期開催（月1回以上）および結果の職員数値徹底。 ・定期的な研修の実施。（年1回以上） ・虐待防止のための担当者の配置＝当法人では各事業所に虐待防止委員会を置く。 ・事業所ごとに運営規定の変更。 ・各種必要書類の整備（虐待防止受付窓口設置お知らせ、虐待防止対応規定、事業所虐待防止委員会設置要領、等）の整備。
<ul style="list-style-type: none"> ・職員への研修実施、虐待防止のための対策を検討する委員会として虐待防止委員会の設置、委員会での検討結果の職員への周知虐待の防止等のための責任者の設置をすべてやっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止委員会を設置し、研修会を開いた。
<ul style="list-style-type: none"> ・虐待に関するニュースを事例化して職員間で共有している。 ・日々の療育の中で接し方など職員が行う姿勢や取り組みについて定期的に振り返り、全体で共有している。 ・利用者が来所してから帰宅するまで身体の傷や痣等がないか細かく何度も確認し、経過を含めて保護者と情報共有している。 ・法人内で虐待防止委員会を設置し、年に1回以上の合同研修を実施している。
<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止委員会を立ち上げ、今年度より事例検討など実施。
<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な職員への研修。 ・虐待についてチェックリストの活用。
<ul style="list-style-type: none"> ・法人単位での虐待防止委員会と虐待防止責任者を設置した。 ・第1回虐待防止委員会を開催した。 ・第1回虐待防止委員会議事録は、職員へ周知した。 ・虐待防止委員会主体の全体研修を実施した。 ・事業所での虐待防止や身体拘束の研修を実施した。 ・事業所での身体拘束適正化委員会を3カ月毎に実施した。 ・第1回虐待防止チェックを実施。第2回虐待防止チェックを実施予定。

内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2カ月に1回の頻度で身体拘束を中心としたチェックを全職員で実施している。 ・ 事例を取り上げ、身体拘束に該当していないか全職員で話し合っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員への研修実施、虐待防止のための対策を検討する委員会として虐待防止委員会の設置、委員会での検討結果の職員への周知虐待の防止等のための責任者の設置までは実施済み。 ・ 当事業所では、介護保険事業も行っているため、義務付けられる前より毎年1回虐待に関する研修を実施している。また、法人全体で半年に一度虐待に関するセルフチェックを実施し、自身の行動を振り返り、虐待をしてしまわない取り組みを行っている。 ・ 虐待における要因と考えているハラスメントに関して、ヘルパーより相談があった場合相談内容を記録化し、対策を講じるようにしている。身体拘束に関しても委員を設置。検討し結果の周知を行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員が研修を受講する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員が利用者の情報を共有し、意見を出し合うようにしている。支援の在り方などを話し合っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 法人で規程、対応方法マニュアル等の整備を統一した。 ・ 職員研修にて、e ランニングを行い、その内容について職員同士でディスカッションを行った。 ・ 虐待防止の委員会、責任者等の見直しを実施した。 ・ 通報義務について、職員へ周知し適切に通報を行った。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 義務付け前より虐待防止委員会を設置し、不適切支援についての見直し検討を行っている。 ・ 虐待防止に関する指針の策定と責任者と担当者を設置し、職員に対する虐待防止の勉強会を行っている。 ・ 管理者及びサービス管理責任者、従事者の虐待防止に関する研修会への参加。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 虐待防止・身体拘束廃止委員会の設置、並びに同委員会の月1回の開催 ・ 虐待防止責任者、虐待防止マネージャーの設置。 ・ 2か月に1回、職員の行動を振り返る「行動チェック表」を実施。 ・ 委員会の中でチェック表の集計を行い、気になる所は委員会メンバーで面談を実施。 ・ 不適切な支援と判断した場合の、行政通報。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 法人で委員会を設置し、各児童発達管理責任者及びサービス管理責任者が責任者となり、研修や虐待防止のためのチェックリストへの記載を実施している。 ・ 日頃から虐待防止のために事前にケース会議を実施し、職員の困りごとの吸い上げを行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的な虐待防止研修の実施。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月虐待防止に関するチェックシートを記入し、職員間で利用者の支援について振り返りを行っている。 ・ 職員間で目標を決め、日々意識して支援をおこなっている。 ・ 虐待防止委員会の設置や虐待防止等のための責任者を設置している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 法人として「虐待防止委員会規定」を策定し、委員会を設置。職員に対して研修を実施。また、事業所の責任者を決めて、虐待防止に関するチェックを定期的実施している。

内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 月一度行われるヘルパー会議で虐待防止の研修を実施。 ・ 障害者虐待防止法の概要や虐待の種類、権利擁護のための事業や制度等まずは一般的な知識を学んだ。 ・ 虐待防止委員会の設置は今年度中（3月）までに行いたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員への研修を実施している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員研修の実施。 ・ 職員の何気ない行為や言葉が虐待につながっていくことを意識できるように心掛けている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 法人内にての責任者の設置及び勉強会の開催。 ・ 世話人ミーティング時の勉強会の開催。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 虐待防止委員会を年に2回行い、その内容を事業所に持ち帰り、全スタッフへの周知をミーティング研修で行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の実施、職員への共有、研修への参加。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員への研修実施。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員への研修実施。 ・ 虐待防止のための対策を検討する委員会として虐待防止委員会の設置、委員会での検討結果の職員への周知。 ・ 虐待の防止等のための責任者の設置。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 法人全体への視聴配信による勉強会とレポート課題の提出。 ・ 事業所への冊子からの知識向上。 ・ 外部講師を招いた研修。 ・ 第三者による評価を知るための事業所への視察依頼。 ・ 虐待防止委員会設置済み。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 虐待を未然に防ぐための積極的なアプローチ。 ・ 虐待の早期発見・早期対応。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 虐待防止委員会および虐待防止責任者、虐待受付担当者の設置 ・ 年2回、職員に対し「虐待防止チェックリスト」を作成し、お互いに虐待となり得る言動を行っていないかのチェックを実施。 ・ 年2回、虐待に関する全職員への研修を実施。 ・ 「虐待防止マニュアル」を制定し、虐待発生時の対応を取り決めている。年2回見直し、必要に応じて改訂。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員への定期的な研修の実施。 ・ ひとりで悩み（ストレス）を抱えこまないように相談員の設置。 ・ 職場環境の改善。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 月1回のスキルアップセミナーで実施している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 虐待防止の研修時、今まで以上に意識して虐待発見時の対応フローを確認している。 ・ 虐待（疑い含む）を発見したときは相談員と連携を取るように周知している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的な会議での研修にて周知。

内容
<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止委員会の設置、運営。 ・運営の中で、虐待について全職員周知を年2回実施。 ・万が一虐待が起きた場合、緊急会議と県と市への報告
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施。 ・虐待防止委員会の設置。 ・責任者の設置。
<ul style="list-style-type: none"> ・職員への研修実施、虐待防止のための対策を検討する委員会として虐待防止委員会の設置、委員会での検討結果の職員への周知虐待の防止等のための責任者の設置に加え、全職員への年間スケジュールでカリキュラムなどを組んだうえ、研修参加を継続的に行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・年1回の研修。 ・委員会の設置。(会議は3か月に1回)
<ul style="list-style-type: none"> ・職員への研修実施。
<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドブックや動画を使用した職員への周知、ミーティング等での職員間の情報共有等。
<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止委員会を立ち上げ、月に一度委員会を開催し、委員会の内容をすべての職員が ZOOM でリアルタイムで視聴できるようにしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・障害と特性を把握し一人ひとりの個性を受けとめ、私達も日々勉強していきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止・対応マニュアルを基に毎年研修を実施。 ・職員のセルフチェックリストの実施。 ・虐待窓口、ご意見箱の設置。 ・責任者の設置。
<ul style="list-style-type: none"> ・職員の虐待防止に関する研修を行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・全職員に虐待防止の研修。 ・虐待防止マニュアルの内容共有。
<ul style="list-style-type: none"> ・委員会を年4回開催。職員のセルフチェックを定期的の実施し、その内容も話し合う。 ・職員を外部研修に参加させ、その内容を社内研修としてフィードバック。昨年度は外部講師を招いて研修を行った。
<ul style="list-style-type: none"> ・職員のチェックリストの実施。 ・研修実施。
<ul style="list-style-type: none"> ・主に児童発達支援管理責任者・管理者が受講し必要であると思われる事案があれば月に二回を目安とし開催している職員会議で周知する。 ・虐待防止に関する事業所としての指針を作成、HPにて公開し保護者向けに周知の案内を出した。 ・児童発達支援管理責任者を責任者として設置。
<ul style="list-style-type: none"> ・職員への周知を行い、どこまでが指導教育か、虐待に繋がっていないか認識する。本当に子ども本人に合った事業所であるか、検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内での研修会の実施をしている。 ・スタッフのミーティングでの情報共有を行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・まだ開所して間もないため利用者はいないが、虐待に関しての研修を充実させるとともに責任者の設置、研修の実施を行う。

カ 障害者が文化芸術、スポーツ、社会活動などに参加するために取り組んでいること

[団体]

内容	団体名
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉交流エリアワークショップの活動の中で地域の人たちとボッチャを行い年に一度交流している。 ・障害者作品展として市内小中学校の支援学級の児童の方の参加もいただき父兄の方々の交流もある。 	刈谷市身体障害者福祉協会
<ul style="list-style-type: none"> ・作品展への出展（県育成会主催）やスポーツ（ぴゅあクラブ）は毎年行っている。 	刈谷手をつなぐ育成会
<ul style="list-style-type: none"> ・重度の方の比率が増えてきて直接本人が活動することは難しい状況である。 ・ボランティアとともに歌や演奏、ゲームを楽しむことを主に行っている。（例）クリスマス会、サマースクール 	刈谷市肢体不自由児者父母の会
<ul style="list-style-type: none"> ・文化＝障害児者と共に博物館、科学館などへ出かける。コンサートなどのイベントの実行委員や登壇者として積極的に関わりを持つ。 ・社会参加＝公共交通機関を積極的に活用し、社会参加につなげる。 	刈谷地区心身障害児者を守る会
<ul style="list-style-type: none"> ・“福祉と健康フェスティバル” 	刈谷市ろう者協会
<ul style="list-style-type: none"> ・自閉症・発達障害の理解・啓発。 	愛知県自閉症協会・つぼみの会
<ul style="list-style-type: none"> ・親の会の子どもたちが小さい頃はバスに乗ったり買い物や外食マナーを教えていたが現在はない。 	らっこちゃん親の会

[事業所]

内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいの里夏まつり。 ・ふれあいの里文化展。 ・ふれあい交流会 等への参加。
<ul style="list-style-type: none"> ・文化イベントへ参加。 ・刈谷市美術館にプログラムの一環とし美術鑑賞に行く。 ・スポーツプログラムの実施。 ・福祉健康フェスティバルに出展。
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉健康フェスティバルへの出店。
<ul style="list-style-type: none"> ・当法人にて、コンサート開催、障害児者も参加自由なチャリティー活動を行っている。

内容
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの事業所なので、年間行事としての運動会、生活発表会、などに取り組む。 ・福祉ふれあいフェスティバルなどの市や協議会などが主催する障害児童向けのイベントに参加する。 ・刈谷地区心身障害児者を守る会が主催する野外活動や文化施設見学などの活動に参加する。 ・市内小中学校や近隣市町の高校大学などの学生・生徒との交流や施設訪問を通じて社会参加する。
<ul style="list-style-type: none"> ・案内をして興味のある方は個人で参加している。 ・ボッチャは購入して、時々大会など開いている。
<ul style="list-style-type: none"> ・行政や当法人が行うイベントについて保護者に情報提供している。
<ul style="list-style-type: none"> ・市民講座にて、書道・手芸・水彩画などの芸術や3B体操や機能訓練などのスポーツに取り組んでもらう機会を提供。 ・毎年障害者作品展を実施。
<ul style="list-style-type: none"> ・創作活動での作品を身障会館での作品展に出展している。
<ul style="list-style-type: none"> ・自主製品（コーヒー）に利用者のイラストを採用し、販売・普及に努めている。 ・ボッチャを昼休みの余暇支援の一環として取り入れ、利用者への普及を行い、事業所の代表を選出して、ボッチャ大会へ参加している。
<ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術活動：就労移行プログラムとして、お茶会を開催し、日本文化を学んでいる。 ・スポーツ：定期的に（月1回以上）に刈谷市の体育館ジムにて身体づくりを行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ：定期的に刈谷市の体育館ジムにて身体づくり行っている。障害者スポーツとして利用者にボッチャを体験してもらった。 ・社会活動：毎週1回（木曜日）に農場に行き農作業ボランティアを行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスなどの専門家をお願いしてダンスをする機会をつくっている。 ・日中支援活動では戸外に出掛けたり、スポーツプログラムを行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・イベントなど利用者へ聞き取りを行い、積極的に参加している。 ・社会参加ができるように、土曜日営業にて社会生活プログラムを実施。
<ul style="list-style-type: none"> ・各アート展示などに利用者の作品を出品している。作品作りとして施設内にて美術レクで利用者の方には作品を作ってもらっている。 ・陶芸の先生に毎週来ていただいて、利用者の陶芸作品作りのアドバイスをもらっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・以前は絵画、陶芸を行っていたが、現在は行っていない。
<ul style="list-style-type: none"> ・刈谷市内の企業イベントに積極的に参加している。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域で開催されるイベントに参加したりしている。（もちつき、いもほり、など） ・毎週金曜日に外出等のイベントも実施している。
<ul style="list-style-type: none"> ・週1回刈谷市体育館で体力づくりをおこなっている。 ・月1回講師の先生を招いてヨガをおこなっている。 ・土曜開催として地域のお祭りに参加したり、講師の先生を招いて運動会やコーディネーショントレーニングをおこなった。
<ul style="list-style-type: none"> ・デンソーとの繋がりの中で、デンソー夢卵に参加した。

内容
<ul style="list-style-type: none"> 任意団体（車いす利用者とそうでない者の交流団体）の会員がボッチャ大会や地域や学校等の行事に参加する際、福祉車両の貸し出し等、協力している。
<ul style="list-style-type: none"> 市、社協が行うボッチャ大会への参加。 月2回のレクリエーションの時間に利用者の興味のあるスポーツ、創作活動を行っている。 作業種目の一つにパステル画を行い、作品を絵はがきとして販売している。
<ul style="list-style-type: none"> 障害者アート展等のお知らせが来た際の掲示。 近隣の市町村にて行われる福祉祭りへの参加。 美術館等への外出
<ul style="list-style-type: none"> 移動支援でスポーツ観戦、美術館などに行く。
<ul style="list-style-type: none"> 移動支援を利用して活動の参加に結びつけている。
<ul style="list-style-type: none"> 事業所の日々の活動の中に取り入れ外出活動、イベントによる社会参加。
<ul style="list-style-type: none"> 事業サービスの運営上、あまりない。
<ul style="list-style-type: none"> 事業所の日々の活動の中に取り入れ外出活動、イベントによる社会参加。 他者との短期共同生活を実施。
<ul style="list-style-type: none"> 定期的な行事イベント。
<ul style="list-style-type: none"> 今年度よりアート活動に取り組んでいる。 地域での交流会に参加。
<ul style="list-style-type: none"> 地域にて開催される、祭りやイベントに参加し、地域住民との交流や社会参加の機会を提供している。
<ul style="list-style-type: none"> ボッチャなど参加しやすいスポーツの情報収集、参加への促し、レクリエーションを利用した美術鑑賞等の実施等。
<ul style="list-style-type: none"> まだ事業を初めたばかりで今は何もやっていないが今後社会活動や地域活動に積極的取り組みでいきたい。
<ul style="list-style-type: none"> 地域が催す作品展に出品。 「ボッチャ」を通して障害者スポーツやプレイヤーの方々との交流を持つ機会を作っている。 年に数回イベントとして公園でのゴミ回収を利用者と一緒に行っている。「キレイになると気持ちがいいね」と子ども達の素直な感想が聞かれる。
<ul style="list-style-type: none"> 市内社会人サッカーチームのスポンサーを務め選手に指導員として勤務して頂いている。 コロナ禍で色々と憚られる部分もあるが、チームから試合に招待して頂いたり今後はサッカー教室も検討している。
<ul style="list-style-type: none"> 学校休養の日に、外出を兼ねて社会参加を促す目的で、社会参加活動をしている。 コロナ禍ではあるが、今後はコロナの状況を見ながら、刈谷市内の市民団体主催のイベントにも参加していきたいと思う。

内容
<ul style="list-style-type: none">・地域の美術館に鑑賞に行ったり、施設のイベントで製作に参加したりしている。・理学療法士の雇用をしており、毎月、理学療法士による運動課題を提示して、日頃から運動機能を高める活動に取り組んでいる。

3 団体・事業所からの意見

(1) 障害者福祉施策についての意見

ア 保健・医療について

[団体]

区分	意見	団体名
通院・診療 について	<ul style="list-style-type: none"> 特に聴覚障害者にとって医療機関にかかる時はとても不安が大きい。個人医院ではなかなか理解してもらえない時がある。市でも早くコミュニケーション条例を早く制定していただきたい。 	刈谷市身体障害者福祉協会
	<ul style="list-style-type: none"> 西三河南部（旧碧海地区）には地域療育センターがなく、東海市や岡崎市に行くことになる。乳幼児から成人までの総合的に対応できる地域療育センターの設立を強く希望する。 	刈谷市肢体不自由児者父母の会
	<ul style="list-style-type: none"> 診察時の呼び出し方法改善（振動付きポケット等）。呼び出し時、アナウンスだけでは聴覚障害者として気付かないことが多いため。 聴覚障害と判明した時、医者から親に人工内耳のみの選択を推奨するだけでなく、手話の選択もあることを伝達してほしい。医者も含め手話の知識を身に付けてほしい。 	刈谷市ろう者協会
	<ul style="list-style-type: none"> 1.6 健診、3歳健診に対するていねいな聞き取り、要観察の子どもさんの母親への支援 	愛知県自閉症協会・つぼみの会
連携・情報共有について	<ul style="list-style-type: none"> 精神疾患教室が高校で始まった。しかし、発症のピークは「10代半ば以前」といわれている。小中学校でも導入してほしい。また、一般市民を対象とした周知も願う。 	刈谷市地域精神障害者家族会
	<ul style="list-style-type: none"> 0歳から保育園に入園することで地域と共に育ちやすくなる一面、保護者の仕事で相談がしづらい（時間がとれない）。園への訪問指導やアウトリーチが必要。 	らっこちゃん親の会

区分	意見
通院・診療について	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害という概念が浸透しつつある昨今で、医療機関（特に精神科）での受診予約が取りにくいという声を聞く。医療機関に何を求めるかもあるが、発達障害の診断、受診について対応可能な医療機関一覧のようなものがあると案内しやすいかと思う。 ・病院通院の大変な方が訪問診療を受けやすいようにしてほしい。 ・高齢化した両親では病院受診が難しい家庭が増えてきている。その際に対応をしてもらえる福祉サービスが不足しているように感じる。 ・主要な病院は全て南部に位置しており、事業所が遠方に所在することから、受診等の移動が負担になる。 ・病院に行くのが嫌で、必要な受診でも本人を連れていくことを負担に感じている親がいる。そのような家庭への受診サポートなどがあるとよい。
連携・情報共有について	<ul style="list-style-type: none"> ・保健所や保健センターと、福祉との連携の取りやすい仕組みづくり。 ・障害児支援が中心の事業所として、早期発見、早期治療は強い関心があるが、刈谷市の保健・子育ての仕組みとして、当事業所を社会資源として活躍させてほしい。例えば、1歳半&3歳検診時に相談窓口として同席するとともに他の支援機関や保健機関と情報を共有しチームワーク支援につなげるなど、ぜひとも検討いただきたい。 ・事業所と医療機関との情報共有を進めたいので、市に間を取りなしてもらいたい。 ・医療と福祉のつながりが薄いように感じる。 ・出生後（病気後）、地域に来た時、必ず訪看が入ると思われるが、そこから、在宅だけではなく、福祉施設につながる仕組みがあればよい。 ・福祉、教育、医療が一体化していきながら、情報の共有が図られるようにしてほしい。 ・訪問診療やACTの充実。 ・多職種が連携できる体制作りや教育の機会がほしい。
定期的な健診について	<ul style="list-style-type: none"> ・歯の治療がなされていない方が多いので、若年時から歯科検診が必要と思われる。 ・医療行為が今後スムーズに実施できるように支援するため、年2回健康診断を実施している。医療行為ができないと治療ができないことが考えられるため、利用者の支援の中で小さい頃から医療と関わりを持つことが必要。（コロナでの予防接種など困難ケースもあった） ・障害者の病気早期発見のための健康診断の実施をすること。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・受診対応を施設で行う場合に、近隣の病院では診てもらえないケースがある。 ・施設での対応が極めて困難になった利用者の一時的な入院が難しい。 ・医師などからの助言をもらいやすくするための仕組みがほしい。

イ 生活支援サービスについて

[団体]

区分	意見	団体名
障害者の自立・親亡き後について	<ul style="list-style-type: none"> ・会員の高齢化が進み一人暮らしが難しくなり施設に入所される人も増え、会員減少に歯止めがかからない。一人居住の若い方も一般の住宅ではバリアフリー化されていないので困っている。相談がある。 	刈谷市身体障害者福祉協会
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で自立した生活を送るために次の障害福祉サービスと体験の機会を設けてください。①GH（障害等級2級から3級の人を含む） ②一人暮らしの住居 	刈谷市地域精神障害者家族会
	<ul style="list-style-type: none"> ・親なき後の問題に取り組むことで障がい者福祉全体が変わると思う。大きな取り組みを期待する。 	刈谷市肢体不自由児者父母の会
サービスの仕組みについて	<ul style="list-style-type: none"> ・行動障害のある人のショートステイや行動援護サービスの利用がスムーズにできるようにしていただきたいと思う。 	愛知県自閉症協会・つぼみの会
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・日中一時支援の不足（学齢期は放デイの活用があるが、卒業後は活用できないので今後は特にたいへんな状況になることが危惧される。） 	刈谷手をつなぐ育成会
	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔手話通訳サービスを提供してほしい。 ・キャッチ TV での字幕、手話通訳者がつくようにしてほしい。 	刈谷市ろう者協会
	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームなど外側のものだけでなく支援者の育成、定着のほうも急務。65歳以上70歳以上のシルバーパワーをぜひ支援者として生かしてほしい。 	らっこちゃん親の会

区分	意見
グループホームについて	<ul style="list-style-type: none"> ・刈谷市内に徐々にグループホームが整ってきた印象がある。サービス提供自体は個々の法人で行われるものだが、地価が高く住まいの確保がしにくい、設立したものの入居者が集まりにくいという声も聞く。開設における負荷を軽減したり、せつかくのサービスを生かすためにも、グループホームを利用して生活するイメージが当事者にもっと広まるとよいと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルパー利用希望があった際、(ヘルパーの担い手が少ないのか) ヘルパーの確保が難しい。特に家事援助の給付費と人件費の効率が良くないことも一因かもしれないが、介護保険事業者が障害福祉サービスの担い手になってくれると事業所が増えるかもしれない。
	<ul style="list-style-type: none"> ・土日などの休日に対応できる事業所、ヘルパーに限りがある。⇒給付費の範囲内でのやりくりであるが、休日にも対応する事業所への付加給付や、その考え方などの工夫を提案して、事業所参入を促してほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・賃貸物件など住宅確保が難しい状況がある。市営住宅などの入居条件緩和や一般物件を借りやすくするような働きかけをしてほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・身体の方角への生活介護が少なく、利用しにくい印象がある。特に、入浴サービスも含めて、日中活動の場を求めている方にとっては利用できる事業所が少ない。(※必要に応じ、移動入浴としての支給決定は認められる状況)
	<ul style="list-style-type: none"> ・重度心身障害者がひとり暮らしをするために、住まいが確保できないか。
	<ul style="list-style-type: none"> ・重度心身障害者の親亡き後のグループホームや入所の資源が少ない。人材も足りない。
	<ul style="list-style-type: none"> ・住み慣れた地域で障害者が暮らせるように、住宅の確保や、グループホーム事業への助成がほしい。(住宅・土地の確保、改修費用など)
	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームなど、住居系の施設を新規で立ち上げる際に、物件が高価であること、家賃が高いということが一番ネックになっている。そのため、なかなか新たな事業所が参入しづらい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム等の住まいの充実が今以上に必要である。そのために刈谷市が誘致、独自の補助などを行っていただきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスの数は増えているが、各事業所とも人材不足や人材育成の課題に直面している。刈谷市全体の課題として捉え、主体的に人材確保や人事育成に力を入れてほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム等、障害者が安心して住むことができる施設を確保してほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・管理が行き届いたグループホーム。
	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者が親亡き後も安心して暮らせるグループホームが増えるとよい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームの数や場所が把握できていない。
<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームの充実、質の向上。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム、入所施設を増やして下さい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームの拡充。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームなど生活の場所も徐々に増えているが、精神障害や発達障害を持つ方対象の場所がもう少し増えると、市外の事業所へ行く方が減り、地元で生活することが可能になるのではないかな。 	

区分	意見
障害者の自立・親亡き後について	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の支援では、親亡き後どのように生きていくのかを本人と一緒に考える時間を作っていくことが必要である。(GH体験、短期入所、居宅介護など) ・障害を抱えられた方が一人暮らしをしたいと希望があっても、ハードルが高い。 ・親なき後の住まいの確保。 ・障害のある方でも暮らすことのできる住宅の情報。障害福祉サービスの現状や、刈谷市の障害福祉の展望を知りたい。
緊急時の対応について	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時に対応できる施設を刈谷市でも設置してほしい。 ・急にサービスを受ける必要が出てきた時に、すぐに対応できるようにしてほしい(特にショートステイ)。
サービスの仕組みについて	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア児者の社会資源の少なさ。(例：居宅介護も看護師が配置されている所が必要で、喀痰吸引の研修を終えていても、依頼や受け入れを敬遠されることが多い。) ・ヘルパーの高齢化。そのため、障害児の移動支援の受け入れ先は少なくなっている。 ・保険医療同様、施設周辺には生活支援サービスを提供する事業所が少なく、計画相談支援を提供する際にサービスになかなか繋がられない。 ・刈谷市内よりも近隣自治体が近いので、そちらを頼ることも多いが、地域生活支援事業において刈谷市と契約している事業所も限られており、選択肢が少ない状況である。 ・この生活支援サービスが本人にとって必要だと思っても、複雑な家庭環境だと家族の理解が得られない。より本人の現状を汲んで、望んでいる生活が取り入れられるような仕組みがあるとよい。 ・重度訪問介護で1日のほとんどをサービス利用している方々が、介護保険に移行する際、切り替えに時間を要するので、介護保険事業者と障害福祉サービスの事業者が連携して移行できる仕組みがあるとよい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・精神の方の家事援助の大変さを理解してほしい。 ・移動支援の報酬について見直してほしい。(処遇改善等がなく経費が非常にかかるので積極的にサービスができない状況。) ・同じく、居宅介護家事援助も報酬が低いので同様の傾向にある。 ・日中一時支援や、高校卒業後の居場所が少ないので多くなってほしい。

ウ 相談・情報提供について

[団体]

区分	意見	団体名
情報共有について	<ul style="list-style-type: none"> 一般就労の方々が障害福祉とのつながりが欠けがちになる。 	刈谷手をつなぐ育成会
	<ul style="list-style-type: none"> 健常者が聞こえない子を産んだときに、子供の将来やコミュニケーション関連で悩みごとがあると思う。その悩み事を受け止めることやアドバイス、情報を提供できる場を作してほしい。(例) コミュニケーション方法が口語だけではなく手話の選択があることを提供したい。 	刈谷市ろう者協会
権利擁護について	<ul style="list-style-type: none"> 緊急ショートステイお試しなどの情報提供。成年後見制度を使いやすい制度にしていきたい。 	愛知県自閉症協会・つぼみの会
	<ul style="list-style-type: none"> 権利擁護→小中学生から啓蒙すればそれが「あたり前」になるかと。障害者本人が声をあげるのではなく周りの人間が代弁することも重要。 	らっこちゃん親の会
相談支援機関について	<ul style="list-style-type: none"> 相談窓口のワンストップ化 基幹相談支援センターが24H365日の相談窓口とする。現状の窓口：基幹相談支援センター、市役所 	刈谷市地域精神障害者家族会
災害時について	<ul style="list-style-type: none"> 市の障害者計画の進捗状況では十分に提供されているとあるが、特に災害時においては情報取得が難しい聴覚者にも伝わる「アクセシビリティコミュニケーション」基本理念をもとにどのような障害があっても同一時点で同一情報が理解できるよう活動していきたい。 	刈谷市身体障害者福祉協会

区分	意見
相談支援の業務・人員について	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所、相談員の負担が増大しており、相談支援事業所が増えるための仕組みづくりを検討してほしい。他市等の例を参考に、件数に応じた給付費の上乗せなどの仕組みがあると事業所参入、新設を促したり、相談員の質、水準を維持することにつながるかもしれない。 ・サービス利用者の増加に伴い、サービス利用計画作成が必須になった当時の人員配置、事業所数では追い付かなくなっている。結果として、計画作成が必要な方への対応を待たせてしまったり、相談の質の低下につながることもある。 ・事務量軽減のため、報告書等提出を省略できそうな箇所の検討。 ・サービス支給決定の際など、事務要領の読み替え方に変更があった場合に、Q&A 冊子などを配布してほしい。⇒相談支援事業所それぞれが照会しなくて済むこともあると思う。 ・詳細な情報は各事業所の広報力に委ねればよいと思うが、福祉ガイドだけでなく、就労系サービスの事業所一覧も紙媒体でなく web ページなどで閲覧できるとよい。 ・サービス申請時に必要な申請書、所得確認のための同意書など、様式が定められているので省略できないと思うが、一枚で済ませる等、簡略な記入方法を検討いただきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援の業務過多による各関係機関との連携不足。 ・業務量と報酬が釣り合わず、経営や新規参入が難しい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・業務量と報酬が釣り合わず、経営や新規参入が難しい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・収入の確保ができないため、相談箇所や相談員が増えない状況である。障害福祉サービスの入り口は相談支援事業所になるため、サービスの向上を図るのであれば、収入確保の仕組みを作らなければ解消されない。
	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援施設の人員増員。
	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援専門員が担当する障害者が多く、専門員の人数も足りていないと聞いたことがあるため、相談支援事業所や相談支援専門員が増えると、障害者にとって現在よりも相談しやすくなり、安心できると思う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・市により対応にばらつきがあるが、相談員の数による多忙さ、数自体の少なさ等により、取りこぼしている相談もあるのではないかと。
	<ul style="list-style-type: none"> ・相談員の総数が少なく、一人あたり抱えている件数が多すぎる印象がある。相談事業が少ない理由に、事業として継続していけるだけの報酬が少ない可能性がある。 ・手続き等の書類業務が多すぎて、本来の相談業務に割ける時間が少ないと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援を行う事業所を増やしてもっと相談しやすい体制を作してほしい。 ・利用者間で相談回数や情報提供の量にバラつきが生じることなく、平等にサービスを提供してほしい。

区分	意見
相談支援の業務・人員について	<ul style="list-style-type: none"> 相談支援にすべて任せるのではなく、日中活動の場所でも相談ができる体制や情報の提供を実施し、意思決定支援へのプロセスで考えていく体制が必要。
	<ul style="list-style-type: none"> 相談支援事業所を増やしてほしい。現状では、相談支援専門員が忙しすぎて必要な支援の相談が困難な場合がある。
	<ul style="list-style-type: none"> 市内の相談支援事業所が乏しく相談する機関が極めて少ない。地域での連絡網の構築などが必要。
	<ul style="list-style-type: none"> 各個人の家族の環境や障害と向き合った体制を整備してほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> 相談支援体制の充実。
情報共有について	<ul style="list-style-type: none"> 相談支援と福祉事業所が情報共有できる機会がもう少しあるとよい。
	<ul style="list-style-type: none"> 利用者へのサービス提供が難しくなった場合、担当の相談支援事業所に報告するが、サービスの継続が可能になるように次のサービス事業所を主体的に探すのは、サービスを提供しているサービス事業所であることが多い。市内の事業所ならまだしも、市外の事業所となるとサービス提供可能な地域に刈谷が含まれているかわからない。把握しにくい部分を情報提供などでフォローしてもらえればと思うことがある。
	<ul style="list-style-type: none"> 相談員の方とより丁寧に本人の現状を共有して、情報交換や相談をしていきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> 権利譲渡について等の研修会を開催してほしい。情報共有の機会を作してほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> 障害者施設と相談支援事業所の連携を強化してほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> 求人情報の情報提供をもっとお願いしたい A型就労をしているので相談員さんと連携しながら障害の方のお手伝いできればと思う。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 当事業所では、古くから障害児、医療的ケア児の支援を行ってきたが、人件費を中心に運営は厳しいので行政の支援をお願いしたい。 施設が約40年を経過し、老朽化してきた。部屋数もぎりぎりの状況にある。駐車場も足りない。現在・将来の子どもたちのために、早急に立替が求められている。刈谷市行政も協力して取り組んでほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> 近隣に事業所、特に居住系のサービスが少ないことから、入所希望その他ショートステイ利用についてご希望が集中する状況があるように感じる。
	<ul style="list-style-type: none"> 放デイの連絡会などに市役所からは誰も参加されておらず、行政としての意見を聞きたい時に対応が遅れる。行政との連携が望まれる。（他市では必ず職員が参加されている）

エ 障害のある子どもの教育・育成について

[団体]

区分	意見	団体名
継続的な支援について	<ul style="list-style-type: none"> ・就学終了後（18歳以上）では福祉サービスの提供が大きく変わる。親の介護負担が卒業後増えることがないように制度を対応してほしい。 	刈谷市肢体不自由児者父母の会
	<ul style="list-style-type: none"> ・療育から就学支援、学級選択、放課後デイサービスなど相談から支援まで継続して利用できることを願う。 	愛知県自閉症協会・つぼみの会
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・以前に比べてたいへん充実してきたように思われるが、それぞれの世代で価値感の違いも感じる。 	刈谷手をつなぐ育成会
	<ul style="list-style-type: none"> ・手話を覚える場を作ってほしい。（保護者） ・聾学校への通学手段。（他の市と併せた通学バス）（例）岡崎聾学校へ通学するには交通機関（名鉄バス、電話）を利用する必要があり、通学時間を取られてしまう） 	刈谷市ろう者協会
	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数、個別を重視するあまり「うちの子だけ特別（うちの子に支援してほしい）」を増長させてしまった感がある。学校や地域でくらしにいける集団の楽しさを障害のある子どもたちとその保護者に伝えるべき。 	らっこちゃん親の会

区分	意見
卒業後の進路について	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校と卒業後の進路になりうる事業所（生活介護・就労関係など）との情報共有や見学会、などを行ってほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・親子で考えられるように、1つだけでなく様々な選択肢を教えてほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・中学から高校に進学の際にどのような進路や就労が子どもたちにとってよいかという情報共有が事業所にも定期的に開催されるとよい。 ・障害のある子に対しての性教育。
	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育終了後の連絡について幅広い情報がほしい。 中学生からの質問や相談が増える。
各分野での連携について	<ul style="list-style-type: none"> ・各分野（保育・療育・教育・福祉など）が点で利用者支援を行っているため、連携が取れない。一貫性と一体的な支援を行うために分野だけでなく、線や面に替えられるつながりを増やすほうがよい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育と社会での支援者の数は、大きく違う。切れ目ない支援が必要のため、今後のサービスとの連携方法などを考える場所が必要である。
	<ul style="list-style-type: none"> ・未就学→就学時の情報の連携、各事業所間の連携、本人の課題の共有。 ・わたし手帳があまり活用されていないと思うので、更なる活用、ブラッシュアップ。
	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉と教育の連携がさらに深まることを望む。
	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス事業所と学校とが情報共有できる機会が少ない。学校毎に対応に差がありすぎる。
早期の療育・フォロー体制について	<ul style="list-style-type: none"> ・親の子育てや養育力の向上の必要性を高く感じる。 ・学校での不応や不登校に対応できる教員の人材育成に力を入れてほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・幼少期からの専門家が常設している機関の配備
	<ul style="list-style-type: none"> ・グレーゾーンや発達に疑いのある子どもを早期にフォローする体制がほしい。また親に対する教育支援は必須。
	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への支援を充実させたい。（保護者の悩みを少しでも軽くしていくために）
放課後デイサービスについて	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後等デイサービスも、子育て支援策の一つとしても事業に位置付けて頂きたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後等デイサービスの利用者が、雨天でも遊びに行けるような場の情報がほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物訓練に行ける場を探すことが難しいので、そういった場の情報がほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・刈谷特支は肢体の児童が行くが刈谷以外の地域の児童にも恩恵が多い気がする。刈谷在住の知的の児童にもその分何かあるとよいと感じる。学童も障害児が利用できるようにしてほしい。他事業所に関しては、他の児童発達支援の利用を禁止する風潮があるので、少しずつ受け入れていく方がよいと思う。（他市は療育園と児発を併用できる体制にある）刈谷市の地域の学校の支援級の先生の支援の質もよくするように特支のコーディネーターなど常時入れる必要があると思う。

オ 雇用・就労について

[団体]

区分	意見	団体名
働き方の多様化について	・ 障害者雇用も増加傾向。働き方の多様化も望ましい。	刈谷手をつなぐ育成会
	・ 本人の特性、障害の程度に合わせた就労の選択。	愛知県自閉症協会・つぼみの会
	・ 仕事があることはありがたい。地域からB型のほとんどが部品の下請けのようになっているが、特性上合わない人もいる。体を大きくつかう、外で作業する、早朝から（昼にはおわる）など仕事のバリエーションがもっとほしい。	らっこちゃん親の会
コミュニケーションについて	・ 仕事上でのコミュニケーション配慮。文字起こしシステム。費用がかかってしまうため、気遣う時もある。	刈谷市ろう者協会
福祉的就労について	・ 就労継続支援B型の平均工賃を上げるサポートをしてほしい。令和2年 全国平均 15,776円 愛知県 16,608円	刈谷市地域精神障害者家族会

区分	意見
福祉的就労について	<ul style="list-style-type: none"> ・市内にB型事業所が増えてきており、選択できる仕組みが整ってきたように思う。コロナ禍で在宅ワークという概念も広がってきた。A・B型における住宅ワークの柔軟な支給決定、運用を検討いただきたい。 ・公共施設での障害者雇用など、パート従業員であったとしても、身体の方以外の雇用につながるような仕組みづくりを進めてほしい。 ・働く場所と福祉事業所をマッチングする事業の展開を希望する。具体的に、施設外就労先の紹介、人材のあっせんなど。 ・就労支援B型への優先調達が刈谷市よりあればよい。一般就労のみではなく、就労継続支援A型、B型でもある程度の工賃があれば生活できる方も多くいる。 ・福祉的就労については、法人内にB型事業所があるが、在宅からの移動手段が限られていることからその利用に繋がらないケースもあるため、雇用や働く場所の創造のためにも移動手段の確保は必要。 ・福祉的就労に対して手厚い支援をお願いしたい。 ・障害を持った方が、少しでも働ける環境ができるとよいと思う。 ・短時間就労と、障害福祉サービスとの併用。
一般就労について	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者が一般就労できる企業や職種が増えることが望ましい。 ・精神障害者の雇用に前向きでない企業がまだあると感じているため、障害の理解や配慮をしていただける企業が増えるとよいと思う。 ・障害者雇用が刈谷市で多くなるのを望む。 ・企業への障害者雇用促進へつながる啓発活動。 ・就労施設と企業のマッチングをもっとお願いしたい。 ・関係機関の頑張りにより、障害を持つ方、特に精神障害を持つ方の雇用が以前に比べれば多いように感じるが、まだ理解も多くなく、今後の課題と感じている。 ・刈谷も多く就労ができたが今後はまだまだ足りなくなってくると思うので、一般就労ができる体制を作っていくべきだと感じる。(特に知的障害者を受け入れているところが少ないのではないかと感じる)
就労に関する連携について	<ul style="list-style-type: none"> ・ハローワークとの情報の共有化や、ハローワークとも一緒に連携をし、福祉職員の魅力を伝える企画や、資格を持っているけど働いていない福祉職員の活用方法を見出す検討の場。 ・障害者雇用をする事業所や就労事業所との連携が取れるとよい。

区分	意見
就労に関する理解について	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の企業や会社が、障害のある子を育てながら働く家族に対し、理解や配慮を持ってほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・企業が障害者雇用に求める人材像と福祉が求める企業の合理的配慮等をお互いに学び合える機会。 ・福祉的就労の支援者の人材確保と質の向上。
	<ul style="list-style-type: none"> ・就労経験がない利用者さんもいらっしゃるため、障害者への理解を深める機会として、職場体験をさせていただける企業が増えるとよい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・早い段階から就労についての知識を保護者に持ってもらうために説明会や見学会の開催を希望する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年の児童が多数ご利用であるため、就労についての知識を保護者に持ってもらうために説明会や見学会の開催を希望する。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で働ける、参加できるのは嬉しいが、歳をとっても障害者ばかりの作業所でずっと働くのではなく、老人のサービスも普通に使えるようにしてほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用問題は大きな問題であり、福祉の仕事への関心の高さに繋がるような市町村の整備が必要に感じる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・障害の方をできるだけ雇用してハンディを抱えながらも社会に役立つ生き方ができるよう私達もお手伝いしたい。

カ スポーツ・文化芸術活動について 情報・機会提供について

[団体]

区分	意見	団体名
情報・機会提供について	・障害児者が参加しやすいイベントが増えるとよい。そのイベントの取り組み、準備に当事者も加わり、共働できるとなるとよい。	刈谷地区心身障害児者を守る会
	・すべて手話通訳者が派遣できるように気楽に学べる環境をつくる。	刈谷市ろう者協会
	・放課後、土日などスポーツや音楽・芸術など気軽に参加できるシステムヘルパー利用の促進	愛知県自閉症協会・つぼみの会
	・福祉会館を利用してスポーツ・レク・芸術活動をされている方々の年齢層が高めである。支援学校の部活に入っていたお子さんが福祉会館で引続き活動できるような声かけがあってもよいのでは。	らっこちゃん親の会
その他	・作品展への出展（県育成会主催）やスポーツ（ぴゅあクラブ）は毎年行っている。	刈谷手をつなぐ育成会

[事業所]

区分	意見
情報・機会提供について	・障害のある方が自由に利用できるようなスポーツ施設や、日常的に設備を利用できる機会があればよい。他自治体のような障害者スポーツセンターはないのかといった、ニーズが聞かれる。
	・パラスポーツに参加したい人はたくさんいるが、どこで情報を得ればよいのかわからず、わかりやすくしてほしい。
	・障害のある方がスポーツ観戦できるような企画。また、選手との交流の機会を作る企画。
	・皆が平等に楽しめる機会の提供やインフラ整備の推進。
	・余興活動の場の充実。
	・自身で望んで触れることが少ないため、コロナ禍で制限はあるが、様々な機関が企画・招待をしていただくと参加しやすいこともある。
	・子ども時代から気兼ねなく参加できるものがあるとよい。
スポーツについて	・障害があっても地域の活動に入って、分け隔てなく活動ができる社会をめざしていけたらと思う。
	・障害をもっている方も様々な行事に参加できるようにしてほしい。
	・障害者スポーツ大会などのイベントがあると、それを目標に運動する機会が増えるので、普段の健康増進に効果があるのではないかと。
	・ボッチャ大会開催は続けてほしい。

区分	意見
文化活動について	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習への参加にも移動支援等のサービスが使用できるとよい。GHでも土日の過ごし方が一人では難しい方が多く、社会参加したくても職員がいないなどで対応が難しいケースがあるため。何かよい手段を検討していきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> 当事業所では、アート活動に力を入れているので、利用者が描いた絵を展示したり何かグッズ化したりできたらよい。そのような場の提供や情報があると、きっかけづくりになる。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 大学が近隣にあることから、もっと連携や活用ができればと感じる。
	<ul style="list-style-type: none"> 一般就労後の居場所になる場所があるかどうか分からない。

キ まちづくりについて

[団体]

区分	意見	団体名
移動・交通手段について	<ul style="list-style-type: none"> 地域の防災訓練など目にするが移動手段がないので難しい。参加して障害者のことを知ってもらいたいという気持ちは持っている。 	刈谷市身体障害者福祉協会
	<ul style="list-style-type: none"> 障害児者が参加しやすいまちづくり。電動車いすで外出すると路面の凹凸で操作が困難になるので改善してほしい。市内巡回バスのバス停にひさし（雨除け、日除け）がほしい。 	刈谷地区心身障害児者を守る会
災害時について	<ul style="list-style-type: none"> 近年の災害を見て、不安を感じる。会としても勉強会などで周知しているつもりではあるが実際には課題が多々ある。 	刈谷手をつなぐ育成会
	<ul style="list-style-type: none"> 突然、災害が発生した時に、状況伝達方法に関する不安がある。状況を把握できず、不安になってしまう可能性がある。 	刈谷市ろう者協会
	<ul style="list-style-type: none"> 災害が起きた時に自閉症とその家族は避難所へは行けない人もいるので日頃から防災と個別避難計画の作成の推進。 	愛知県自閉症協会・つぼみの会
障害者理解について	<ul style="list-style-type: none"> 道で声をあげていた人がいたので市役所に相談に行ったら「警察に行くように」の一点張りだった（くらし安心課）。保健所でも「ここでは何もできない」と言われた。少し残念だった。 	らっこちゃん親の会
その他	<ul style="list-style-type: none"> 身体障害者は町へ出る時には安心して移動できるバリアフリーがすべての場所が必要。トイレには大人用ベットの設置を新たに基準に加えてほしい。 このごろ多目的トイレとなり、本当に必要な人以外にも使っているケースが増えている。必要な人がいつでも使える障害者トイレでありたい。公共の障害者トイレは民間の障害者トイレより使いにくいことが多々ある。 刈谷市の障害者防災は、他市に比べて遅れているように思う。もっと迅速に対応が必要。本当に大災害が起こった時に障害はどうしたらいいのか。 	刈谷市肢体不自由児者父母の会

区分	意見
移動・交通手段 について	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの本数を増やしてほしいというニーズがあった。 ・バス停の増設。
	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡バスを利用したいけど障害があるために利用できないことが多い。少しの支援で自立できることも多く、運転手の方に理解していただけることで利用できる人も増えると思う。 ・合理的配慮をどのように考えるのかを一度、バス会社とディスカッションしてみたい。（高齢の方への対応は配慮できているため）
	<ul style="list-style-type: none"> ・移動手段については雇用の所でも記載したが、十分でないと感じる。刈谷巡回バスのワーキンググループにも参加しているため、こうした機会を大切にしたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・かりまる号（時間や便）について市民の意見に耳を傾けてもらいたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・刈谷市公共交通バス「かりまる」について、利用者が主に移動する8～9時台、14～16時台の本数が少ないためこの時間帯のダイヤが強化されるとより通所しやすくなると思う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子で移動する際の歩道の整備を進めてほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子の方が希望した通りに移動できるように交通機関との連携が強化されるとよい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に事業所のことを知っていただくことにより、交流や協力していただけたらと感じる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの便があまり良くない。もっと使い勝手が良ければ社用車ではなくバスを使った外出にも出かけられ、バスの利用方法など学ぶことができる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・電車に乗る時に電話で前もってスロープ設置をお願いしないといけないのをもっと簡単にできるとよいと感じる。（電話予約の際に名前など言う必要もあった）
施設利用について	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の利用の枠がもっと融通をきかせてほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの本数をもう少し増やせて頂けるとありがたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子、バギーでも利用しやすい社会施設を創っていくことが必要。 ・まだまだ施設、設備のバリアフリー化が進んでいないところが多い、障害のある方々との目線に立った改善を進めたい。
障害者理解について	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルプマークや、サポートブックの周知と活用が課題と感じる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・障害児者に優しい地域は、その他の社会的弱者にもやさしいまちになる。障害児者理解と社会参加は地域づくりの基盤としてとらえるべき。
	<ul style="list-style-type: none"> ・外出イベントの際に公共交通機関や近隣のスーパーに買い物へ出掛けることがある。暖かい声を掛けて下さる方もいるが、周囲の視線を感じることもある。防災や避難、困った際に思いやりや理解ある行動が増えると嬉しく思う。

区分	意見
災害時について	<ul style="list-style-type: none"> 福祉避難所は、個室が用意されているのかなど、バリアフリーな配慮がされているのか心配。
	<ul style="list-style-type: none"> 避難場所における支援。
	<ul style="list-style-type: none"> 避難場所の案内をいただきたい。
情報提供について	<ul style="list-style-type: none"> どこから情報を得ればよいのかわかりづらい。相談支援からだけでは十分に情報が得られない。 障害を持つ方は情報が行き届かないことが多く、今後も広報、周知をお願いしたい。事業所側も定期的に周知の機会を設けていきたい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 障害者や高齢者に優しい街づくりの実施。

ク 障害と障害のある人への理解について

[団体]

区分	意見	団体名
学校教育について	・市内小・中学校などで福祉実践教室を開催で次世代にも理解促進につながることを望ましい。	刈谷手をつなぐ育成会
	・教育の小・中学校での理解を進めていただきたい。 ・4/2 自閉症啓発デイの促進	愛知県自閉症協会・つぼみの会
地域や住民との交流について	・共働の機会が大切と考える。	刈谷地区心身障害児者を守る会
	・障害のある人にとって孤独を感じないように、地域での交流を増やしたい。	刈谷市ろう者協会
その他	・地域の人への理解を促進するよりも前に家族（保護者）への理解促進が大切。家族が交流をさける傾向があるのでまずはそこから。	らっこちゃん親の会

区分	意見
インクルーシブ教育について	<ul style="list-style-type: none"> ・障害児者に優しい地域は、その他の社会的弱者にもやさしいまちになる。障害児者理解と社会参加は地域づくりの基盤としてとらえるべき。そのために統合保育（インクルーシブ保育）が持つ意味と可能性はとても大きい。県内はおろか全国的にも例の少ない当事業所の実績を重視し、健全に運営ができるように力を貸してほしい。 ・特別支援学校・特別支援級に通う生徒たちと普通級の生徒たちが身近に関われる機会をもっと作ってほしい。 ・イルクルージョン促進を図ってほしい。
一般市民との交流について	<ul style="list-style-type: none"> ・農家の方と農業を一緒に行い、時間がかかるが障害のある方へ理解していただけるようになった。時間をかけ、一緒に仕事をすることで人として関わっていただけることが実感できてきている。 ・障害のある方も地域の役に立っているという事でやる気に繋がったり、よい方向となってきたと感じる。 ・コロナ禍となり施設側がより慎重となっており、行事を企画いただいても参加ができていないため、交流・ふれあいの機会が少なくなっている。 ・住民について記載した事と関連するが、理解促進のための地域交流の場があるとよい。 ・障害がある人もない人も皆で楽しめ、地域で交流できる機会（イベントなど）が増えるとよい。 ・日中一時支援の事業をとおして、買い物や散歩等地域の人と出会った時、あいさつや声掛け等ふれあいを大切にしている。 ・市が主催の地域交流会の開催。 ・地域での交流の場を増やしてほしい。 ・理解がある方の参加が多いため、一般の方が参加する講座、研修等、楽しみながら参加できるものが必要であり、連携してそうした機会を創出していく。 ・保護者のお知らせの中で産業振興センターにて防災経験をしたことがあり、その経験や地域でのふれあいを今後も検討していきたい。 ・発達障害に関しては各個人で特性が異なるため、言葉は浸透してきている印象だが理解促進のために地域イベントなどで交流できるとよいと思う。 ・地域での交流は保護者が気兼ねなく参加できるようなイベントがあるとよいと感じる。

区分	意見
その他	・福祉教育が基本となるが、現在の考え方の転換が必要である。
	・一般市民へのアンケートを実施して障害者理解への課題を抽出する必要があると思われる。
	・障害に対しての理解促進を強化してほしい。
	・ヘルプマークなど、身近なものについて周知があると少しでも、社会の理解が得られると思う。
	・障害（特性）の理解。
	・障害への理解促進を市から発信してもらいたい。

ケ 地域福祉の推進について

[団体]

区分	意見	団体名
ボランティア活動について	・ぴゅあクラブボランティアでは、愛教大の学生との連携がスムーズになっているのでありがたい。	刈谷手をつなぐ育成会
	・企業ボランティアの発達障害の理解促進。	愛知県自閉症協会・つぼみの会
協働・連携について	・私たち自身も他団体との協働、連携に主体的に取り組みたい。	刈谷地区心身障害児者を守る会
	・社会福祉協議会と連携し、学校での福祉実践教室を推進している。 ・障害者フォーラム（各団体）と連携し、刈谷市がより良くなるように話し合い実施。（5回／年）	刈谷市ろう者協会
その他	・外部に向けての活動をしている団体にはそれなりの金銭的支援を。（団体の内部向けは自分たちのサイトでやればよいかと）	らっこちゃん親の会

区分	意見
ボランティア活動について	<ul style="list-style-type: none"> 福祉サービスのみでは、利用者の生活を支えることができないため、ボランティアの方は重要な社会資源である。ボランティア講座などを法人でも実施していきたいと思っている。
	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍においてボランティアについては参加側、受け入れ側双方にとって課題があると思う。法人間で合同研修や合同イベントなど、手の届く所から実施できればと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア団体の情報がほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動があるのかと思うほど見かけない。携わってもらってない。
	<ul style="list-style-type: none"> 障害をお持ちの方が地域と繋がるボランティア活動の機会が増えるとよい。
	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方のボランティア参加を受け入れたが、仕組みがあるのかもわからない。(他市町村では地域の学生さんがボランティア参加する流れができている。)
	<ul style="list-style-type: none"> 市民団体、ボランティア団体との交流などを増やしていきたい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 学童時代に障害福祉について知る機会、体験できる機会があると障害を持たれる方に対し、早い時期から理解促進へとつながるのではないか。
	<ul style="list-style-type: none"> 福祉事業所と地域の方(民生委員や児童委員、地区長など)が、情報共有できる機会や場があるとよい。
	<ul style="list-style-type: none"> 祖父母の介護や重度の子どもをケアしていると団体には入りにくい。
	<ul style="list-style-type: none"> 月1回、刈谷市のスペースアクアにて、人間関係のために生きづらさのある方に向けたワークショップを開催している。
	<ul style="list-style-type: none"> 認定NPO法人アジアくるまيس交流センターにお手伝いしていただいて、当法人会員の方の車いすの清掃活動を行っている。
	<ul style="list-style-type: none"> スタッフや団体の意識により差が出てしまうが、福祉専門職としてはやるべき活動のため、今後もできる範囲で続けていきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> いくつかの学校への送迎時間が重なっていることが多く、道路の交通渋滞もあり、お迎え時間が遅くなってしまうことがある。そういったときに、快くお待ちいただけると有難い。

(2)その他の意見

[団体]

意見	団体名
<ul style="list-style-type: none"> ・刈谷市民休暇村サンモリユ下條の利用について、交通のアクセスに昇降機（リフトバス）の付いたバスがあれば障害者はもとより高齢化にともない乗り降りが不自由な住民でも気楽に利用できるのではとの声がある。 	<p>刈谷市身体障害者福祉協会</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・来年度「育成会」の東海北陸大会が刈谷で行われるので、この機会に地域の中で広く周知されることを願っている。（担当：刈谷ブロック（刈谷、安城、知立、高浜、碧南） ・コロナ禍で制限があるができる範囲で障害者への理解が広まることと、子どもたちの将来に向けて安心した暮らしができるようになることが望ましい。今後お願いすることも多々あるかと思う。 	<p>刈谷手をつなぐ育成会</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・「にも包括」は事業が始まって5年も経過している。刈谷市の計画では「地域包括システムの機能について検討します」とあるので早期に平均な機能を提案してほしい。 ・地域生活支援拠点等の整備 事前登録が少ない。「病気や事故などにより日頃介護をしてくれる人が家に不在となる時に不安のある人の対策であれば多くいると思う。支援が見込めない人の掘り起こしを実施してほしい。 ・ピアサポーター 愛知県はピアサポーター養成研修を実施している。修了者は100人以上と聞く。 <p>①ピアサポーターを地域移行に参加させる。（雇用する）</p> <p>②ピアサポーターを別として当事者団体を育成してほしい。</p>	<p>刈谷市地域精神障害者家族会</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・私たち団体が関係する障害者施策は遅々として進まないように思う。市からの回答には、国や県の法律・規定にしばられてそれ以上を行うことはない。障害者やその家族が本当に困っているなら、障害者と直接関わっている市が何らかの対応をすべきではないか。国や県の施策・法律にはそれぞれの地域で柔軟に対応することも記されている。市独自の柔軟な対応があまりにもない。十分に実態に理解していると言いながら、市は行動をおこさない。本当に障害者のためにやる気があるのかと思う。また、早く実態をつかみ、計画を立て、迅速な対応・対策がないと感じる。スピード感をもって進めてほしい。障害者計画を今後策定するにあたって、障害者の親すべてが思っている「親亡き後」の問題を扱ってほしい。親亡き後をキーワードにして計画の中に盛り込み具体的に進めることを強く要望する。 	<p>刈谷市肢体不自由児者父母の会</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・NPOだけがよい活動をしているわけではないので、任意団体や会社で障害者支援をしている団体があれば、後援や助成をつけてほしい。（NPOをつけることで動きにくくなるので） 	<p>らっこちゃん親の会</p>

意見
<ul style="list-style-type: none"> ・障害者福祉は、とにかく人材が乏しいので、人材確保の機会（刈谷市主催の福祉分野限定就職フェアなど）、障害者福祉の賃金補助、職員教育研修の経費補助などがほしい。 ・福祉事業所の IT 関係の整備がなかなか進まないで、刈谷市が福祉事業所と地元企業のプロボノを繋いでほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・提供される情報が利用者間でバラつきがあるのではなく、皆が平等に情報を知ることができ、進路を選択することができ、地域で生きていけるようにしてほしい。 ・障害を持った人も歳を取ったら老人のデイサービスやショートステイを普通に使えるようにしてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・現在福祉サービスが必要な子どもがどれほどいるのか、また今後その人数に対応ができる福祉施設がどれくらい必要になるのかを知りたい。その人数に対応ができる準備が必ず必要になるため、事前の調査や情報に即した計画が必要になると考えられるため。
<ul style="list-style-type: none"> ・「近隣市町村に倣って」や「法令に順守しすぎる」のではなく、利用者に寄り添った柔軟な対応をしていただきたい。特にサービス利用や支給決定などに活かしていただけるとよい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルパーの担い手不足について高齢者施策においてもヘルパー育成に対する要望を出している。障害者施策でもヘルパー育成について取り組んでいただきたい。施設で働くために資格が必要ないこともある。しかし、在宅に関わることになるとうべての職員に資格が必要とされる。移動支援においても居宅介護においても在宅でのサービス提供には資格が必要。施設で働くうちに資格を取得される方も多くいるが、働いていない人の中には資格を取得したいが資格取得の方法がわからない人・何を取得すればよいかわからない人もいるのではないかと。現に「ヘルパーとして働きたいがどんな資格が必要か教えてほしい」と事業所に問い合わせがある。高齢の分野においては初任者研修などの育成に対する啓発が盛んに行われている印象があるが、障害の分野においてはあまり盛んでないように感じる。「資格を取得したいが、何をとればよいかわからない」「働く前に資格取得をと考えている」そんな人が潜在的にいるという印象があるので、初任者研修は福祉の基礎的な部分でと考えるので、啓発活動してもらいたい。 ・福祉分野で働く人の中には、「障害分野で働きたい」や「高齢分野で働きたい」といった志がある方もいる。その人たちの資格を取得したいという意味を高齢者施策と障害者施策で協力して考えていただきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・警察との連携も今後は必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・入所施設では、利用者が高齢化してきているが、特養等への移行がなかなか進まない。本人の状態的に要介護3以上が出ないこともあるが、利用料の違いによりご家族の理解が得られにくい。ただ、障害の入所施設で元気な方と生活していくことが難しい方に対する特例入所の相談ができると助かる利用者もいる。 ・開所から30年経過してきて時代に合わない施設となっているので、個室化等利用者の方が住みやすい環境を提供していくための改修工事が必要な状況となっている。 ・障害福祉サービスの人材不足は深刻な状況であり、事業所の職員確保の方策は進めているが、改善には程遠い状況。
<ul style="list-style-type: none"> ・施設入所の利用者の方で地域移行を進めていく上で、利用者の方が移行にあたって様々な課題があるため、実際にはなかなか進まないがまずは体験利用から行えるとよい。ただ、家族が希望されないことに対する説明、またマンパワーの問題等をクリアーしていかないと難しい部分もあると思う。

意見

- ・自立支援協議会をもっとうまく活用したい。知的、身体、精神の分野ごとでも困りごとや地域課題は違ってくるかと思うが、これらに対して1つずつでも刈谷市ならではの施策やサービス創造につなげるためのツールとして活用できるのが理想ではないか。
 - ・専門的な人材育成 地域生活支援拠点の機能の1つでもあるが、どの事業所、団体も人材不足に陥っていると思う。このままでは福祉人材がどんどん少なくなり、各事業所・団体における教育や指導もままならない状況が誘発されていくのではないかと不安が強くなる一方である。
 - ・法整備における責務の強化これらを抑制する有効な手段の1つではあるが、これだけでは現場のスタッフが疲弊する。
人材育成及び確保のためにも、刈谷市として市内事業所に対する研修会の開催や、人材発掘のための学校教育機関への働きかけ等、考えていくべきだと思う。
 - ・事業者の招致「招致」とは言葉の意味が違うかもしれないが、「刈谷市に事業所設置を考えたが、考えを改めた」とする事業者が過去に1例あった。地価の課題もあったそうだが、市内の事業所について単純な設置数だけでなく、刈谷市が目指す福祉サービス提供体制を改めて具体的にする必要があるのでないかと感じる。
-
- ・発達障害と診断される子どもが増えてきている。学校と福祉がさらに連携することによって、その子どもたちによりよい刈谷市になってほしい。
-
- ・刈谷市に重度の身体障害の人たちの入所施設がない。グループホームはあるものの、短期入所は市外の施設をたよらなくてはならない。遠くに行かなくても市内に受け入れ先があるととてもありがたい。
-
- ・すでに障害者施策だけではまかないきれない。さまざまな課題を利用者一人一人が抱えている。高齢、ヤングケアラー、8050、生活困窮、外国籍、触法、子育て等それぞれの関係機関が重層的に関わって、皆で支援する体制を早急に作ってほしい。
 - ・本当に悩んでいる人はSOSを出す力もなくなっている。ニーズをキャッチできる地域に密着したシステム作り「ヘルプ」が言える人しか支援できない「待ち」の姿勢では本当に困っている人には何もとどかない。
-
- ・支援について不安も多くある。世話人同士であったり、サビ菅同士が顔を合わせる機会などがあるとグループホームの横のつながりができ、地域課題が見つけれたり、改善につながる。
 - ・コロナ禍にての刈谷市地域応援商品券を皆さん喜ばれていた。こちらのおかげで自分たちも地域の一人として応援ができたことを誇りに思ってみえた方もいる。障害がない、年が多い少ない関係なくみんなが笑顔で刈谷にて過ごすことができるように期待する。
-
- ・障害者施設に対しての待遇改善等をお願いしたい。
-
- ・質のよいサービスを提供するためには、質のよい人材を確保することも必要。現在の人材不足の中で質のよい人材を確保することが難しい。そのため職員の賃金アップにつながる取り組みをしてほしい。
-
- ・色々な利用者様がいる中で、市との情報共有をし、ニーズに合わせた事業所選びをしていただきたい。

4 面談ヒアリングまとめ

(1) 団体・事業所ヒアリング調査結果

ア 刈谷手をつなぐ育成会

	内容
活動種別	障害児を持つ親の会
ヒアリング日時	令和5年1月6日 10時～
場所	刈谷市役所

【団体について】

- ・当事者の平均年齢は40歳前後で、親はもっと上の年代となる。
- ・現在84世帯が会員であるが、以前は100世帯ほどであった。人数は減ってはいるものの比較的フットワークが軽い会員もいるため、幽霊会員がいるよりは、しっかり活動してくれる人が多い方がありがたい。
- ・新規加入者は少ない。毎年、特別支援学級の保護者等で加入の流れがあったが、行事が少ないのでできていない。どの会も一緒だが、会に所属することを敬遠される人が多い。卒業後に入会される人がコンスタントに出てきている。一方で高齢の親が退会する例も出てきている。また、幼児の母親は子育てで忙しいので、活動が難しいのは理解している。

【団体の活動について】

- ・WEBの活用について、ZOOMの会議、講演会の案内をしても活用が少ない。Wi-Fi等の環境が整っていない施設が多いため、整備されるとよい。
- ・若い親世代を取り込むためには絶対にWEB活用は必要。他市町村はWEB講演会で多くの利用があった。質問もチャットでするということもやっていて、若い世代がWEB活用をしていることを実感した。WEBをうまく活用できるように、使い方の講習があるとよい。

【雇用・就労について】

- ・一般就労の人も昔とは比べものにならないほど増えてきている。障害者雇用の法整備が影響している。
- ・会員は熱心で、親自身が就労先を開拓してきた歴史もある。実績が積みあがってきている。
- ・就労継続支援B型や生活介護は、会員内でみると、全国平均の工賃を下回っている状況。仕事量、工賃に関しては昔に比べてよくなってはいる。福祉事業所もさらに努力してほしい。子どもの将来を思うと、せめて全国平均はほしい。親亡き後に年金だけという生活は難しい。
- ・今の親御さんは、共働きが増えているのもあり、利便性を重視して、就労継続支援B型より送迎や昼食がある生活介護を選択する人も見られる。

【不足しているサービスについて】

- ・日中一時支援が不足している。学校に通っている間は、放課後デイサービス等充実しているが、卒業後に居場所がなくなる。今は日中一時支援の事業所も選択肢が少ないし、場所が狭く、人員も不足している。選択肢の幅が広がるとありがたい。

- ・放課後デイサービスを利用してきた人が卒業したらもっとニーズが増えてくると思われる。放課後デイサービスは事業所が増えてきているが、日中一時支援は新規がほとんどない。共働きが増える中、仕事の継続ができない親もでてくるのではないかな。

【療育・子どもの教育について】

- ・放課後デイサービスの充実はよい面もあるが、子どもとの関わりが減っていることが危惧される。
- ・子どもが人と関わることは大事であり、周囲とのコミュニケーションで助けられることも多い。サービス利用を通して子どもに関わっている人が増えるのは孤立を防ぐ意味でもよいが、依存するのは違う。トイレトレーニングも任せている親御さんもいる。子育ての放置にならないようにしたいが、孤立すると虐待も心配。

【防災について】

- ・避難所で過ごせるか不安が大きい。アンケートをとっても自宅での避難を希望する人が多い。福祉避難所が進んでいるので期待したい。
- ・会員の中には、防災訓練に参加していない人も多い。一般の人もそうだが、地域によって差がある。
- ・自宅での避難は物資が手に入らないことは伝えているが、もっと周知した方がよい。
- ・県の育成会では東日本大震災の時の事例として、障害児の孤児もかなりいるとのことであった。
- ・会では、社協と協力して、防災訓練などをやるべきこととして、引き続きやっていきたい。

【コロナ禍について】

- ・グループホームでコロナが発生したときは、親亡き後の対応のイメージができ、安心感を持てた。
- ・子どもの職場が大学の生協であり、給料は保証されながら、1年くらい休みになった。その間は地域活動支援センターに通っていたが、子どもに合う居場所があってよかった。
- ・親御さんがコロナで入院された家庭があったが、周囲の支援で過ごすことができた。比較的軽度の子だったのでよかったが、重度の子であったらどうなっていたか心配である。
- ・家に閉じこもりがちでうつになる親御さんなどがでないよう、月例会だけは続けていた。

【障害理解について】

- ・福祉実践教室は、参加してくれる人もしっかり聞いてくれるので、重要な活動である。教える側になると会員のスキルアップにもなる。福祉実践教室の講師をしたいという理由で会に加入する方もいる。

【ペアレントトレーニングについて】

- ・特別支援学校の勉強会でも参加が多いので、親御さんが情報を求める声は大きい。
- ・療育に対しての親の考え、姿勢や子どもの希望もあるが、発達障害の子については普通学級では辛くなり、不登校になってしまう子もいる。

【サービス利用について】

- ・ 障害者が高齢になり、介護保険サービスに移行する際に金額のこと、利用できるサービスのことなどがわかりにくいため、整理しておく必要がある。

イ らっこちゃん親の会

	内容
活動種別	障害児の親の会
ヒアリング日時	令和5年1月6日 13時00分～
場所	刈谷市役所

【活動について】

- ・もともと親を支援した活動だったが、「支援者を支援する」活動に移行している。
- ・この会が居場所のひとつとなっている。来たい人は誰でも来れる場所。活動15年になった。
- ・以前に比べて障害者支援が受けやすくなったので、行政よりも、耳に痛いことも助言するようにし、「育てる力」「育つ力」を奪わないように心掛けている。それが支援者の支援につながる。
- ・NPOを立ちあげた人も高齢になってきている。代替わりできればよいが、他の会の多くがなくなっている。

【複合的な課題について】

- ・活動の目標は地域で子どもたちが暮らせるようにすること。高齢者と違い、障害のある人がどこに住んでいるか分からない。そのため、オープンにはしているが、活動に進まない。保護者は周囲を閉ざしてしまうことが多い。軽度の方が地域に住んでいるはずだが、支援につなげることが難しい。
- ・地域で困っていた障害者について、市役所に相談に行ったことがあったが、たらいまわしになった。本人からの相談でなければ支援につなげられないということだった。その時は自治会に確認したらわかったが、家族からの支援の希望がなく、支援がストップしていた。結局きっかけがあって支援が入ることができたが、もっと手前で支援ができたならよかった。
- ・独居高齢者より障害者の方が支援につながりにくい。
- ・障害者が地域、周囲との関わりを避けてしまう。周りには気にかけている人もいる。支援者がやるせないことにならないようにしたい。
- ・親御さんによって情報格差がある。制度を知らない人、知っていて頻繁に利用している。高齢者の場、障害の場ではなく、誰もがいける第三の居場所が必要。

【必要なサービスについて】

- ・ファミリーサポートのようなサービスがあるとよい。ファミリーサポートをする際の研修のように、障害のある人への対応について、学んでくれる人が増えるとよい。自分ごとに考えている人が一人でも増えるように仕組みができることが必要。
- ・移動支援は専門業者がやっているが、そうでなくてもよいのではないかな。
- ・福祉実践教室の大人版のように研修ができるとよい。
- ・特別支援学校に通う子につきあって電車で行っているが、トラブルも目にする。その時にどこまで支援してよいか迷う。移動支援のニーズがあるのでは。
- ・支援に対して有料であることも利用者は意識したほうがよい。サポーターは有料ボランティアであることが重要。そのことでずるずると利用を続ける、ということを防げるのではと思う。

【障害理解について】

- ・放課後デイサービスの事業所の看板を見かけることが増えたので、興味を持ってくれる人が増えたと思う。
- ・パラリンピックなどでメディアの発信も増えてきた。白杖や車いすなどは障害と分かりやすいが、知的・発達障害は家族が交流を求めている。
- ・子どもの育ち方がゆっくりのため、親の成長イメージと違うことから、他の家族と交流を持ちにくい。以前は家族会で集まって、制度を変えるという活動だったが、制度も整ってきた今は個々になってきている。成長においても他者とのコミュニケーションは大切。
- ・交流を望まない家庭が増えた印象。「餅は餅屋」というイメージができています。
- ・障害の種類が多すぎて知的と精神は保険会社の書類に書きにくいと保険会社に言われた。障害をくぐる難しさを感じる。しかし線を引かないと事業を担保できない。

【ピアサポートについて】

- ・ピアサポートができるところが減っている。行政、専門という様々な立場の人がいることが大事なので、支援が重要である。

【保健・医療について】

- ・働く親が増えて、育てるためには切り替えがあつてよいとは思いますが、親が子どもと向き合う時間が少なく、子どもに何をさせてよいか分からない人も出てくる。
- ・放課後デイサービスがあるうちはよいが、卒業した後に居場所がなく、仕事が立ち行かなくなる可能性もある。
- ・グループホームは以前ニーズがあつたが、今は少し落ち着いてきている。
- ・訪問支援も知らない人が多い。
- ・保育園への訪問支援も知らない人が多い。0歳から保育園に入ることでも問題がわからないことも出てくるので、園が主導でできるとよい。
- ・相談が多いのが年長から小学校入学の時期。そこで先生に言われて初めて障害に気づくという人が多い。考える時間が無くて通常学級に入り、ドロップアウトしてしまうという例もある。周囲の支援者からも指摘しづらい。

【生活支援サービスについて】

- ・支援者の育成に関して、生活に余裕がある人がやってくれるとよい。どうしても低賃金になってしまうので、心にゆとりがある人がまわっていただけるとよい。
- ・20、30代の専門に勉強した人でも、経験値が少ない。高齢者の経験が生かされるとよい。シルバー人材センターの仕事も障害のある人に分けてもらいたい。それぞれに合う仕事があると思う。

【雇用・就労について】

- ・仕事のバリエーションが少ない。刈谷市は農業がない。他自治体では農福連携をしている。刈谷市は土地柄で部品の組み立てなどの仕事は多くあるが、それが合わないこともある。
- ・部品組み立てが合わないと、すぐに就労継続支援B型か生活介護になってしまうことがある。
- ・性別、外国人、障害など、うまく横断支援できる仕組みが同じ建物でできるとよい。
- ・刈谷市でも北部、中部、南部でエリア別に拠点があるとよい。

【教育・育成について】

- ・特別支援、通級のハードルが下がり、支援をプラスしていくことが増え、支援を引き算することが難しい。
- ・支援者支援が必要。予算がかかるので、コストも考えないといけない。個別ではお金がかかるし、本当に必要かというよりも、情報を持っている人に支援が流れてしまっている。

【スポーツ・レクリエーションについて】

- ・スペシャルオリンピックスを活用していたり、近所の習字、ピアノなどに行かせている人もいる。一方で、障害福祉の放課後デイサービスでボランティアや低価格でやっているの、あえて、障害の子に習わせることの優先順位が下がってしまっている。
- ・余暇活動ができる施設が17時までだったりするので、仕事帰りに行ける場所があるとよい。

ウ 刈谷市地域精神障害者家族会

	内容
活動種別	精神障害のある人の家族会
ヒアリング日時	令和5年1月6日 15時～
場所	刈谷市役所

【団体の活動について】

- ・団体の活動自体継続が難しい。刈谷病院の家族教室へ行ってPRしているが、3回行っても加入者がいない。他に役員として手を挙げる人もいない。会員も高齢化している。
- ・団体、サークル等も全体的に減少している。以前は精神の人も行き場がなく、保健所主導で家族会を結成し、作業所を作ったりとしてきたが、今は団体も続けられるか心配。

【障害理解について】

- ・岡崎市の警察署内で死亡事件があった際、報道で精神疾患であったと伝えられていた。因果関係もない情報を流しており、事件と障害を結び付けるような報道が多い。偏見が広がってしまう。
- ・以前から比べても障害理解が広がっている印象はない。「精神障害はよくわからないもの」ということを報道などでも刷り込まれているので、早い段階で教育が必要である。

【保健・医療について】

- ・インターネットをみても、発症が若年化しているように思う。早期発見、早期治療が大切であるし、正しい知識を得ることが必要である。

【生活支援サービスについて】

- ・グループホームや一人暮らしの練習ができる場所があるとよい。
- ・日中支援型の20名定員のグループホームも市内にできるなど、充実してきているが、地域生活支援拠点も一人暮らしを想定したものであり、促進してほしい。「親亡き後」の自立を考えないといけない。親が家を出ても子どもは生活できる例は多い。
- ・6割の家族が子どもに暴力をふるわれている。それをきっかけに親が家を出ることもある。
- ・グループホームも終の棲家になればよいが、集団生活に向く人、向かない人がいるので、一人暮らし支援も進めるべきである。

【相談体制について】

- ・刈谷市の場合、基幹相談支援センターが「最初の窓口」と言いながら、日中だけである。最初の窓口と言うなら24時間、365日すべきである。登録すればコーディネーターの連絡先を伝えられるということだが、登録なしでも24時間、365日相談できるようにしてほしい。

【雇用・就労について】

- ・ 工賃について、製造業も多くあるので、工賃の向上について企業に働きかけをしてほしい。
- ・ SDGs の視点でも企業にがんばってもらいたい。

【地域包括ケアシステムについて】

- ・ 精神障害者を含めた地域包括ケアシステムが何年も「検討」となっており、進んでいない。また、その中に「元気な家族会」とあるので入るべきではないか。
- ・ 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」は 2020 年までにやるはずだが、全然進んでいない。
- ・ 保健所の教室でグループワークをしたが、二人の母親が医療にもかかっていない、年金もない人がいた。職員も「本人に自覚がないと難しい」と言っていた。アウトリーチを進めないといけない。

【地域生活支援拠点について】

- ・ 事前登録者が 0 である。問い合わせは情報開示されていないが 5 件くらいあったようだが、登録に至っていない。必要な人は潜在的にいるはずなので、掘り起こしが必要。
- ・ 口コミでも広報誌でも、情報を発信して広げていくことが必要である。

【ピアサポーターについて】

- ・ 県がピアサポーター研修を行っている。元気な当事者がふえているのではないか。家族会は当事者を支援するためにあったが、当事者が元気であったり、ピアサポーターが支援してくれればよい。
- ・ 家族会が声をあげるよりも、当事者の声が届く方が本当はよい。
- ・ ピアサポーターが地域移行に参加していけるとよい。

エ 刈谷市ろう者協会

	内容
活動種別	聴覚障害のある人の福祉の推進
ヒアリング日時	令和5年1月10日10時～
場所	刈谷市役所

【団体の活動について】

- ・毎年、9月に国際ろう者週間の日があるので覚えておいてほしい。

【障害理解について】

- ・スポーツジムでは、有事の際、聞こえないと安全面が確保できないため、入会を断られることがある。飲食店でも、筆談でも対応してもらえないところもある。ろう者に対する理解を広めてほしい。
- ・駅など公共の場所で、ろう者だと見た目ではわかりにくいいため、問題があった時にすぐ対応してもらえない。
- ・福祉実践教室の開催をもっとしてほしい。1週間に1回くらいあるとよい。また、高校生対象の実践教育があるとよい。継続することが大切である。

【相談体制について】

- ・病院以外にも相談できる場所があるとよい。障害が判明した時に、病院では人工内耳を進められるが、手話という選択肢があることを人工内耳の手術の前に伝えられるとよい。病院ではない相談場所が分からない人もいて情報格差がある。

【手話通訳・字幕サービスについて】

- ・手話通訳の技術をもっと広めてほしい。手話通訳のレベルアップ講座を受けたいという声があるので、講座を開催してほしい。
- ・コロナ禍で遠隔の通訳サービスも増えたが、高齢者にもわかりやすい工夫をしてほしい。
- ・ケーブルテレビのキャッチネットワークの番組では、いままで字幕はほとんどついていなかったが、つくようになった。しかし一部字幕がついていないものもある。
- ・大学の講座などは手話通訳の派遣があるが、趣味などの講座には手話通訳があまりいることがない。現在は、講座に共に参加している友人等に手話通訳をしてもらっている状態。

【情報取得について】

- ・事故や災害がおきたとき、自分だけが取り残される。刈谷市総合文化センターでも、部屋にいるときに、防災に関する視覚でわかる情報がなく不安がある。
- ・コンビニなどでは、わかりやすく掲示などで説明されているものが増えてきている。

【教育について】

- ・保護者が手話を勉強するサークルが以前にはあった。保護者同士で交流できる場があるとよい。
- ・ろう学校への通学が長く不便なため、専用のスクールバスがあるとよい。

【防災について】

- ・地域の交流がない。地域の防災訓練に参加したいが、最近が開催の連絡がない。地域ごとに活動に差がある。刈谷市全体での防災訓練だけでなく、地域でも開催してほしい。

【雇用・就労について】

- ・一般企業でのコミュニケーションについて、筆談で仕事内容を伝えるのは、固有名詞や、仕事内容が複雑になると、説明が難しい。手話通訳があるとよい。
- ・文字起こしシステム（UDトーク）がろう者に対して広がっていない。導入している企業としていない企業があるなど、企業によっても差がでている。

オ 刈谷市肢体不自由児・者父母の会

	内容
活動種別	重度心身障害児・者の親の会
ヒアリング日時	令和5年1月10日 13時～
場所	ひかりワークス風鈴

【活動に必要な支援について】

- ・行事については決まったボランティアがいるが、クッキーづくりやコサージュづくりについては慣れないボランティアでは難しい。必要なタイミングがまちまちで、なかなか依頼しづらい。柔軟に対応してくれるボランティアがいてくれたら助かる。
- ・クッキーづくりを20年、コサージュづくりを10年続けてきた。これが続けられるのは地域の理解があったから。コロナ禍では売る場所が減ったが、刈谷市がその際に1年間はまとめて発注してくれていたため、場所の提供等の支援があるとよい。

【障害理解について】

- ・コロナ禍になって外にでられない。マスクもできない。特に福祉ふれあいフェスティバルの参加条件がマスク着用であり、重度の人はつけられないため、参加できなかった。不合理さを感じた。障害理解があればもっと対応ができたのではないかと。

【生活支援サービスについて】

- ・60～80代の親の子はこれからの生活を誰が見てくれるのか不安。

【グループホームについて】

- ・緊急時の受け入れができる365日型のグループホームを一つでも開所してほしい。
- ・親が亡くなった人は施設に入った人もいる。だが、親は施設には入れたくない、閉塞感があるところで生活させたくない、子どもにはある程度変化があるところで過ごしてほしいと考えている。
- ・胃ろうをしている子どもは医療行為ができる人が必要。自分で食べられた頃は事業所に通っていたが、医療行為が必要になったため、どこにも通えなくなった。いろいろな人に関わってもらいながら、地域で暮らしていけるようにしたい。受け入れる事業所があるとよい。東京や大阪にはある。ひとつでもあれば心強い。
- ・グループホームをつくるにも、身体障害は民家を普通に改造するだけではできないため知的等に比べるとお金がかかる。自分たちだけでやってきたが、もうどうしようもない。助けてほしい。

【教育・育成について】

- ・刈谷市立の特別支援学校ができ、医療、教育も手厚くやってもらっている。
- ・在学中は放課後デイサービスは家に送迎をしてくれる等サービスが充実しているが、卒業後に日中一時支援を利用しても6時間と短くなり、親は子どもが在学しているときと同じように仕事が続けられない。

【防災について】

- ・自宅避難しかできない人もいるが、刈谷市の支援についてなにがあるか情報がない。
- ・地域によって自治会、民生委員の対応に差がある。避難行動要支援者名簿を作してほしい。障害個々に応じた対応が必要である。
- ・福祉避難所について、特別支援学校があるが、刈谷市の南部にあるので、北部、中部の人は行くことが大変である。北部、中部にも歩いて行けるような福祉避難所があるとよい。

【相談体制について】

- ・介護サービスのように、困っていることを気軽に相談できるようにしてほしい。親亡き後が特に不安。

【親亡き後について】

- ・刈谷市肢体不自由児・者父母の会では、「親亡き後」を一番の課題と考えている。「親亡き後」の問題を一つの課題として障害者計画に位置付けていただきたい。この課題を包括的にとらえ、対応・対策を行ってほしい。住みかとなるグループホームの問題、日常品の購入等のホームでの生活、年金の支給やホームへの支払等金銭に関すること、成年後見人制度の活用、世話人の役割、看取りの問題等を課題として扱ってほしい。

カ 特定非営利法人 くるくる

	内容
提供サービス等	放課後等デイサービス、自立訓練（生活訓練）、就労移行支援、就労定着支援、就労継続支援B型、生活介護
ヒアリング日時	令和5年1月13日13時～
場所	刈谷市役所

【提供サービスについて】

- ・刈谷市では事業の増減の予定はない。
- ・放課後デイサービスを3つの業態、小学校1年生から高校3年生でやっている。学習、運動、就労とそれぞれの特徴によって一定の利用見込がある。
- ・就労移行支援は就労すると必要なくなる。今年度から市内に競合他社の参集もあり、お金をかけた広告を出している事業所に流れる傾向がある。
- ・相談員からの紹介などで見込まれていたが、大手他社に決まってしまった。古くからのノウハウや、地域密着の強みはあるが、本人のニーズによる。前からの利用者も他の事業所に流れている。
- ・刈谷病院のデイケアへの出前講座もやっている。
- ・生活介護、就労継続支援B型の「みらくる」については多機能に変更した。不登校の人や引きこもり等、社会性を育成する必要がある人がいるためである。
- ・生活介護は特別支援学校の卒業生で埋まってしまっている。
- ・区分認定はもう少し重くてもよいという人も何人かいる。
- ・自立訓練は今年から通信制高校のサポート事業を行っている。社会に出ていくサポートが必要だと感じる。発達、精神の人が増加し、能力よりも心構えが足りない例が多い。働くための準備が必要である。
- ・就職はできても、つまづいてしまうことも多い。
- ・放課後等デイサービスからのつながりだとまだよいが、受容できていない人もいる。
- ・就労移行支援をすぐ利用するよりも、就労に向けて自立訓練が1段階前にあるとよい。
- ・発達障害は、発達段階に応じてやるべきことができていないことが多い。特にコロナ禍で顕著になっている。

【コロナ禍の影響について】

- ・罹患する人が増加すると利用がなく、運営に影響があった。離職、精神不安等もあった。
- ・利用者に必要なことやろうとすると真面目にやるほど法律のこと等、大変である。頑張りが評価されていないと感じる。
- ・感情労働であり、スキルもいるが、影響も大きい。

【人材確保・育成について】

- ・障害者の就労支援だと、自分よりも年齢が上の方に指導するので、年齢の高い職員も雇用している。
- ・最低限の知識も教える余裕がない。
- ・新卒職員については、定期的に研修をしている。
- ・人事考課制度を採用し、「働かない人」がいないようにしている。
- ・今後も採用予定があるが、給料も低いため3～4年でやめてしまうこともある。処遇改善もあるが、もう少し給料があると定着につながる。長く続けてもらうことが大切である。

【教育・育成について】

- ・3種類の放課後デイサービス「ふいっとくる」「みらくる」「まなくる」で併用したり、小学校から中学校に上がる際につながりがあって安心感があるという意見がある。情報が途切れやすいということである。
- ・以前よりグレーゾーンの子どもが増加している。集団が苦手な子どももいる。
- ・学校との連携ができるとよい。子どもの支援で共有したい。忙しいことが障壁になるが、以前よりも協力ができるようになっている。
- ・年少から問い合わせがあり、「ふいっとくる」でもサービス利用を待っている人がいる。
- ・未就学から小学校に上がる時のギャップがある。

【相談体制について】

- ・他法人の相談支援事業所でプランを作ることを行っているが、モニタリングが十分でなかったり、他のサービス利用の情報が入らなかったりということがある。
- ・一人に対して複数の担当で多種連携があるとよい。理想は相談員を中心に回るのがよいが、計画作成で手一杯のようである。

【不足しているサービスについて】

- ・グループホームは多いが、自立度が低い人の住まいが不足している。
- ・就労支援を希望する人も多様になっているので、アウトリーチ支援が必要。しかし家庭にも問題がある場合も多いので、学校との連携や、縦割りではなく、つなぎの部分をしていく必要がある。例えば、モラトリアム期にうまくいかなかった人は、就労移行に戻れないので、サービスを柔軟に考えてほしい。就職して失敗したときその問題点をクリアにしていくトレーニングが必要である。今の制度だと、就労継続支援B型になってしまうが、そこで力はつかないのではないか。楽だからと言って就労継続支援B型に定着してしまうと、本来の力を発揮できなくなる。他市だと柔軟に考えてくれるところもある。
- ・重度者は入所しか選択肢がなく、人によっては環境が合わないところがある。重度者向けのグループホームがあるとよい。自立度の高い人のグループホームは充実してきている。
- ・相談員の確保が必要。時代が変わっていくので、将来を見据えていくことが必要。
- ・放課後等デイサービスは、送迎があるところに流れていくことがある。内容より送迎があるかで見ていることもある。

キ 社会福祉法人 ひかりの家

	内容
提供サービス等	児童発達支援、保育所等訪問支援、放課後等デイサービス、計画相談支援、地域移行支援、地域定着支援
ヒアリング日時	令和5年1月13日15時～
場所	社会福祉法人 ひかりの家 こども発達支援センターひかりっこ

【事業について】

- ・どんな障害でも受け入れることをポリシーとしている。
- ・福祉サービスではないが、訪問看護ステーションを新規で立ち上げる予定。
- ・どの事業も希望者の方が多い。放課後等デイサービスは来年の利用児童もすでに多い。保育所等訪問支援についても日数を減らしていたりする。人的、場所の課題がクリアになれば充実できる。
- ・生活介護「ひかりワークス鈴の音」のニーズはあるが、重度の方を受け入れる事業所が少なかったが、ここ数年、他の事業所も増えており、やや空きがある状況。
- ・医療ケアのニーズがとても高い。競合がないので、他市からも来ている状況。他の圏域は重度の方が通える事業所は少ないが、刈谷市は特別支援学校卒業生の選択肢が増えているため、経営的に圧迫されてきている。

【人材確保について】

- ・グループホームは365日にしてほしいというニーズがある。生活介護も重度・医療的ケアの方が多く、医療職も足りていない。
- ・スキルを身に付けていくための育成、定着についても、普段の業務が多く、行き届いたサポートができていない。
- ・子どもも定員が埋まってしまっている。重度、医療的ケア対応は刈谷市で当法人だけであり、自腹を切っている状況。
- ・兼務者も多く、管理者も忙しい。
- ・若い世代を福祉に呼び込むこと。自助努力ではいけない。愛知県、刈谷市は自動車産業があるので、そちらに人材は流れてしまう。福祉は絶対に必要になることである。PRの方法や工夫も福祉法人として考えていく必要があるが、市が先導して若い人を取り込むための取組みをしてほしい。
- ・事業所間でも人材の確保について共有して励まし合っているところである。

【コロナ禍の影響について】

- ・「ひかりワークス鈴の音」は利用を控えた人もいる。
- ・感染症対策を細かく実施しているが、どうやっても介助があり、接触があるので感染に対しては親御さんも不安に感じている。
- ・学校が休校するが、福祉はとめない、となった時期は、出勤する職員のやりくりが大変だった。
- ・子どもがマスクによって新鮮な酸素が吸えないことで阻害がないか、長期的にみると気になる。
- ・顔をみてコミュニケーションができず、伝えたいことが伝わりにくいことがある。子どもの発達に影響がでているのが心配。

【医療的ケアについて】

- ・適切に施策を行うためには、困っている人がどれくらいいるのかを把握して限られたリソースをいれていくことが大切だが、実態の把握ができていない。学校教育課の管轄の医療的ケアの協議会があるが、学齢期の前後の年齢期は把握されていない。
- ・愛知県の部会にも入っているが、実態の把握をしっかりするべきである。

【障害早期発見について】

- ・医療的ケアが必要な子どもは、健診ではなく、病院にかかるため、相談先がない。障害のある子どもの親に声をかける等、相談先につなげることのできるコーディネーターなどがいるとよい。

【相談支援について】

- ・「ひかりのかけ橋」が委託として受けている。
- ・普段の業務が今の人員体制では難しいところもある。
- ・難しいケースは法人の中で対応したりしているが、法人内で完結させるだけでは不十分であり、学校、地域でつながりながらチームワークでやっている。

【総合教育について】

- ・大事なキーワードだが、思ったより進んでいない。地域の幼稚園、保育園に入る子どもが増えているし、発達障害の発生率も高くなっている。また、予算の縦割り、制度の縦割りがあり、中核になるところがない。

【重度の方の住まいについて】

- ・グループホームが増えているが、重度の方の住まいは課題である。
- ・女性棟は月曜日から金曜日にグループホームは対応している。365日の希望があるが、人材的な問題が一番ある。

【情報取得について】

- ・生活介護に放課後等デイサービスから学校卒業後そのまま来る人もいる。情報共有ができておらず、縦割りの情報になっている。
- ・特別支援学校の子どもも受け入れているが、利用者さんへの情報が足りていない。
- ・学校と福祉の連携不足がある。相談員の熱意や力量に左右されることがある。
- ・「サポートブック」の記載の内容にも人によって差がある。
- ・放課後等デイサービスと学校との連携もあるが、学校によっては連携が乏しいところもある。
- ・進路で行き先が変わるときは引継ぎが重要である。

【不足しているサービスについて】

- ・重度向けのグループホームはもっとあってもよい
- ・知的障害、精神障害の方はアパートでも可能だが、重度の方は住宅の改修が必要になる。
- ・短期入所とグループホームが一番問い合わせがある。
- ・刈谷市には「わたし手帳」があるが、あまり浸透していない。学校、事業所、相談それぞれで同じことを親に質問されるので、浸透されるとよい。
- ・BCPではピアサポートの力を発揮することも大切になってくる。経験をもって対応するので丁寧な支援につながる。雇い入れることができる仕組みが大事である。
- ・重度の方が働けるところがない。就労継続支援A、B型でもあまり通えるところがないが、一人暮らしを実践している人もいるので、その道を広げていくことができるとよい。

【他分野との連携について】

- ・福祉・教育など、多分野でつながり合えるとよい。特性等も丁寧に共有できるとよい。
- ・IT×福祉の連携が大切である。利用者さんもタブレットを使っている。必ずどの分野でも重要になるので、企業とコラボレーションしてやるのもよい。

【医療と福祉の連携について】

- ・生まれたときから障害がある場合、家で訪問看護を利用しながら過ごし、幼稚園、保育園の年齢になっても医療と福祉のつながりがないのではないかと。
- ・親にも事業所があることを知ってほしいが、情報が伝わりにくい。

【緊急時の対応について】

- ・重度の方の行き場が不足している状況である。

【施設について】

- ・児童発達支援センターが2か所あるが、ひかりっこは老朽化しており、ニーズがあるので建て替えや統合なども検討してもらいたい。駐車場も狭い。刈谷市にふさわしい形を考える時期になっている。

ク 社会福祉法人 観寿々会

	内容
提供サービス等	施設入所支援、生活介護、短期入所、就労継続支援B型、計画相談支援、共同生活援助
ヒアリング日時	令和5年1月17日 10時～
場所	社会福祉法人 観寿々会 つくし作業所

【新たに実施を予定しているサービスについて】

- ・日中支援型のグループホームを令和6年4月開始に向けて進めている。
- ・ペガサスIの改装をすすめていきたい。入所施設の2人部屋は個室化を進めている。
- ・利用者の方が高齢になったら高齢者施設で対応していく予定。
- ・地域でグループホームをしたいが、経営が成り立っていない。
- ・入所施設と比べるとグループホームは利用料が高い、保護者の負担も増えており、ご家族が移行を希望しない

【不足しているサービスについて】

- ・短期入所が不足している。
- ・移動支援、居宅介護は利用したい時間が集中する。また、土日休みや、時短勤務の職員が増えてきているので、マッチングが難しい。
- ・移動支援が刈谷市は単独利用しかできないが、仲間同士で出かけられるように集団で利用ができるとうい。
- ・入所施設でも移動支援が利用できるとよい。地域移行のためには必要なのではないか。
- ・計画相談は制度上の仕組みから赤字になるので、職員が配置できない。
- ・刈谷市には相談支援事業所が人口に対して4事業所しかなく、少なすぎる。職員の担当件数が多いため、新たに職員を確保したいが、有資格者で経験年数も必要なため、確保が難しい。

【人材確保・資質向上について】

- ・入所施設は、支援困難なケースの方が入所するように、セーフティネットという位置付け。しかし、今までどおりでは、人材確保、育成が難しくなってきたため、地域資源との連携をしたい。
- ・福祉関係の職業の地位が低いのが問題。職員の確保が難しく、人手が少ないため、教育する人に負担がかかり、辞めていき、悪循環になっている。
- ・障害は多様な人がいるので、現場で具体的にどう対応すればよいのか困り、職員も疲れていき、モチベーションが下がっている。

【介護との連携について】

- ・入所者の方も高齢化しているため、介護施設との連携が必要。
- ・親亡き後、成年後見制度を利用すると、特にグループホームの方にとっては本人の自由にならなすぎるようである。権利擁護の在り方も考えていった方がよい。

【学校教育との連携について】

- ・小・中学校から学ぶ機会があるとよい。
- ・学校教育にも福祉の分野の領域が少ないと聞くので連携をとっていきたい。
- ・年に1，2回でもよいので、福祉講座などが開催されるとよい。

【農福連携について】

- ・地域で障害者の受け入れがあまりされていない。
- ・近隣自治体では農福連携に力を入れているので、受け入れてもらっている。刈谷市でも新規の農家さんからは声をかけてもらっており、少し進んでいるが、農福連携を進めていってほしい。
- ・マルシェなど売り場があるとよい。

【防災について】

- ・行政も事業所も実際に災害が起きた時のイメージがついていない。クロストレーニングなど、平時から共同で訓練しておくことが大切である。
- ・自治会、事業所が連携して検討する場が必要である。
- ・福祉避難所に対して、アドバイザーの指導や講習会があるとよい。
- ・障害者が地域に何人いるのか把握されていないのではないかと。相談支援機能のアウトリーチが必要である。
- ・啓発の場がアウトリーチの機能も果たしているのではないかと。啓発の場が活性化すれば、将来の人材不足にも対応できるのではないかと。

【障害理解について】

- ・以前よりサービスが拡充されており、社会保障制度が整ってきている一方、家族の機能が弱まってきている。ご家族のサービス利用の理解が進んでいない。
- ・入所施設に入ると、顔が見えない関係になっている家族が多くなってきている。家族の障害理解が進んでいない。苦情が多く、職員も疲弊している。
- ・家族へサービスの利用にあたって、家族の障害理解、特に入所施設などの実態を把握してもらうことが必要。

【事業所との連携について】

- ・事業所同士でお互いに連携できていない。連携の発想がなくなっている。

ケ 株式会社悠

	内容
提供サービス等	居宅介護、重度訪問介護、同行援護、放課後等デイサービス、児童発達支援、日中一時支援、短期入所
ヒアリング日時	令和5年1月17日 13時～
場所	株式会社悠 ヘルパーステーションなんてん

【新たに実施を予定しているサービスについて】

- ・生活介護、通所など、刈谷市内のバランスをみながら総合的に編成していきたい。

【職員の確保について】

- ・職員の質の向上のための研修が不十分である。コロナ禍などで研修が中止やオンラインになってしまっていた。やはりオンラインより対面の方がよい。

【コロナ禍の影響について】

- ・職員が感染すると事業所を回すのが大変。
- ・消毒などの対策にコストがかかるのと、その対応の業務が大変である。

【不足しているサービスについて】

- ・相談機関が少ない。相談員も事業所も足りていないので、一人で何人も抱えているので十分な相談や支援につなげていない。
- ・市内でのサービスのバランスが悪い。児童や就労関係は低コストで起業しやすい。移動支援や居宅、訪問はもっと需要があるが事業所は減っている。
- ・地域のニーズにあったサービスには助成をするなど、行政と民間で一緒になってやっていきたい。

【地域との連携について】

- ・事業所同士の横のつながりが少なく、連携をとったりすることがない。単体でやっている。
- ・基幹相談支援センターの連絡会では、事業所同士の交流はあるが、課題を共有する程度で、解決策まではいっていない。
- ・地域との交流についてもイメージもわからないほど、交流がない。

【雇用・就労について】

- ・少子高齢化で担い手が減っている。
- ・福祉分野の賃金も低い。福祉分野の雇用のバックアップ体制があるとよい。

【ボランティアについて】

- ・ 学生も大学のカリキュラムの一環として1，2日はボランティアに行くことはあるが、そこからつながることはない。
- ・ ボランティアを募集はしていなかったが、ボランティアに参加することで福祉の啓発の一環となるのではないか。きっかけを増やしていくことで人材も増えていくのではないか。

【障害理解について】

- ・ 差別が未だになくならないので、社会でも障害を当たり前として受け入れてほしい。
- ・ 障害のある子どもと健常の子どもとの地域での交流ができる機会があると、障害理解につながるのではないか。

コ 医療法人 成精会

	内容
提供サービス等	計画相談支援、地域移行支援、地域定着支援、自立訓練（生活訓練）、就労移行支援、就労継続支援B型、地域活動支援センター事業
ヒアリング日時	令和5年1月17日 15時～
場所	医療法人成精会 障害者支援センター

【利用者の確保について】

- ・就労移行支援は刈谷市で事業所が増えてきたので、利用者の確保が難しくなっている。送迎のニーズなどがあるので、送迎サービスがある事業所に流れていってしまう。

【職員の確保について】

- ・相談支援専門員が不足しており、特に経験を積んでいる人材が足りていない。募集しても応募がない。紹介会社に依頼すると費用がかなりかかるので確保が難しい。
- ・労働条件の改善が難しい。
- ・相談支援専門員の事務作業量が多くなってきている。事務作業量の軽減のためには、訪問した際に端末を持って行って入力できるとよいが、ネット環境や個人情報の問題を解決する必要がある。

【コロナ禍の影響について】

- ・地域活動支援センターの行事で料理やお菓子作りはほぼできなくなったり、外出のプログラムでは公共交通機関の利用を控えたりと制限が増えた。

【関係機関との連携について】

- ・医療機関の予約の際、医療機関の一覧があるとよい。
- ・地域活動支援センターで、利用者さんに何かあったときのために、利用者さんの障害等の詳細まで医師から情報提供のシステムがあるとよい。
- ・計画相談の事業所が北部、中部、南部と地域ごとにあるとよい。
- ・ヘルパー事業所が少なく、空きが一覧で見れるようなシステムがあるとよい。今は電話をかけても回線が埋まっていたり、職員が出払っていると連絡がつかないこともある。

【生活支援サービスについて】

- ・グループホームが当事者に伝わっていない。体験できる場所もあることなども知られていない。市全体として啓発が必要。
- ・ショートステイのニーズが変わってきている。にぎやかな場所を好まない人もいる。
- ・ショートステイを相談する際、空き状況がタイムリーにわかると電話して確認する時間がはぶけるとよい。
- ・就労をしていないと賃貸住宅への入居を断られるケースがある。市として入居しやすくできるように不動産業者等に働きかけをする等バックアップをしてほしい。また、事業所で賃貸住宅を探すことも負担が大きい。

【親亡き後について】

- ・相談支援事業所では、目の前の支援で手一杯のため、前もって準備をするという動きはあまりできていない。
- ・刈谷市で高齢と障害の分野で連携し、支援できる仕組みができるとよい。

【地域との交流について】

- ・地域の方をまきこみながら、B型の就労につなげていくきっかけがあるとよい。障害を知っていただく機会、障害の方が地域とつながる機会にもなる。
- ・福祉健康フェスティバルは継続的に開催してほしい。お祭りで利用者がいきいきしている姿がみられるので、そういった機会が増えるとよい。

【障害理解について】

- ・福祉健康フェスティバルは一般市民の参加があまりない。
- ・グループホームの立ちあげの近隣あいさつでも、精神障害への理解のない声があった。

【防災について】

- ・防災部会がなくなったことで情報が入ってこないなので、情報提供をしてほしい。
- ・事業所向けの福祉避難所としての防災訓練、研修があるとよい。特に実際に災害に遭った後の具体的な事業所の事例などがあるとよい。

5 調査票

刈谷市障害者計画・刈谷市障害福祉計画・ 刈谷市障害児福祉計画策定にかかる調査シート

関係団体の皆さまには、日ごろから市政にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

この調査シートは、刈谷市障害者計画及び刈谷市障害福祉計画、刈谷市障害児福祉計画の策定にあたって、障害のある方を取り巻く現状や課題、今後の方向性に関する意向などをお聞きすることで、計画策定の基礎資料とさせていただきます。

大変お忙しい中誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

令和4年11月

刈谷市長 稲垣 武

シートご記入にあたっての注意

1. 各項目に関連する補足資料がございましたら添付をお願いします。(活動内容に関する資料や、障害者福祉に関するご意見等が多くあり、記入スペースに書ききれない場合は、自由な形式で追加していただいております。)
2. この調査シートは、**11月30日(水)までに**、刈谷市福祉総務課までご返送ください。(郵送またはメール)

<お問い合わせ> 刈谷市役所 福祉総務課 担当：佐藤、大野
TEL：(0566) 62-1208 FAX：(0566) 24-3481

団体名	(役職)	(名前)
記入者		
記載年月日	令和4年	月 日

1 貴団体について

・貴団体についてお聞きします。団体の組織の概要などについてわかる範囲でご記入ください。

<p>①貴団体の活動内容について教えてください。 (団体概要・実施している取組みなどについての関連資料の添付でも結構です)</p> <p>○団体概要 (活動の目的・きっかけ、対象者、活動開始時期 等)</p> <p>○実施している取組み</p>
<p>②構成員の状況を教えてください。(令和4年11月1日現在)</p> <p>構成員 () 人 構成員の平均年齢 () 歳くらい</p> <p>③おおよそ5年前に比べ、構成員の人数に変化はありましたか。(○は1つ)</p> <p>1. 大幅に増えた 2. やや増えた 3. ほとんど変わらない 4. やや減った 5. 大幅に減った</p> <p>④現在の活動上の課題は何ですか。(あてはまるものすべてに○)</p> <p>1. 新規メンバーの加入が少ない 2. メンバーに世代などの偏りがある 3. 活動メンバーの専門性が不足している 4. 役員のなり手がいない 5. 会議や活動の場所の確保に苦労する 6. 活動がマンネリ化している 7. 資金が不足している 8. 活動に必要な情報が集まらない 9. 情報発信する場や機会が乏しい 10. 他の団体と交流する機会が乏しい 11. その他 () 12. 特に困ったことはない</p> <p>⑤障害福祉社に関する情報の提供手段として、どういった方法を求めますか。(あてはまるものすべてに○)</p> <p>1. 市のホームページから 2. 市の障害者福祉ガイドから 3. 市の窓口から 4. サービス提供事業所から 5. 講習会や研修から 6. その他 ()</p>

<p>⑥市民や行政に知ってほしい貴団体の取組みやその方法の事例があれば、自由に記入ください。(地域との交流の取組みや、他団体・事業所との連携についてなど)</p>
<p>⑦取組みを深めたい・拡充したい活動を記入ください。</p>
<p>⑧⑦の取組みを進めるにあたって必要な行政支援、市民や地域の協力等があればご記入ください。</p>

2 障害のある方を取り巻く環境などについて

・「障害者差別解消法」は、障害による差別を解消し、誰もが分け隔てなく共生する社会を実現することを目的としており、平成 28 年 4 月 1 日から施行されています。この法律では、「不当な差別的取扱い」を禁止し、「合理的配慮の提供」を求めています。令和3年5月に改正され、公布の日から3年以内に施行されます。

「不当な差別的取扱い」の禁止	正当な理由がないのに、障害を理由として、商品やサービスの提供を拒否したり、制限したり、条件をつけたりすることを「不当な差別的取扱い」として禁止しています。
「合理的配慮」	障害者から何らかの助けを求める意思の表明があった場合、負担になり過ぎない範囲で社会的障壁を取り除くために必要な便宜をすることを「合理的配慮の提供」といいます。行政では義務、民間事業所ではこれまで努力義務とされてきましたが、改正法で法的義務となりました。

①貴団体が活動される中で、地域における障害者に対する差別・偏見、または配慮のなさを感ずることがありますか。(〇は1つ)

1. ある 2. ない 3. わからず

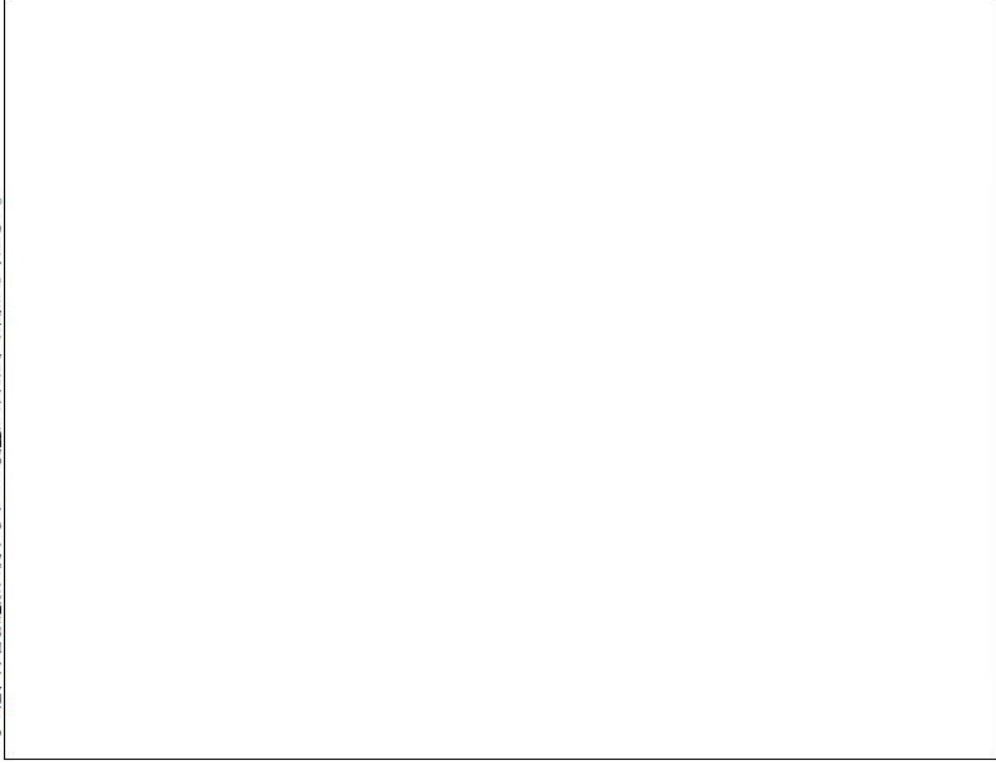
⑩で「1. ある」と答えた方にお聞きします

②どのようなところに、最も強く障害者に対する差別・偏見、または配慮のなさを感ずるか。(主なもの2つまで〇)

1. 仕事や収入 2. 教育の場 3. 人間関係 4. 冠婚葬祭 5. スポーツ・趣味の活動 6. 地区の行事・集まり	7. 街中などでの周囲の視線 8. 店などでの応対・態度 9. 障害者の周囲の人の応対・態度 10. 交通機関の利用 11. その他 ()
--	---

③②でお答えいただいた障害者に対する差別・偏見、または配慮のなさを感ずるところについて、具体的な内容をご記入ください。

・その他、障害者施策に関する市への要望があれば、お聞かせください。



ご協力ありがとうございました。
このシートは、11月30日（水）までにご返送ください。

刈谷市障害者計画・刈谷市障害福祉計画・ 刈谷市障害児福祉計画策定にかかる調査シート

事業所の皆さまには、日ごろから市政にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。
この調査シートは、刈谷市障害者計画及び刈谷市障害福祉計画、刈谷市障害児福祉計画の策定にあたって、障害のある方を取り巻く現状や課題、今後の方向性に関する意向などをお聞きすることで、計画策定の基礎資料とさせていただきます。今後の方向性に関する意向などをお聞きすることで、計画策定の基礎資料とさせていただきます。今後の方向性に関する意向などをお聞きすることで、計画策定の基礎資料とさせていただきます。

大変お忙しい中誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

令和4年11月

刈谷市長 船 垣 武

シートご記入にあたっての注意

1. 各項目に関連する補足資料がございましたら添付をお願いします。(活動内容に関する資料や、障害者福祉に関するご意見等が多くあり、記入スペースに書ききれない場合は、自由な様式で追加していただけてください。)
2. この調査シートは、**11月30日(水)までに**、刈谷市福祉総務課までご返送ください。(郵送またはメール)

<お問い合わせ> 刈谷市役所 福祉総務課 担当：佐藤、大野
TEL：(0566) 62-1208 FAX：(0566) 24-3461

サービス提供事業所名
(法人名)

(役職) _____ (名前)

記入者

記載年月日 令和4年 月 日

1 貴事業所やサービスの提供について

・ サービス提供の状況についてお聞きします。

【サービス一覧】

訪問系サービス

- 1 居宅介護
- 2 重度訪問介護
- 3 同行支援
- 4 行動支援
- 5 重度障害者等包摂支援

日中活動系サービス

- 9 療養介護
- 10 生活介護
- 11 自立訓練 (機能訓練)
- 12 自立訓練 (生活訓練)
- 13 就労移行支援
- 14 就労継続支援 A型
- 15 就労継続支援 B型
- 16 就労定着支援
- 17 短期入所(ショートステイ)

児童福祉サービス

- 21 児童発達支援
- 22 放課後等デイサービス
- 23 障害児等訪問支援
- 24 医療型児童発達支援
- 25 居宅訪問型児童発達支援
- 26 福祉利用児童発達支援
- 27 医療型障害児入所施設
- 28 障害児相談支援

地域生活支援事業

- 29 移動支援事業
- 30 地域活動支援センター事業
- 31 日中一時支援事業
- 32 移動入浴事業
- 33 レスバイト事業

相談支援

- 6 計画相談支援 (一般相談)
- 7 地域移行支援
- 8 地域定着支援

居宅支援系サービス

- 18 自立生活援助
- 19 共同生活援助 (グループホーム)
- 20 施設入所支援

①令和4年11月現在、貴事業所において提供しているサービスと利用者数、そのうちの刈谷市の対象者の人数を教えてください。(サービス名は上記のサービス一覧からお選びいただき、番号を記入ください。)

※複数のサービスを提供している場合、全てのサービスについてご回答ください。

※利用人数は年間平均で1か月の人数を概算でご回答ください。

サービス () 定員数 ()	サービス () 定員数 ()	サービス () 定員数 ()
利用人数 ([内、刈谷市対象者 人])	利用人数 ([内、刈谷市対象者 人])	利用人数 ([内、刈谷市対象者 人])
サービス () 定員数 ()	サービス () 定員数 ()	サービス () 定員数 ()
利用人数 ([内、刈谷市対象者 人])	利用人数 ([内、刈谷市対象者 人])	利用人数 ([内、刈谷市対象者 人])
サービス () 定員数 ()	サービス () 定員数 ()	サービス () 定員数 ()
利用人数 ([内、刈谷市対象者 人])	利用人数 ([内、刈谷市対象者 人])	利用人数 ([内、刈谷市対象者 人])
サービス () 定員数 ()	サービス () 定員数 ()	サービス () 定員数 ()
利用人数 ([内、刈谷市対象者 人])	利用人数 ([内、刈谷市対象者 人])	利用人数 ([内、刈谷市対象者 人])
サービス () 定員数 ()	サービス () 定員数 ()	サービス () 定員数 ()
利用人数 ([内、刈谷市対象者 人])	利用人数 ([内、刈谷市対象者 人])	利用人数 ([内、刈谷市対象者 人])

②今後新たに実施を予定しているサービスと利用定員数、提供開始時期を教えてください。(サービス名は、P2のサービス一覧からお選びいただき、番号を記入ください。)	
サービス ()	予定する定員数 ()
サービスの提供開始時期 () 年 () 月 予定	
サービス ()	予定する定員数 ()
サービスの提供開始時期 () 年 () 月 予定	
サービス ()	予定する定員数 ()
サービスの提供開始時期 () 年 () 月 予定	
サービス ()	予定する定員数 ()
サービスの提供開始時期 () 年 () 月 予定	
③貴事業所においてピアサポート活動に従事する方はいますか。(〇は1つ)	
1. いる	2. いない
④円滑な事業運営を進めていく上で、課題は何ですか。(あてはまるものすべてに〇)	
1. 職員の確保が難しい	8. 行政と連携をとることが難しい
2. 利用者の確保が難しい	9. 労働条件の改善が難しい
3. 事務作業量が多い	10. 給付費がサービス提供コストに十分見合っていない
4. 高齢化への対応やバリアフリー化など施設・設備の改善が難しい	11. 感染症や災害が発生した場合の事業継続に不安がある
5. 障害者関連の制度改正など、必要な情報の入手が難しい	12. その他 ()
6. 職員の資質向上を図ることが難しい	13. 特に問題を感じることはない
7. 利用者や家族のサービス利用に対する理解が進んでいない	
⑤利用者や家族からあげられる相談はどのようなものですか。(あてはまるものすべてに〇)	
1. サービスの利用態に関するもの	7. 他の利用者や従事者との人間関係に関するもの
2. サービスの質 (スキル等) に関するもの	8. 介助者・家族からの虐待など
3. 利用手続きに関するもの	9. その他 ()
4. 職員の態度に関するもの	10. 特に苦情や相談はない
5. 施設・設備に関するもの	
6. 費用負担に関するもの	

⑥利用者や家族からあげられる要望はどのようなものですか。事例があれば、ご自由に記入ください。
⑦市長や行政に知ってほしい貴事業所の取組みやその方法の事例があれば、自由に記入ください。(地域との交流の取組みや、他事業所・団体との連携についてなど)

2 災害時に向けた取組みについて

・貴事業所の災害時の避難支援についてお聞きします。

①事業所が取り組んでいる災害時施策はどれですか。(あてはまるものすべてに〇)
1. サービス利用者の防災意識啓発のための防災訓練や防災教育の実施
2. 災害時のサービス利用者への情報提供・連絡方法の確立
3. 近隣の避難場所の把握及びサービス利用者への周知
4. 福祉避難所の把握及びサービス利用者への周知
5. 避難場所へのサービス利用者の移動手段の確保
6. 災害時に備えた食料、医薬品等の確保
7. 災害時の関係団体との連携体制の確立
8. 業務継続計画や避難計画の策定
9. その他 ()
10. 特にかい
②今後の災害時施策についてのご意見をいただきましたら、お聞かせください。

3 障害のある方を取り巻く環境などについて

・「障害者差別解消法」は、障害による差別を解消し、誰もが分け隔てなく共にする社会を実現することを目的としており、平成 28 年 4 月 1 日から施行されています。この法では、「不当な差別的取扱い」を禁止し、「合理的配慮の提供」を求めています。令和 3 年 5 月に改正され、公布の日から 3 年以内に施行されます。

「不当な差別的取扱い」の禁止	正当な理由がないのに、障害を理由として、商品やサービスの提供を拒否したり、制限したり、条件をつけたりすることを「不当な差別的取扱い」として禁止しています。
「合理的配慮」	障害者から何らかの助けを求める意思の表明があった場合、負担になり過ぎない範囲で社会的障壁を取り除くために必要な便宜をすることを「合理的配慮の提供」といいます。行政では義務、民間事業所ではこれまでで努力義務とされてきましたが、改正法で法的義務となりました。

①貴事業所が活動される中で、地域における障害者に対する差別・偏見、または配慮のなさを感じることがありますか。(○は1つ)

1. ある 2. ない 3. わからない

【Qで「1. ある」と答えた方にお聞きます】

②どのようなところに、最も強く障害者に対する差別・偏見、または配慮のなさを感じますか。(主なものを2つまで○)

1. 仕事や収入	7. 街中などでの周囲の視線
2. 教育の場	8. 店などでの応対・態度
3. 人間関係	9. 障害者の周囲の人の応対・態度
4. 定婚・結婚	10. 交通機関の利用
5. スポーツ・趣味の活動	11. その他 ()
6. 地区の行事・集まり	

③②でお答えいただいた障害者に対する差別・偏見、または配慮のなさを感じるところについて、具体的な内容をご記入ください。

【ここからまた全ての方にお聞きます】

④障害者に対する差別・偏見は、およそ5年前と比較して改善されてきていると思いますか。(○は1つ)

1. かなり改善されている	4. 改善されていない
2. 少しずつ改善されている	5. わからない
3. あまり改善されていない	

・令和 3 年度障害福祉サービス等新編改定により、障害者虐待防止の更なる推進にむけ、事業所において、以下の取組みが令和 4 年 4 月から義務付けられています。

- (1) 職員への研修実施
- (2) 虐待防止のための対策を検討する委員会として虐待防止委員会の設置、委員会での検討結果の職員への周知
- (3) 虐待の防止等のための責任者の設置

⑤貴事業所では、障害者虐待防止のために、具体的にどのような取組みを行っていますか。

⑥障害者が文化芸術、スポーツ、社会活動などに参加するために、貴事業所が取り組んでいることはありますか。

4 今後の障害福祉施策に求めるものについて

- ・障害者を取り巻く現状や身近で感じている課題、刈谷市に希望することなどについて、自由にご記入ください。
- ・すべてにご記入いただく必要はありません。特に気になるところについてご記入ください。

①保健・医療について (健診、訪問指導、障害の早期発見や療育、医療機関・医療体制について、など)
②生活支援サービスについて (障害福祉サービスの提供、住まいの確保について、など)
③相談・情報提供について (相談体制、情報提供、権利擁護について、など)
④障害のある子どもの教育・育成について (保育・療育、特別支援教育、放課後児童対策、障害児虐待対策、障害児虐待の発生、子育て支援の充実について、など)
⑤雇用・就労について (雇用・就労の促進、地域の中の働く場の創出、福祉的就労について、など)
⑥スポーツ・文化芸術活動について (スポーツ・レクリエーション、文化・芸術活動、生涯学習への参加促進について、など)

⑦まちづくりについて (施設・情報のバリアフリー、移動手段、防犯・防災について、など)
⑧障害と障害のある人への理解について (障害への理解促進、地域での交流・ふれあいについて、など)
⑨地域福祉の推進について (ボランティア活動の推進、関係団体との連携について、など)

・その他、障害者施策に関する市への要望があれば、お聞かせください。

ご協力ありがとうございました。
このシートは、11月30日(水)までにご返送ください。

刈谷市障害者計画・刈谷市障害福祉計画
策定にかかるヒアリング調査 結果報告書

令和5年3月発行

発行 刈谷市

調査・編集 福祉健康部 福祉総務課

〒448-8501 愛知県刈谷市東陽町1丁目1番地

T E L : 0566-62-1208